

俘虜ハ何程アリヤ日本軍ハ之ヲ皆殺害シアラサルヤ等ノコトヲ外国新聞記者質問スルカ故ニ適當ニ俘虜ヲ後送セシムル如クセラレ度トノ武官室ノ意向ナルモ第一線ハ到底之ヲ願ル余地ナキヲ以テ目下ノ処第一線ニ一任シアル旨武官室ニ電報ス

原田少將明七日六・〇〇來艦ノ電報アリ

◇九月七日

原田少將ハ・〇〇過來艦、原田少將ハ昨日西村ト懇談、西村ハ軍ノ状況ヲ詳細東京ヘ電報シ且101又ハ109師団ヲ軍ニ増加ノ件ハ多分中央ヲ動カシ得、西村ハ九日朝東京着ノ筈ナレハ其後動カシ得ルカ又ハ絶対動カサレハ原田少將ノ上京ハ無駄、今一步ニテ動ク空氣ヲ見レハ上京ヲ望ムト協議済ミ

上海邦字新聞ハ軍報道部ニテ編輯、漢字新聞モ發行撒布シアリト

飯田大隊ハ昨夜ノ中ニ主力ヲ「トーチカ」東方面ニ移シ本朝八・〇〇ヨリ攻撃開始ノ予定、昨日中ノ死傷百名弱

本朝未明三・〇〇頃「由良」附近ニ爆彈落下水兵二名破片ニテ輕傷、昨夜ハ此爆撃ヲ加ヘ約三時間ヲ間シ「鬼怒」附近及宝山城ニ投下セリ

青津參謀来リ天谷支隊ノ件連絡、宝山西門外ニテハ真ニ銃劍突撃ニテ敵ヲ潰滅、宝山西門附近ハ戰車ト一中隊ニテ一角占領、他ハ3Dニ委ス 約600ノ俘虜ハ最初二、三百白旗ヲ掲ケタルモ其後退却シ来リシ部隊敵対行為ヲセル為撃滅 本日中午浦鎮前面二結内外ニ近迫攻撃準備ヲ為シ明日

公欄外ニ上野旅団前進開始（四大隊ヲ基幹）

細見戰車大隊長 89式39、輕裝21、各中隊10、輕5 大隊段列予ビ9、輕6。彈藥各車二〇

〇ニテ心細シ

河村部隊（少佐）大曲中尉來艦陸軍機試驗飛行ヲ為セリト

裝甲艇黃浦江ニ於テ何カト衝突沈没二名行衛不明ト聞ク

八月中ノ軍ノ死傷二、五〇〇ニ垂タトシ内戰死約六〇〇、幹部比較的多シ

三・三〇頃「由良」ヲ辭シ「ちどり」ニテ商船學校附近ニ横付ケノ瑞穂丸ニ七・〇〇頃移乗

各部ト同船ス

光成參謀来リ飯田大隊ノ戰況ヲ聞ク

工兵小隊長戰死ノ為南方正面ヨリ「クリーク」ヲ渡テ行

フ攻撃ヲ變更セリト。兎モ角成算ヲ立テテ着々実行中、更ニ快報ハ宝山西南方ノ飛行場案外小工

事ニテ良好ナル飛行場タルヘシトノ報告ヲ受ケタルコトナリ、早速明日ニテモ技師ヲ派遣スト

桜井大佐二一四、一五碇泊場ノミナラス六マテ指揮セシメ且軍幕僚亦直接碇泊場部員ニ指示

スル等ノ為不都合モアリ不平モアルヲ以テ桜井大佐ト懇談シタルモ今後ハ不便減少スヘキト、

一旦命令シタルコトナルヲ以テ其儘トスルコトニ決定、尚近ク一碇泊場ハ大シタ用ナキニ至ル

モ將來「クリーク」水運ノ利用、浦東地区上陸増加兵団等モ予想セラレサルニアラサルヲ以テ

当分帰還セシメサル考ナル旨桜井大佐ニ告ク

第六碇泊場ハ優秀ナルカ故ニ桜井大佐ノ細部ニ迄立チ入ル区処ヲ好マス軍直轄ヲ希望シアル

カ如シ、殊ニ部員ニ於テ然リ

船舶班仙頭大尉ト面會將來ノ件等ニ就テ話ス

今日ハ偏北風浪稍高ク川沙口方面荷役困難

軍司令部附近ニ高射砲照空隊ノ外、臼砲ノ一部ヲ以テ浦東地区ノ制圧準備ヲ為サシム

◇九月八日

北支ヨリ10SAノ一大、聯隊段列1/2、AA(乙)三隊転属ノ命令来ル

飯田大隊正面海軍ノ15H12H等アルモ陸戰隊正面ヲ射撃シ直接ノ協同不十分ナルヲ以テ迫撃

砲ノ要求アリ一中隊(12門)ヲ配属ス。又公大飛行場ノ為照空隊一隊ヲ同方面ニ廻ス

一〇・〇〇水産学校跡ノ軍司令部ニ来ル、未タ設備整ハサルモ客船生活ハ第一線ニ対スル氣

戰車第五大隊長 步兵中佐 細見
惟雄²⁵期
89式ハ八九式中戰車ノ意
輕裝・輕ハ輕裝甲車
戰車大隊ハ3ヶ中隊と段列から成
る。

車輕	89	式	輕	計
大隊	中戰	車	裝甲	
本部	3		3	6
1中	9		4	13
2中	9		4	13
3中	9		4	13
段列	9		6	15
計	39		21	60

(戰車大隊編成例)

10SAハ野戰重砲兵第十聯隊(長
長屋朝生中佐)四年式十五榴二
十四門・二ヶ大隊、大隊は三中
隊

AA(乙)ハ野戰高射砲隊。八八式
七ツ野戰高射砲二門編成。(乙)
ハ索引自動車を欠く要地防空
用。

15H、12Hはそれぞれ口径15cm、
12cm榴彈砲

持之ヲ許サス無理ニ移ル

第二野戦化学実験部ヲ隷下ニ入ラシメラル

西原作戦課長3D司令部ニ連絡一一・〇〇頃帰来 29iBハ「クリーク」ノ線ヲ出テタルモ敵ニハネ返サレ更ニ慎重ニ行動シ昨夕ハ予定線ヨリモ進出シ揚行鎮ノ前方一結半乃至二結ノ線ニ出ツ、天谷支隊ト共ニ明日攻撃スト 6i正面西南方ニ張り出シタルモ之又敵ノ抵抗甚シク旧陣地ニ撤退セリ

三艦隊参謀来ル、6D後備六大隊、台湾重藤支隊歩二聯、山砲一大、工兵一中(約四、〇〇人)崇明島占領サレタキ希望ナルモ使用差支ナシ 後備十日頃着、重藤支隊十五日頃着ノ予定、崇明島ハ飛行場ノ設備ニ時間ヲ要ス 上陸地ニ到ル水路甚シク迂廻シ且坐礁ノ懸念多シ、又同島ノ敵兵力不明ノ理由ニテ艦隊側ハ同意シ難シト依テ宝山ノ飛行場ヲ提議シタルトコロ大賛成ニテ本日既ニ技師来リ偵察ス(昨日光成「参謀」ハ非常ニ良シト報告セリ)

一二・一五天谷支隊ノ状況(電話)昨夕予定線ニ出ル能ハス、金家宅ハ未タ占領スルニ至ラス頑強振リ驚クニ堪ヘタリ

六日飯田支隊ノ攻撃ニ於ル戦死傷約百名中ニハ喝病約40名アリト

天谷支隊七日ノ戦死将校2、下士官以下28(?)傷者60余名、尚安達聯隊長ハ勇猛ナリトノ評高シ。11Dヨリ師団ノ状況逐次切迫セルニ拘ラス師団半部ノ兵力ヲ支分スルハ状況ニ適セス、天谷支隊ノ月浦鎮攻撃ニハ尚時日アルモノノ如シ促進サレ度トノ電報来ル 迫撃砲大隊(一中欠)ヲ配属ス(明日ハ使用シ得)

部隊増加ノ正式電報来ル、GD7~10AA(2)。5D3AA(2)。6D后P中隊。11D後備1BA、1~4大隊。7D、5、6大隊。11D、1~4大隊。2D、后P1、2。12D、P1。

独立機関銃第七大隊長平柳中佐来ル

独SAII、西田少佐来ル20~22名「編」成一門六五〇(前車十六発)

III* SAs重永少佐来ル、中隊長一人ノミ現役 他ハ予備、II、III共地図ナシ

30c臼砲中隊長来ルト、中小隊長共重砲校教官、普通ノ「トラック」ニテハ砲彈三発ヲ運ヒ得ルノミ、彈藥車(規定ノ)三十発ヲ運ヒ得ルト

八・〇〇瑞穂丸ニ帰リ次ノ要旨ヲ聞ク 11D報告、七日午後二・〇〇発(二二〇時何分受)

11D正面ニ対シ嘉定南翔ノ15K及羅店鎮周圍ニ著シク増加セル砲兵迫撃砲ニ依リ猛攻我兩翼ニ各一大隊(迫撃砲ヲ有ス)包囲シ来リ掃蕩中 天谷支隊正面(御厨視察報告)金家宅方面(左翼ニ近キ所)ノMG迫撃砲ヲ多数ニ集メ頑強ニ抵抗シ本夕刻漸ク其附近ノ部落ヲ占領シ明日月浦鎮ヲ攻撃ス。

△欄外△ 御厨参謀天谷支隊長ノ所ニテ負傷セル戦車中隊長カ報告セルトコロトシテ同支隊ノ左翼ニ安達聯隊長カ予備隊ヲ以テ進出セル頃右翼ニ五、六百ノ敵迫リ全ク包囲セラレタリト言ヒシモ同夜半ニ連絡セルモ予定相違セルヲ知レリ。

29iB(18ノ二大 34ノ一大 砲三大)揚行鎮ノ前面千乃至千五百ノ線ニ達シ明日攻撃ス、飯田大隊ノ状況不明

11Dヨリ本日午後師団前面ノ状況刻々逼迫スルニ拘ラス云々ノ電報ノ意味ヲ了解シ得タリ 一〇・〇〇ニ飯田大隊ハ軍工路ノ線ニ進出「トーチカ」ニヲ占領セリトノ報告ヲ受ケ一安心(二・〇〇~三・〇〇頃ラシ)

11Dノ為ニ左ノ如ク処置ス 11DニMG大隊ノ一中隊(馬、車ナシ)ヲ川沙口ヨリ直接増加(此案ハ軍司令官ノ氣持ニ依ル)

天谷支隊ニMG大隊(一中欠)ヲ配属、3Dニ電話ニテ揚行鎮ノ攻撃ヲ促進シ11D殊ニ天谷支隊ノ戦況ヲ発展セシム

天谷支隊参謀ニハ電話ニテ意図ヲ伝達ス

◇九月九日

喝病(エツビョウ)熱射病

歩兵第十二聯隊長 安達二十三太 佐22期

GD7~10AA(2)

近衛師団司令部が動員編成を担当した第七ノ第十野戦高射砲隊(各隊2門)の意

6D後P中隊ニ戦闘序列になし。誤記と思われる。

11D後備1BA1~4大隊ニ第十師団後備山砲兵第一中隊、後備歩兵第一ノ第四大隊の意

2D、後P1第二師団後備工兵第一中隊

平柳源五

独立野戦重砲兵第二大隊長 西田茂

独立野戦重砲兵第三大隊長 重永

深

独立攻城重砲兵隊長 砲兵大尉

片島一彦

感 状

飯田支隊

長歩兵第十八聯隊第三大隊長

飯田七郎

歩兵第十八聯隊第三大隊

同 速射砲小隊(一分隊欠)

戦車第五大隊第一中隊第一小

參謀次長ヨリ宝山ノ飛行場ハ根拠地トシテ不十分ナル為重藤支隊ヲ崇明島占領ノ為派遣セルヲ以テ同島飛行場獲得ヲ再考スヘシトノ意味ノ電報來レリ

天谷支隊ニ七日以來コレヲ様患者發生本日決定ノ旨報告ヲ受ク、患者數三十名尚第一線ニ殘存スル疑似患者五十名内外アリト思ハルト、此作戰ニ影響スル処大ナルヲ思ハシム

後備隊ハ歩十六、野砲二中、山砲一中、工兵三中隊カ真ナルカ如キ電報來レリ

3 Dニ12 H一大、渡河材料中隊ヲ配屬ス

△欄外△飯田大隊攻撃ノ時ノ第四陸戰隊ノ協力ハ全ク誠意ナク督促ニ依リ漸ク僅カニ射擊シタルノミ

飯田大隊方面ニ在リシ大西參謀歸來涙ヲ以テ報告 第一日(六日) 大体予定線近クニ進出、河岸ニ上陸セル中隊長戰死、第二日軍工路ノ線ニ進出、大隊歩兵ノ主力河岸ヨリ上陸、軍工路ニ再行シテ攻撃、村落ノ線ヲ占領、第三日中隊ニテ南方二個ノ「トーチカ」占領、第三「トーチカ」ヲ他ノ中隊ニテ攻略セントスル時大逆襲アリテ兩軍手榴彈戰、此日中隊長戰死殘ルハ只南ノ中隊長ノミ大隊長ハ昨夜本部ヲ襲ハレ壯烈ナ戰死、大隊副(官)又之ニ殉ス。3 D遠藤參謀大隊ヲ指揮シ本日第三「トーチカ」ヲ奪取スヘク努力、三日間ノ死傷約二〇〇ノ見込松田海軍參謀飛行場ノコトニテ三艦隊ニ連絡歸來、宝山飛行場ニ直ニ着手一二〇〇人ニテ先ツ使用シ得ル迄ニ三週間、完成迄ニ一ヶ月余、崇明島ハ見込立タス、其頃迄ニハ江灣飛行場ヲ奪取シ得トノ意見ニテ中央ニ打電スル筈 公大ニ本日戰闘機二二 爆撃機一一來リ夜間ハ母艦ヘ歸レルモノハ歸ル 明日アタリ航空隊連絡將校來ル筈

光成參謀ヨリ飯田大隊ニ手榴彈發煙筒ヲ多數急送セラレ度意見具申アリ、3 Dハ34ノ一中M G(2)ヲ飯田大隊ニ増加ス

二・三〇頃カラ瑞穂丸テ軍司令官ニ以上ノ件報告、6 i、重藤支隊ノ用法ニ関連シ後備隊ノ配屬使用法ノ研究ヲ命セラル。尚上流方面ヘノ陽動ニ就キ八戰隊參謀ト打合セヲ為シ四・〇〇過歸來

隊

野砲兵第三聯隊第九中隊

追擊第四大隊第一中隊

工兵第三聯隊第二中隊第二小

隊

獨立工兵第六聯隊第一中隊ノ一部

第三師團通信隊ノ一部

第三師團衛生隊ノ一部

公大北方軍工路付近ノ敵ヲ驅逐シテ公大飛行場ニ於ケル陸海軍飛行隊ノ根拠地ヲ安全ナラシムルコトハ優勢ナル敵ニ對スル上海派遣軍ノ作戰指導上特ニ緊要トセシトロナリ

第三師團飯田支隊ハ九月六日以來之カ攻略ニ任シ堅固ニ陣地ヲ占領セル優勢ナル敵ニ對シ海軍ノ協力下ニ勇戰奮斗スルコト四日此間屢々敵ノ逆襲ニ會ヒ又支隊長以下幹部ノ多數ヲ失フニ至リシモ斗志毫モ屈スルコトナク必勝ノ信念ヲ堅持シテ志氣益々旺盛ニ各隊協力一致遂ニ其任務ヲ達成セリ

其攻撃精神ノ旺盛ニシテ團結ノ鞏固ナル真ニ全軍ノ模範トスルニ足ル

仍テ茲ニ感狀ヲ授与ス

昭和十二年十月

上海派遣軍司令官 松井石根

天谷支隊ハ王家宅、唐家宅、浦夾橋ノ敵ヲ擊退、午後顧家宅、林家宅、碩家宅、真家宅附近ヲ攻撃中(鉄条網アリ)戰車、重砲極メテ有効 藤田部隊王家宅、陶家宅、碩家宅、劉家宅ノ線ニ進出攻撃中。飯田大隊ハ遂ニ最下流トーチカヲ午後四・〇〇占領セリ

3 D參謀長ニ電話ニテ飯田大隊ノ奮戰ヲ謝シ將來共軍工路ノ線ヲ更ニ推進スル意志ナキヤヲ確メタルコロ兵力ニ余裕生スレハ出スト、又29 iBハ明日揚行鎮ヲ攻撃スト

人見大佐、軍イ大尉赤痢トノコトニテ爾後將校ハ己ムヲ得サル者ノ外船ニテ食事スルコトトス

夜一〇・〇〇頃船ニ歸リ各方面ノ概要ヲ司令官ニ報告、司令官モ後備二大隊カ大体11 D方面ニ上陸(軍艦輸送)シタルヲ聞キ非常ニ安心サル 敵ノ屍体各所共放置サレアリ、衛生上モ又人道ニ(中ニハ手ヲ縛シタルママ殺シタルモノモアリト)モ不都合ナレハ焼却又ハ埋葬スル様処置セヨトノコト

軍艦輸送ノ後備I、IIノ件「木曾」一一・〇〇過到着、吳淞ニ上陸。兵站司令官ニ配屬ノ筈

◇九月十日

午前一・〇〇頃左ノコトヲ知ル。9、特13、特101師團ヲ軍ニ増加戰局ノ迅速ナル終局ヲ図ルト本朝更ニ其主ナル附屬部隊ハ15 H旅團、15 K一大、24 H一大ナルコトヲ知ル 直ニ司令官ヲ起シ報告 四・〇〇頃11 D方面ノ後備III、IVハ上陸終リ織田兵站ノI、IIハ本早朝上陸ノコトヲ聞ク午後一・三〇頃天谷支隊及29 iBハ各月浦鎮、揚行鎮ニ向ヒ攻撃中ニシテ着々進歩シアルヲ知ル 次テ大体ニ於テ月浦鎮ヲ占領セルヲ聞ク

北支方面ノ化學戰部隊ヲ上海方面ニ招致ノ密電傍受ヲ転電シ來ル

仏カ南市ノ中立化ヲ提議セルモ反對ノ方針ニテ処置

3 D上野旅團ハ揚行鎮直前迄進出セリ

増兵ニ伴フ作戰方針ニ就キ水産学校ノ司令官室ニテ研究シタルモ司令官ノ意見アリ決定ニ至

15 H旅團は口径15 榴榴彈砲の旅團
15 K 一大は口径15 榴榴加農砲一ヶ大隊

24 H 一大は口径24 榴榴彈砲一ヶ大隊
第八師團第二兵站司令部(長歩兵大佐 織田三郎)

上野勘一郎21期少將指揮の歩兵第
二十九旅團(歩一八・歩三四)

ラス、司令官ハ五師団ヲ以テスルナラハ極限サレタル上海周辺ノ敵ノ掃滅ノミナラス常熟迄ハ押シ込ムル要アリトノ考ヘナルモ軍ノ任務ハ從來ト変リナキコト、及特ニ十月下旬ニハ上海ニ常設一師、特設一師ヲ殘シ北方ニ転進スルコトヲ予期スヘシトノ電報來リ居ルカ故ニ先ツ小規模ニ作戰スルヲ至当トストノ吾々ノ案ニ略同意セラル 公大飛行場占領線推進モ必要ナシト迄言ハレタルモ之又海軍トノ關係、飛行機活動能力ノ点ヲ説明シ大体同意セラレ、只之ヲ如何ナル部隊ニテ行フヤ、又先ツ大場ニ向フヤ南翔ニ向フヤカ研究問題トシテ殘レリ

*日高參事官水産学校ノ司令部ニ司令官ヲ訪フ。夜齋藤顧問ノ支那軍実狀□策ナル論文ヲ読ム

夜半電話ニテ左ノコトヲ分ル、第三飛行団司令部、独飛第四中隊ヲ配属、重藤部隊ハ飛行場獲得ヲ目的トスルモノニテ強ヒテ崇明島ニ限ラス

◇九月十一日〔司令部移転〕

將來偵、重、輕爆各一中隊ヲ増加配備セラルコトヲ顧慮シ飛行場ヲ獲得且揚陸効程増大ノ為成ルヘク占領地域ヲ拡大サレタシトノ電報來ル 台灣軍參謀長ヨリ重藤支隊ノ編制電アリ台歩1(Ⅲ欠)2i(7、Ⅲ欠)1BA、衛生隊第一第二(歩兵約三、六〇〇、BA一二〇)

原田少將ヨリ昨日日出ノ手紙來ル 遺骨ノ件、軍司令官聲明ト共ニ海軍ハ南市ヲ爆撃シタシ、武官ハ差支ナカルヘシト答ヘ置キタリ。浦東ヘノ上陸ハ敵ヲ刺激ス、海軍側モ同意見、時機方考慮ヲ要ス。第三國權益毀損ノ通牒ハ外務海軍共異存ナキモ海軍ハ南京モ考慮シ範圍ヲ広クスルノ希望アリ要スレハ陸海軍共同発表モ可ナラント考フ

公大飛行場昨日ハ陸海軍三〇キ使用、昼間ハ小銃彈少シ來ル、夜ハ數發ノ砲彈來ル、夜間爆撃ハ飛行場附近ニモアリ「出雲」附近ニモ落下。浦東地区ヨリ大連碼頭附近ニ對シ昼間二回(昨日)射撃セリ。露貨物船租界ニ入レリ

貴腰灣海軍基地ハイヨイヨ明日アタリヨリ使用スル如ク發令セリ
發動艇ハ上海鐵工所ニテ修繕シツツアリ

司令官昼食後上陸、本日ヨリ水産学校司令部ニ起居セラル、西原大佐ノ當番「コレラ」ノ疑概要左ノ命令ヲ發セラル 5iB長ノ指揮スル6i(一大欠)、旧飯田支隊(Ⅲ/8i、A一中、迫撃砲一中、工小隊、34ノ一中)、A一中、15H一大、戰車大隊(一中ト一小)、ヲ以テ公大飛行場西方ノ占領線ヲ城東競馬西端ノ線迄推進シ且吳淞ニ至ル軍工路ヲ開放セシム。第二兵站司令官ニ6iノ一大、後歩一大半、A一大(一中欠)ヲ以テ從來6iノ守備セル地区ヲ交代守備。

3Dノ殘部(軍予ビ68二大ノ中一大ハ師団ニ返ス)ハ揚行鎮ヲ奪取シ刘家行、顧家宅ノ線ニ前進

淺間支隊ハ依然月浦鎮奪取後敵線ヲ避ケテ羅店鎮ニ招致スルヤノ問ニ對シ師団ニテハ今ハ斯カル意思ナシトノ返電來ル 天谷支隊方面東南方一小部分ノ敵ノ抵抗頑強ニシテ12i主力カ其南方正面ニ於テ少シク前進シ月浦鎮東端ヲ包囲スル態勢ニ移リタル外變化ナク、3Dノ29iBモ二、三百騎前進シ得タルノミ。11D主力正面ハ毎日二、三十名ノ死傷ヲ出シアリ先日永津聯隊カ夜間敵ノ約一大隊ヲ陣内ニ誘致シ殆ント全滅セシメタル外變化ナシ

重藤支隊ノ參謀藤塚參謀本日夕上海ヨリ軍司令部ニ來リ申告、同支隊ヲ刘家行方面ヨリ羅店鎮ノ敵ノ背後ニ向ハシムヘキヤ11D長ニ屬シ川沙口ニ上陸セシムヘキヤ決定ニ至ラス、之一ニ3Dノ攻撃進捗狀況ニ因ル

夜九・〇〇過光成參謀來リ報告、飯田大隊ハ現在線ヲ固メアルモ尚多少ハ推進ノ力アリ、陸戰隊ハ其左翼ニ連接シ西面ノ陣地ニ推進ス 飛行場ニハ小銃三、四十發砲彈十數發落下逐日増加ノ傾向 飛行場狹キ為本日モ地上ニテ衝突陸軍キ1、海軍キ2破損、大連碼頭及領事館碼頭ニハ浦東地区ヨリ砲撃ス

崇明島飛行場候補地ハ島ノ中央部ニ在ルモ畔多ク作業力大ナリ、宝山西南ノ地ハ3Dノ輜重兵六〇〇ヲ以テ三日位ニテ幅二〇〇、長一〇〇〇ノ飛行場ヲ得 海軍ハ之ニ連接シ作業ス、尚

日高信六郎・南京在勤・大使館參事官

外務省囑託・派遣軍國際法顧問

齋藤良衛(のち滿鉄最高顧問)

獨立飛行第四中隊(長神崎清大尉
36期)九四式偵察機九機

永津佐比重大佐の指揮する歩兵第二十二聯隊

獅子林方面ニ候補地搜索中

戦死傷、藤田部隊九日迄死五八九(将二四)傷一、五三九(六三)、山室部隊八日迄死四八八、傷一、〇〇二、天谷支隊十日迄死一二八(九)、三三五(一九)

◇九月十二日

3 Dノ刘家行顧家宅ノ線進出ハ何日ニナルヤ予察シ得サル現況ニ在ルヲ以テ遺憾ナカラ重藤支隊ハ川沙口ニ上陸11 D長ノ指揮ニ入ルコトニ決定夫々命令セラル野戦砲(工)兵廠、自動車廠ハ昨日、患者輸送部ハ本日上陸完了

上海毎日ニ武官室ヨリ発表スル我戦況ハアマリニ正真正銘ニテ将来ノ企図ヲモ暴露スル虞アリ、又露字新聞ニハ軍司令部カ水産学校ナルコトモ掲載セラレ且軍増加兵団ノコトモアリト云フ、秘密保持ハ困難ナルモノナリ(上村副長ヨリ末藤大佐ヘ注意ノ手紙ヲ出ス)

九・四五受29 iBハ本道北側ニ於テ東部揚行鎮ヲ奪取、南側ニ於テハ西部揚行鎮西端ノ線附近迄追撃前進中

II / 68 i長中島少佐軍予備トナリ来部、三一日吳淞上陸以来五日ニ亘ル戦闘ノ実況ヲ聞ク此間ノ大隊ノ損害戦死一五一? 傷二一五、中隊ニテ最モ減シタルモノハ現在員八〇余名將校ハ大隊ニテ五名、曹長二、軍曹二、三名ト云フ程度ナルモ戦サニ慣レ志気旺盛予備隊タルヲ好マス、「コレラ」ハ三〇名、死亡四名、病死者ハ誠ニ氣ノ毒ナリ

△欄外ニ上海方面ノ総指揮官タリシ張治中ハ後、陳誠来リ其下ニ就クヲ不快ニ思ヒテカ或ハ87、88師大打撃ヲ受ケタル為カ病氣ト称シ上海病院ニ入院指揮ヲ執ラスト云フ

山室部隊左翼ニ於テ歩砲兵各一大隊ヲ以テ敵ノ右翼ヲ衝キ其包囲態勢ヲ解ク、之ト相俟テ天谷隊モ月浦鎮ヲ奪取。3 D共今後ハ比較的容易ニ進展スヘント思ハル。

武官連絡ノ長中佐帰来、謀略ハ遊撃隊司令張天明(江湾附近約二万)日本軍ノ総攻撃ト相呼

応シ寝返リ、無政府主義者ヲ以テ南京要人ノ暗殺ノ二ツヲ着々進メアリ。決戦時機ニハ報道部ハ軍司令部ノ位置ニ在テ宣伝ニ従事ス 午後公大飛行場、軍工路方面ノ攻撃ニ任スヘキ5 iB長

片山少将来リ状況説明、桜井大佐、三艦隊近藤参謀等ト打合セ十五日砲撃、十六日攻撃前進ト予定ヲ定ム

月浦鎮、揚行鎮共攻撃進捗シ天谷支隊ハ月浦鎮ノ西方三三〇位ニ進出セルモ月浦鎮ノ橋梁破壊、砲兵進出シ得サル為修繕中、3 Dハ刘家行東方三三〇位ニ迫ル 敵ノ大場鎮、南翔、嘉定方向ニ退却スルヲ見ル(飛行機)

会戦計画ノ骨子即3、11、101 Dヲ以テ大場鎮及其東西ノ敵ヲ突破スルコトヲ承認サル 但其情況ニ依テハ11 Dヲ以テ直ニ南翔攻撃ヲ実施スル場合ヲ研究シ置クヘントノコトナリ

11 D長ヨリ軍司令部ニ対シ重藤支隊ノ用法ニ関シ次期作戦ヲ徹底セシムル為戦線ノ膠着ヲ虞レ一先ツ後方ニ集結ストノ意見具申アリ之ニ対シ参謀長ヨリ参謀長ヘ司令官ノ意図ハ依然当面ノ敵ヲ撃破スルニ在リ且軍ノ次期作戦ハ九月下旬以降ト予定スル旨返電セリ

好秋日和 夜冷氣相当ノモノ第一線ヲ思ヒヤラル

◇九月十三日

次長ヨリ独飛第四中隊ノ配属ト作戦ニ就キ、広ク西方ニ地歩ヲ求ムルヨリモ南市方面ヲ遮断シ完全ニ上海市ヲ南京ト遮断スルコトニ考慮ヲ求ムトノ電報来ル

総長ヨリ9、101、13 D、*5 S A B、15 S A s、12 P s、3 F M司令部、攻城S Aノ一大、野電ニ中隊、無電七小隊、兵站電信一中其他ノ部隊ヲ隸属セララル

11 D補充各千名十四、十六日ニ多度津発

後備四大、山砲一中、P一中十六日、7 D二大、P二中十七日上海着ノ予定

議院慰問団十三名司令部ニ来ル

一〇・三〇頃錦織偵察將校ノ報告。飯田支隊正面ノ敵ハ昨夜来退却ヲ開始シタルモノノ如ク

5 S A Bニ野戦車砲兵第五族団の
意

3 F Mニ第三飛行団の意

市政府附近敵ヲ見ス、我斥候前進中。江湾鎮ハ火災ニテ視察シ得ス 依テ片山支隊ヲ江上ヨリ虬江方面ニ差遣スルヲ止メ乗船セントスル支隊長ヲ招致 鉄道線路ニ沿フ地区ヨリ済家橋、市政府ノ線ニ前進シ江湾鎮ニ対スル攻撃ヲ準備セシメラル

天谷、浅間支隊ハ11D主力ヨリ出セル大隊ト連繫シ羅店鎮東方約三結ニ迫リ3Dハ刘家行東方約二結ノ敵ニ対シ攻撃準備中 又山室部隊ハ予備隊ヲ以テ敵ノ右側ヲ攻撃スル企図ヲ有ス

片山支隊ハ午後二・三〇後備隊ノ守備線ヲ越ヘ前進ヲ起ス

6、14、15、碇泊場司令部、独工10、6、清水輪卒隊等ハ軍司令官ノ指揮ヲ脱セシメラレタル旨ノ電報來ル 依テ第一船舶輸送司令官ノ業ム代行者ヲ当地ニ派遣セラレ度旨電報ス

片山支隊ハ殆ト抵抗ヲ受クルコトナク所命ノ線ニ進出(電話)、江湾ニハ相当ノ部隊アルラシク其前方各部落ニハ少数ノ敵アリ

夜半相当ノ雨トナリ各所雨漏リ、近クニ銃声盛シナノテ調ヘサセタ所呉松ノ西南、今日交代シタ後備ノ居ル正面、六十名許ノ敵力來タトノコト

◇九月十四日

各部課長毎朝九・〇〇〜一〇・〇〇司令官ニ報告スルコトニ定ム 大体整頓期ニ入りツツアリ「コレラ」モ終熄スルモノ如シ

△欄外△人見大佐全快出務

第二課ノ調査ニ依レハ上海戦場ニ現ハレタル敵ハ35師(確証アルモノノミ)此方面ニ増加シ得ヘキモノ更ニ20師位ナラン

一・〇〇頃重藤支隊長來部、台湾軍ハ本動員ヲ実施中

昨夜飛行機偵察ノ結果ニ依レハ劉河鎮南部ハ火災ヲ起シ或ハ此方面ノ敵後退スルニアラスヤト思ハルト

*独飛10ハ台湾ノ戦闘中隊ニテ94偵察機トハ燃料ヲ異ニス

七・二〇天谷少將ヨリ電話、前面ノ敵ヲ撃退目下追撃中 明日ハ確實ニ羅店鎮刘家行道ニ進出シ得ル見込、死傷及患者八、九〇〇。一段落ツケハ先ツ隔離シ健康診断ヲ厳密ニナシ伝播セサル如ク処置スヘキコト、軍將來ノ作戰ニ就テハ重藤少將ヨリ聞カレ度コトヲ伝フ

伊東部隊(101D)ノ先頭ハ十八日神戸出帆

八・三〇頃敵機襲來周囲ノ高射砲数発射撃

重藤支隊ハ二・三〇頃一大隊ヲ除キ上陸完了、一大隊ハ明早朝ノ予定

◇九月十五日 今日モ細雨

海軍ハ十六日以降大々的ニ南京空爆ヲ行フ外漢口南昌等奥地ヲ攻撃ス 一三日 11D(天谷欠)ノ現有彈藥MG六〇六一四〇、重擲三四八〇、BA榴彈四七〇九、榴霰^{*}二九九〇、尖銳五八六、平射一一三六、曲二七八四 一四日 天谷支隊、BA榴五〇〇、霰四〇〇、15H五〇〇、迫撃砲二九〇〇、MG二一六〇〇、重擲四〇〇、平射三二〇、曲六四〇、手榴彈七〇〇 一一、〇〇頃三艦隊杉山參謀長來部、一・〇〇頃帰ル 11Dヨリ天谷支隊ヘ「コレラ」ノ為当分使用不可能ノ旨通知アリ(「コレラ」ハ150名位(全部ニテ))

コレヲ専門ノ軍イ五名第二防疫部ヲ派遣ス、統帥部ニ於テモ防疫上十分注意スヘシトノ次長電報來ル

3Dハ砲彈殊ニ榴彈欠乏シ現在ノ兵力ヲ以テシテハ刘家行ノ線ヲ突破シ難シトノコト砲兵廠ニモ野砲榴彈ハ三〇〇余ヲ残スノミ

三艦隊參謀長來部、第三課有末砲兵少佐午後到着

今日ハ曇リ時々小雨道路泥濘トナルヲ虞ル 飛行機ハ雲ノ高キ時ヲ利用シ活動ス 嘉定―羅店鎮間及吳淞クリークニ沿フ地区ノ明瞭ナル空中写真ヲ送付シ來ル、其辺到ル処陣地トモ言フヘキ状態

清水静男歩兵少尉の指揮する第五師団第三陸上輪卒隊

在宇品、第一船舶輸送司令官(松田卷平^{15期}中将)は、軍隊区分により中支那碇泊場監部(碇泊場監田尻昌次^{18期}少將)を編成上海に派遣した(飯沼日記九月十八日の項に記事がある)

独立飛行第十中隊(長安部勇雄大尉^{39期})九五式戦闘機十二機

MGは重機関銃
重擲は重擲彈筒
BA榴彈は山砲榴彈
榴霰・霰は榴霰彈
曲は曲射砲

參謀本部作戰課員 有末 次^{31期}

南翔ヨリ呉淞クリーク上流ニ沿ヒ東北方顧家宅南方ニ延ヒ夫レヨリ大場鎮西側ニ至ル線ニモ一連ノ陣地アルコトモ空中写真ニテ知ル

天谷支隊ハ上陸前進開始後平均一日一結ノ速度ヲ以テ羅店鎮東方ニ達シ今尚前面ノ敵ト相對峙ス、以テ敵ノ抵抗振ヲ察スヘシ
有末ノ連絡事項

3ヶ師団増加ハ地形及敵ノ抵抗ニ對スル中央ノ誤判断ノ為ニヨルナリ 十月末ニハ露カ立ツトイフ判断ニ変リナシ。

碇泊場ハ作戰上ノ要求アラハ総長ニ申請又ハ現地ノ協定ニテ実施 帰船ハ内地ノ予想ヨリ五日位遅レアリ

将来ノ作戰ハ案ヲ西原ヨリ武藤宛ニ通知

101 D、攻城砲兵数、24 H 8 門、大坪ヲ砲兵參謀、兵站參謀一名ヲ派遣 SA旅団長内山少將

将来ノ企圖ハ陸軍次官ニハ必要ナシ（次長ヨリ電報モ来レリ）

嘉定攻略ハ中央ニテハ必要ト認メアラス

成、T、中隊ハ希望ナラハ増加ス

崇明島ハ中央ノ認識誤リ撤回ス

八・〇〇、3 Dハ火燒場ヲ占領ノ報告ヲ受ケタル外大ナル変化ナシ（二〇・〇〇）

11 D左翼正面稍敵ヲ圧迫シツアリ

到着予定日 10 F M s 十九日、101 D 二二、二五、軍直二七、二八、S A B 二八、9 D 二九、十月二日、13 D 十月二、四日、軍直十月四、六日

15日3 Dノ戦闘要報ニ射耗彈及殘彈報告アリ

◇九月十六日

午前六・三〇出発上海武官室ニ到リ朝食後海軍武官室ニ本田少將ヲ訪ヒ陸戰隊ニ大河内司令官ヲ尋ネ武田先任參謀ヨリ状況聴取、屋上ヨリ展望、細雨ノ為十分ハ見ヘス 病院ニ陸海軍戰

傷病患者ヲ見舞、西本願寺ニ陸軍將兵ノ遺骨一、四〇〇許リ、東本願寺ニ海軍ノ遺骨數十ヲ詣シ、武官室ニ昼食、帰路兵站病院ヲ見舞フ 丁度百數十ノ傷者入院スル所、四・〇〇頃帰ル有末少佐ノ持參書類ニテ上海派遣軍ノ戦闘序列ヲ知ル 又101 D、3 D補充員等ノ輸送状況ノ通知アリ

第二課ノ情勢判断ニ依レハ上海方面ノ敵ハ直系ノ精銳ヲ主トシ四十四師、尚二十師ハ増加シ得ルコト確實ナルヲ以テ嘉定南翔大場鎮ノ線ニ於テ決戦ヲ求ムルナラント

大曲中尉浦東地区ノ敵情ニ就テ報告ニ来ル 揚子江岸一連ニ2、3線ノ陣地構築中、尚周家宅ヨリ西方黃浦江ニ至ル間北面ノ陣地アリ何レヨリスルモ相当ノ抵抗ヲ予期セサルヘカラス

軍司令官夢物語トシテ太倉マテノ攻撃案ヲ要圖ヲ以テ第一課長ニ示サル

山室部隊左翼ハ馬橋ヲ占領（昨日ノ占領ハ誤報ラシ）其左翼ハ未タ「クリーク」ノ線ニ達セス。天谷隊正面（最左翼）ノ敵ハ五・〇〇頃ヨリ退却開始

3 D正面34 iノ一部ハ火燒場ノ南側ニ於テ少シ進出セリ

吳淞兵站司令官ニ後備歩兵一大隊半ト後備砲兵一中隊（未タ上陸セス）ヲ与ヘ、6 iノ一大ハ片山旅団長ニ返シ、片山隊ヨリ15 H 大、12 H 大、迫撃砲中、及34 iノ一中トM G 一小、及飯田大隊ヲ取り師団長ノ指キ隷下ニ入ルヘキ命令ヲ出サル

◇九月十七日

午前海軍本田武官 信夫顧問等來訪

片山支隊長ヨリ兩側開放サレアリ鉄条網モ出来ス危險ナリトノ電話アリ、消極的退嬰ノ意思戒ムヘシ。然シ將來此正面ハ後備ニ守備セシムルヘキ就キ本日上陸スル後備一大隊ヲ配屬スルコトニ決セラル

野戰重砲兵第五旅団長 内山英太郎
21期

10 F M s は独立飛行第10中隊
S A B は野戰重砲兵旅団

本田忠雄 海兵37期 中国大使館附武官

海軍少將 大川内伝七 海兵37期 上海特別陸戰隊司令官

海軍信夫顧問は海軍大学校教授
（國際法）信夫淳夫

英艦隊長官ヨリ支那側ノ要求ニ依リ英艦船ハ将来黄浦江内鉄道橋上流点燈碇泊スヘキ通告
三艦隊ニ来リ敵ノ空襲ニ対シ注意スヘキ電報ヲ受ク、更ニ研究ノ上拒絶若クハ通告ヲ出ス答
兵站司令官織田大佐右正面毎夜々襲アルニ付キMGヲ配属セラレ度トテ来部
数日前ヨリ海軍飛行艇ハ貴陽灣ニ着水スルニ至レリ 本日101D先遣参謀国武中佐来部、二万
五千ノ図二十部モ到着ス

先般飯田支隊正面ノ敵ヲ退却ヲ報告シタル謀者ノ言ニ依レハ敵ハ十七、十八、十九日ノ三日
間ニ五リ太倉、嘉定、南翔ノ線ニ退却スヘキ蔣ノ命令発セラレタリト、第二線ヨリ直ニ第一線
ニ通報ス 又同時ニ浦東ハ一聯以上ノ力攻アレハ退却スヘシト

有末中佐本日上海武官室ニ行キ明朝出發帰国、之ニ情勢判断、彼我兵力比較、軍将来ノ作戰
ニ関スル意見等ヲ依托スル筈

△欄外△101Dノ編制、大隊長以上ハ現役、歩大隊ニMG4、聯隊ニ平射二、曲射四、三一山砲
三門、中隊幹部ノ現役ハ一、二名、(下士官以上) 兵ハ予備及新年次後備

*4FMsハ天津ヨリ二十七日到着ノ書類来ル

空輸会社ノ定期航空開始ノ為ノ先発者来ル。予定ハ軍ノ許可アリ次第直ニ実施、朝六・〇〇
東京発 二・三〇上海着 三・〇〇出發六・〇〇福岡着、ニテ毎日一回トノコト

十五日迄ノ死傷、山室「死」將二一、下五八五、傷將五四、下一二五九

藤田、死、將二五、下五八三 傷、將七三、下二二二

天谷、死二五〇 傷六三〇

総計概数 戦死、將校五五 下士官以下一三二〇 負傷、將一五〇 下四〇〇〇

今日モ降雨、道路飛行場漸ク泥濘使用困難トナリツツアリ

◇九月十八日

山室部隊ニ当面ノ敵ヲ攻撃シ成ルヘク遠ク羅店鎮西方ニ撃退スヘキヲ命セラル(八月二十六

日羅店鎮占領ノ誤報ノ時「嘉定ヲ攻撃スヘシ」ト命令セルママナルヲ以テ更メテ命令シタルモ
各部長管理部長同時ニ司令官室ニ集リ報告

彈藥甲駄―師団26・7/9、乙輓23・4/9、駄乙―師5・6/10、15H1旅、10K1聯、
29・30/9、催淚筒一万發、發煙小二万24/29/9(發一万) 24/9/4/10、催五〇〇〇發

一万5/12/10、催淚五〇〇〇、緊急増加彈41山砲六、四〇〇、37ミ砲九、〇〇〇、平射歩兵

四、〇〇〇、曲歩一、四〇〇、92式歩兵砲一二、〇〇〇、重擲四八、〇〇〇、野砲一八、〇〇

〇94山砲一八、〇〇〇、15H一〇、〇〇〇、10H六、〇〇〇、12H五、〇〇〇、半數2・3/

10、他ノ半數7・8/10

石井式口水車十月末充足シ得、防毒面(甲、乙)十一月中旬、防毒覆ハ十一月下旬迄ニ充足

シ得ル見込

自動車隊長*森永大佐(同期)、第三飛行団長賀少将、陸戰隊参謀長来部

軍将来ノ北進ニ関スル意見ヲ第一課ト連絡不十分ノ為イザゴザアリ司令官ニ御断リシ善後処

置ヲ為ス 司令官力長ヲ信頼サレ西原ハ長ノ言ヲ重視シナイト云フ所ニモ基因スルト考ヘラル

皇太后陛下ヨリ氷砂糖ヲ下賜セラル

天谷赤痢ノ症状ニテ第一野戰病院(月浦鎮)ニ入院、司令部ノ小出軍イ少佐本日見舞診察、

大体経過順調トノコト(数日ニテ退院スヘシト)

*荻洲中将13D長親任ラシク青津ハ其参謀ラシ

コレヲ患者診察ノ為岡田軍イ中佐以下三名及第二防疫部到着、碇泊場監部ヲ臨時編成シ田尻

少将碇泊場監トシテ本十八日上海着、陸上輸卒隊二、建築輸卒隊一、後備一中増加ノ電報来レ

リ、又台歩二中 山砲一中モ本日到着

天候恢復セリ

二万五千の図は梯尺二万五千分之
一の地図
4FMsは独飛四中隊の誤記と思
われる。

『歩兵第三十四聯隊史』から引用

*戦闘は連日の降雨で陰惨その極に

達し、中国軍必死の大攻勢の前

にわが損害は増大して攻撃は頓

挫し、戦線は膠着状態が続いた。

このように戦況交戦する中で

上海派遣軍司令官松井石根大将

の苦悩は深かった。その模様

を、大将の「出征日誌」から、

うかがうことが出来る。

この日誌は、第一巻(上陸作

戦一カ月間)および第二巻(九

月二十三日(十月三十一日)か

らなり、毎日の天候、各師団の

戦況、作戦指導などが、当時の

「大学ノート」二冊に克明に記

された貴重な資料である。現

在、陸上自衛隊第三十四普通科

連隊(御殿場市板妻駐屯)の資

料館に保存されている。

△南京戦史編集委員注▽一九六四

年現在、残念なことに、この貴

重な「松井日記」八・九・十月

分の所在は不明である。

九月十八日以降の「松井日誌」

を開いてみよう。

九月十八日 朝来小雨尚歇マス

陰鬱極リナシ 重ネテ東天ヲ拝

シテ天候ノ回復ヲ祈念ス

第三師団前面ノ戦況依然変化

ナシ 蓋シ軍ハ当面ノ戦況ヲ發

展セシムル為ノ作戦準備上必要

ナリト認メ昨日既ニ歩砲兵ヲ其

主力方面ニ増シタルモ打テ続ク

天候ノ為カ「第三」師団ノ攻撃

準備未タ成ラス 遂ニ格別ノ進

況ヲ呈スルニ至ラス

第七兵站自動車隊本部長 輜重兵

大佐 森永武雄21期

値賀忠治19期

昭12・9・10 第十三師団長 荻

洲立兵17期

歩兵少佐 青津喜久太郎31期

台歩二中は台湾歩兵聯隊の2ヶ中

隊

◇九月十九日

後備野砲ハ二十七日到着ノ電報来ル

11 D 方面師団主力ハ羅店南方ヨリ又 22 i ノ守備地区ヲ交代セシメラレタル重藤支隊ハ一部ヲ以テ其線ヲ守備シ主力ヲ以テ北方地区ヨリ主力ニ先ダチ本日正午ヨリ攻撃開始ス

11 D ノ補充員一、〇一〇名川沙鎮昨日上陸完了、3 D ノ一、九八五名二十五・六日頃到着スル筈 昨夜午前一・〇〇過揚行鎮東方約3 結ノ野戦病院ニ爆弾二個ヲ投下セリ、損害ナシ、憲兵情報ニ依レハ残留土民信号ヲ為シタリト 海軍ハ本日四十余機ニテ南京空襲、今後連続的行ヲ予定 二・三〇其戦果ノ概要ヲ聞ク 即我戦闘機ニテ射落シタル敵機一三(多分外二機モ撃墜セシナラン) 水上機ノ戦闘結果不明、我爆撃機三未タ帰来セス

△欄外△二十日知り得タル海軍爆撃ノ成果。撃墜確実ナルモノ二五キ、不確実ナルモノ二、被害艦爆(二聯空)三、水上偵察機(川内)一、破損不時着戦闘機六、水偵三 人員ハ無事

(出動機五十一)

一機江陰附近ニ不時着セルモノハ僚機ニテ救ヒ来レリ、本日三・〇〇ヨリ更ニ復行スル筈。佐方少佐武官室ヨリ来リ明日民団長外少数ノ者司令官ニ会ヒタシ 黃浦江内ニ碇泊セル英国汽船ハ危険ナリト通告ニモ退却セス船員等殆ト全部支那人ナリト 共同租界ノ米ノ搬出ニ就キ艦隊長官モ少シ腰砕ケ且総ム部長ヨリ武官宛ニモ便宜ヲ与フル様ノ電報来リアルモ武官室ハ從來通りノ方針ニテ進ムトノコト

後備歩兵二大隊同工兵二中隊上陸完了(之デ後備ハ野砲二中隊テ終リ)

海軍南京襲撃ノ成果 敵機二四撃墜 我損害四機

午後ノ南京襲撃成果 二十機ヲ以テ実施、反撃シ来レル敵八機ノ中五機ヲ撃墜セリ。此成果ハ飯田支隊ニテ公大飛行場ヲ占領セル為ナリ

3 D ハ本日幕僚會議ノ結果三日間休養スルニ決シ、二十日ヨリ攻撃ヲ開始スル予定ナリシ11

D ハ二十三日攻撃開始ニ変更セリ 重藤支隊亦少シ攻撃前進後中止セルモノノ如シ 11 D ノ某中隊ハ三十名ニ減少セルモノアリトノコト

11 D 司令部ハ午後石漣橋ニ移リ天谷支隊ニ続行セル軍電話D 司令部ニ達ス、但通信員ハ「コレヲ」ノ為隔離スト、交代員ヲ出ス筈

黃浦江碇泊ノ英国船ニ対シテハ陸海軍ニテ対岸ヲ射撃シ現実ニ危険ヲ感セシムルコトトス 重藤支隊ハ攻撃ヲ実施シ敵左翼ノ二村落奪取、昨夕浅間隊ハ一村ヲ取り迫撃砲ヲ鹵獲セリ、師団ハ攻撃準備中ト(前記ハ誤リナラン)

◇九月二十日

田尻少將碇泊場監視シテ来部、先ツ来多ニテ五隻分ノ棧橋ヲ作ル考ナリト

「コレヲ」ハ藤田部隊片山支隊ニモ少数ナカラ「ス」発生セリ、天谷支隊モ尚終息ニ至ラス速ニ撲滅ヲ禱ル

11 D 重藤支隊ハ攻撃続行多少ノ成果アリ師団主力ハ攻撃実施ヲ二十一日ニ延期セリ。3 D ハ部隊ノ整理ヲ為ス由

經理部ノ手ニテ在来建物ノ補修ノ外飛行隊倉庫等ノバラック建築ニ着手ス。宝山飛行場ノ作業進捗セス本日ヨリ後備隊ヲ使用スルコトトス

軍囑託、総領事、大使館一等書記官、民団長等来部、大使館ニ対シテハ司令官ヨリ黃浦江碇泊ノ英汽船ノ件、浦東地区外国權益毀損ノ件、南市ニ兵ヲ入ルル場合仏租界等トノ複雑ナル關係等ニ就キ話アリ

武官室ヨリ楠本大佐来リ将来上海市ヲ如何ニスルヤノ準備問題ニ就キ相談アリ大休武官室ニテ立案セシムル考ナリ

一・〇〇頃飛行機ノ報告簡ニ依リ羅店、刘家行正面ヨリ敵ハ疎開シテ後退シツアルノ報告アリ直ニ第一線ニ通報ス

『松井大將日記』

九月十九日 戦況ニ変化ナク昨日敵兵全正面ニ於テ反攻シ来リタルモノヲ撃退セリ 然シ當師団(第三師団)ハ急速ニ前面ノ敵ヲ撃破スルノ氣力ナキモノノ如ク、師団長ヨリハ劉家行ノ占領ヲ督励シツツアルモ意ノ如クナラスト私信アリ 聞ク所ニ依レハ當師団ハ幕僚會議ノ結果二、三日間攻撃ヲ見合ハス事ニ決シタリト 此方面ノ攻撃ハ新タニ補充ノ到着ノ上ナラデハ実行困難ナラスヤト思ハル 其正面広ク然モ兵力ハ薄弱ナリ 是亦余儀ナキ次第ナリ今日ハ東京出発以來一ヶ月ノ記念日ナリ一句ナカルヘカラス 即曰ク荏戦陣不顧生還一死固期報君国躊躇素斷帷幕臣祈無辱皇軍威武(歩三四史より引用)

騎兵少佐 佐方繁木 32 期

『松井大將日記』

九月二十日 午後二時ニ至リ飛行偵察ノ結果ニ依レハ此朝ヨリ當師団前面ノ敵兵一斉ニ退却シツツアルヲ知り當師団(第三師団)ニ命スルニ追撃ヲ以テシ廣福(劉家行西方約三キロ)陳家行(廣福東方約三キロ)ノ線ニ進出シ有力ナル一部ヲ以テ蕪藻浜南側地区ニ進出セシメタル後大場鎮ニ対スル攻撃ヲ準備セシムル事トセルモ同日當師団直前ノ敵ハ依然陣地ヲ固守シテ追撃ニ就ク事ヲ得ズ

九月二十一日(追撃命令ノ失敗) 天氣又晴レ来ラス時々暗雲来リテ明月ヲ覆フ 實際江南ノ現情其儘ナリ憂悶ニ耐ヘス 戦況進展セス 要之昨日飛行機偵察ニヨル敵軍退却ノ報ハ真実ニアラス 當師団前面ノ敵軍未タ動揺ノ色ナク當師団長ニ攻撃ヲ督励シタルモ何分連日ノ疲勞ト多分ノ愠氣トニ依リ戦況進展セサルハ遺憾ナリ 今後補充部隊ノ来着ヲ俟タサレハ其直前敵兵ノ突破モ不可能ナラスヤト思ハル 當軍トシテ輕率追撃ヲ命シ而モ遠ク西方ニ目標ヲ与ヘタルハ不明ノ至今後十分注意ヲ

武官室ヨリ、ソ国ノ対支援助、共產軍強化、軍需品及技術者供給（約一億）、参本及外支部ニ連絡者ヲ出ス。外蒙、バミール、蘭州ニ飛行学校ヲ創設ス

関東軍ノ右翼兵团（東条、板垣）ノ一部ハ太原附近ノ殘敵ヲ掃蕩中、又陸軍機ハ太原ニ行ク途中敵機ニ遭遇、八機ヲ落ス。我損害偵一

武官情報ニ依レハ支那ハ南市ヲ一時仏租界トセントシテ工作中ナレリ、速ニ之ヲ爆撃スルヲ可トスト報告シ来ル

四・〇〇〇過我三機ニテ監視中ナリシトコロ敵ハ全線真ノ第一線ヲ殘シ退却シ嘉定東側「クリク」ノ線ニ向ヒ退却中ナルモノノ如キヲ知ル

海軍南京攻撃、正午頃十六機ニテ参謀本部、国民政府等爆撃、一機ヲ失フ、敵機反撃セス午後一・〇〇頃約四十機ニテ再度飛行場其他、敵機四ヲ撃墜。南市ヲ爆撃ノ件ハ司令官ノ意見ニテ中止ス

東京出発一月記念有感、石根、幕僚諸賢一祭

莅戦陣不願生還 一死因期報君国

脚蹠未断帷幕臣 祈無辱皇軍威武

二神参謀片山支隊ニ連絡、其左翼及兵站司令官隷下ノ左翼ハ各々前方部落ニ進出、片山支隊正面江湾ハ固守シアルカ如キモ出撃ノ心配ナドナク参謀ノ判断ニテハ後備ニテ十分ナリト

◇九月二十一日 今日又小雨

宝山飛行場ハ後備大隊ヲシテ作業ヲ行ハシム 16 D陸上輸卒隊三隊ヲ二十三日到着スル如ク輸送スル旨電報来ル 市政府附近ノ飛行場ハ土質悪ク王浜飛行場ヲ先ツ整備スルコトトス

コレヲ様患者ハ三百余名内菌ヲ検索シタル者百名、死亡者九十名 宝山ノ予備病院ノ設備殊ニ看護力不足ナル為後備隊ニテ小学校ヲ整頓スルコト川沙鎮方面ヨリ約五十名ノ看護兵ヲ増員スルコト、内地ヨリ約三百名ヲ増加方申請ノ手續ヲトル等ノ処置ヲ講ス

11 Dヨリ、重藤支隊ハ一部ヲ以テ蘇村ノ敵ヲ監視セシメ右翼隊ノ主力ヲ左翼隊ノ左ニ転用、今朝六・三〇ヨリ老丹宅、新丹宅ノ敵攻撃、D主力ハ八・三〇ヨリ砲撃、九・〇〇攻撃前進開始、敵第一線ハ陣地ヲ増強、目下敵ノ山砲ヲシキモノ十数門盛ニ射撃中ナリ

第一線大坪、第三課北野参謀着任

昨日ノ戦闘ニ於ケル重藤支隊ノ損害、死、将校三、准以下六〇余、傷、将八准以下一二〇余

◇欄外◇大体午前午後曇

黄浦江内ニ碇泊シタル英汽船威嚇ノ為水雷艇テ大場鎮ヲ射撃、我迫撃砲ニテ英船近クニ数發落下セシメタルニ二隻ハ直ニ拔錨上流ニ逃ケ他ノ一隻ハ故障ノ為カ動カス、更ニ警告ヲ發スル管海軍近藤参謀来リ浦東地区出兵ヲ希望シタルハ主トシテ公大飛行場ノ為ナリシト、近來ハ浦東ヨリ射撃セサルニ依リ陸軍部隊ハ主決戦方面ニ使用セラレ度、最初ノ海軍トノ約束ニ拘束セラレサルコトヲ望ムト長官ノ意圖ヲ伝ヘラル

本日ハ敵ノ第一線尚頑強ニ抵抗シ11 D正面ニテ多少ノ進展ヲ見タル他変化ナシ（3 Dハ砲撃ノミニテ攻撃前進セス）

11 D補充員上陸終リ之ニテ最初ノモノ約二千ハ補充サル

11 Dモ志氣旺盛、西原課長ノ連絡シタル結果山砲彈残り少キニ依リ補充サレタシトノコトニテ四、〇〇〇〇送付ス 小銃彈ハ月浦鎮ニ集積シアルモ取りニ来ラス

◇九月二十二日

昨夜3 D正面ニ砲声盛ナリシハ敵砲兵ノ射撃ナリ、11 D正面又活潑ニ射撃ヲ受ク（一時間ニ百發位五・〇〇迄連続ト云フ）

101 D長伊東中將及幕僚来部

3 D攻撃計画来ル 本二十二日ヲ第一日トシ攻撃築城ニ依リ逐次推進、第四日ニ刘家行ヲ占領、其後復更ニ顧家宅附近ヲ攻略スト

要スルモノト認ム 事実昨日予モ幾分ノ危惧ナキニアラサリシモ一面當師團激勵ノ心持モアリテ之ヲ採用發令シタルハ予ノ不明ノ致ス所ナリ（歩三四史より引用）

来多ハはしけ

『松井大將日記』より

九月二十二日 天氣尚明朗ナラス時々小雨アリ焦躁ノ念ヲ禁セス

第三師團ハ綿密ナル計画ニ依リ今後五日間ニ俊リ連統一歩ツ敵ヲ駆逐シテ劉家行、顧家宅ノ線ニ進出スルニ決シ本日ヨリ攻撃開始ニ着手セルモ戦線ハ概シテ変化ナク曩ニ金家灣ハ敵ノ回復攻撃ニ依リ一時之ヲ喪失セシ部分ヲ奪還セシニ過キス

回顧スレハ今日ハ予等先月軍艦足柄ニ在リテ馬鞍群島ニ到着シ上陸作戰ヲ練リシ日ナリ爾來一ヶ月軍ハ血戰苦闘能ク現在ノ地歩ヲ江南ノ一角ニ占有シタリ目下當師團ハ敵ト近ク相応峙シアリ一ヶ月間日夜連続攻撃ヲ敢行シ来リツツアリテ為メニ本日迄ノ當師團ノ死傷ハ六千ヲ越ヘ各種ノ病兵亦一千ニ垂ントシ多大ノ犠牲ノ下ニ能ク今後ノ攻撃ヲ準備シツツアリ

戦況必スシモ樂觀ヲ許サス殊ニ當師團ハ補充兵未着ノ為メ某々中隊ノ如キハ伍長ノ指揮スル四、五十名ニ過キサルモノアリ 戦況自然膠着セルハ已ムヲ得サル処ナリ 偶軍ノ増加部隊

11 D 正面多少進進出ス。重藤支隊ハ第一日ニ二〇〇許リノ死傷ヲ出シ後続ノ歩砲兵若干ヲ加ヘタルモ更ニ相当ノ損害ヲ受ケタル為カ旧22 i ノ陣地ニ移動ストノ電話アリタリ

11 D 右翼隊(22 i B)ノ部隊ハ巽家宅、南部周家宅ヲ夜襲奪取

△欄外△18 i ハ聯隊長大隊長一傷ヲ包ミテ指揮シアル外上長官ナシ 其中隊ハ伍長以下七、八十名ノモノニアリト

3 D ハ本日殆ト成果ナシ、極メテ小ナル部落ノ半部ヲ奪取、他ノ半部ハ尚敵頑強ニ抵抗シアル個処四ツモアリ 金家宅我三〇名許リ数日前ニ奪取セルモ敵ノ大逆襲ヲ受ケ全滅シタルモノ如ク敵ノ有ニ帰セリ 3 D ノ左翼ハ輻重ヲ以テ約二千名ノ間ヲ守備シアリ

11 D ハ右翼隊正面ニテ少シ進歩シ約二〇名ノ「クリーク」前面ニ到達、本夜渡河設備ヲナシ明日ハ羅店鎮―刘家行道ニ進出スル意気込ニテ攻撃中

海軍ノ広東空襲第一次30キ、格納庫三破砕、燃料庫火災、飛行キ2爆破、10撃墜、被害ナシ第二次15キ、格納庫爆破三、飛行キ爆破5、撃墜5、損害飛行機一、人員異状ナシ

◇九月二十三日

後備隊モヤハリ第一線ニ出シテクレトセガミ或ハ守備隊ヲ前方ニ推進シ又ハ敵ノ一部ヲ撃退スル等相当ノ戦意アルハ嬉シ

桜井大佐14碇泊場司令官ヲ免セラレ本日出發ノ挨拶ニ来ル、後任ハ飯島重助大佐(予備)(出發ハ尚後日ニテ後任者モ尚到着セス)

金原少佐3 D 正面ニ行キ昨夜一〇・三〇分頃敵ヨリ射撃シタル彈丸ニ就キ調査、瓦斯彈ヲシ。爆彈小形、連続二〇発ノ射撃ヲ受ク、石鹼臭アリ(Ⅲ/3A)ノ三点ヨリ判断ス

片山支隊ノ交代ニ関連シ10 D ノ用法ニ就キ研究

後備隊ノ一部ハ昨夜八・〇〇頃國ノ如ククリークニ囲マレタル中ニ在ル少数ノ敵ヲ攻撃スル為敵岸ノ民船二ヲ引キ寄せ渡河シ之ヲ撃退、更ニ附近ノ民船ヲ集メ後方連絡路ヲ作りタリト

昨夜鉄道棧橋西方後備守区域ニ対シ二百許リノ敵攻撃シ来リ負傷二ヲ出セリ 此敵ノ銃声ニ上陸セル149 i ハ(約二千米ヲ隔ツ)乱射ヲ為シ前方ニ在リシ前記後備隊ハ甚シキ危険ヲ感シタリ、幸ニ死傷ナシ

重藤支隊長ヨリ伝令ニテ手紙持参、山室部隊主力ノ攻撃ヲ容易ナラシムル目的ヲ以テ羅店―劉河道西方ノ敵陣地ヲ奪取シ、同道西方約二千名ノ線ニ進出ノ企圖ヲ有スト、尚十八日以来何等ノ師団命令ヲ受ケス、心苦シキ次第、何卒軍直轄トシテ使用セラレ度ト衷情ヲ訴ヘアリ、六ヶ敷モノナリ

11 D ハ工兵ニテ坑道ヲ作り羅店南方二条実線道路西側ノ無名部落ヲ爆破占領、之ニ伴ヒ右翼隊ハ概ネ同道路ノ線ニ進出セリ

3 D ハ金家灣蕭里ヲ占領、此時広東兵11名投降セリ

迫撃砲隊ノ後備兵平生ヨリ戦友ニ馬鹿ニサレアリシ処、九月六日(七日)宝山附近ニテ中(小?)隊長ノ水筒ニ湯ヲ入ルル際此兵ニハ分配サレス、斯クテハ第一線ニ勤ムシ難シト逃亡、武装ヲ脱シ揚子江ニ入りタルモ死ニキレス工兵伍長ニ救助サレタル者アリ、敵前逃亡トシテ起訴 尚外ニ上陸直後戦場ノ光景ヲ見、恐ロシサニ銃剣ニテ自傷シタル後備兵アリ目下取調中トノコト

武官室情報、空ニハソ国操縦者アリ地上ニハ独乙軍人指導シアリ、乍浦ヨリ蘇州ニ至ル防禦線(支那人ハ之ヲヒンデンブルグライント称シアリ)ハ独乙教官ノ指導ニ依ルト

山室部隊ヨリ部隊及個人数通、藤田部隊ヨリ飯田支隊ノ感状申請来ル

今日モ曇リ時々小雨、速ニ天候恢復ヲ禱ル

将来ノ為ノ意見

軍司令部ノ動員ハ師団ノ動員ニ先ダチ令セラルルヲ便トス。殊ニ上陸作戰ヲ企圖スル場合ニ於テ然リ

軍司令部ノ書記ハ近在師団ヨリ急速ニ若干名到着スル如ク区処スルヲ要ス

ノ先陣トシテ本日第百一師団ノ上陸ヲ見ルニ至レルハ欣快之ニ過クルモノナシ 尚後続兵団及軍直屬重砲兵旅団 飛行中隊ナト続イテ到着シ概ネ十月五日迄ニ戦列諸隊ノ諸隊ノ上陸ヲ終了スル予定ナレハ軍ハ此頃ヨリ全面の一挙攻撃ヲ開始シ得ルモノト鶴首其日ノ来着ヲ俟ツ 一日千秋ノ思深シ

九月二十三日 本日霖雨尚霽

時々小雨アリ陰鬱極リナシ

師団ハ昨日来攻撃準備ヲ整ヘ攻撃ヲ開始シ中央方面ニ於テ蕭里ヲ占領シ捕虜十余名ヲ得タルモ尚他ノ正面ハ戦況何等ノ進展ヲ見ス

(歩三四史より引用)

第百一師団長 伊東政喜^{まさよし}14期

飯田支隊に授与された感状 九月九日下段

參謀本部ヨリノ交付書類ハ手廻シヲ良クシ動員第一日ニ全部取り揃ヘ手交スルノ要アリ 今
回ノ如ク司令部ノ動員遅レ且書類ノ交付不十分ニテハ必要ノ書類スラ全部ヲ読ム時間ナシ 又
緊急ノ書類ハ出来ル限り簡潔ニシ短時間ニ要点ヲ知り得ル如ク要項ヲ記述シタルモノト之ニ関
スル参考的ノモノトニ区分編纂スル必要アラシ

先遣隊ニハ彈藥、特殊彈ノ裝備ヲ十分ニスル要アリ

通信連絡ノ裝備不十分ニテ不自由セリ

病院船ハ作戰初期ニ泊地附近ニ廻送スル要アリ、殊ニ今回ノ如ク上陸後直ニ相当ノ死傷ヲ生
スル場合ニ於テ然リ

将来ハ先遣隊ト雖若干ノ高射砲 相当數ノ輕易ナル高射機関銃ヲ裝備スルコト肝要ナリ

高射砲ハ40mm程度ノモノヲ多數裝備スルヲ可トセスヤ

給水、搬水、瀝水ノ輕易ナル裝備ヲ必要トス

本日未明輸送船三隻入港、11D騎兵中隊、輜重中隊、馬30、工兵中隊、高射砲四門、応急動
員殘置人員等ナルモ其揚陸ハ如何ナル情態ニナルカ未タ不明(午後一・〇〇)

陸戰隊ノ戰車、輕裝甲車ヲ黃浦江岸ノ道路ニ依リ鐵道棧橋ニ招致ノ件艦隊兼任大西參謀ニ下
協議セシム

二十八日既ニ大量ノ揮発油(飛行中隊ニケ月分)建築材料ノ多量等戰況及揚陸狀況ニ適セサル
多數ノ荷物ヲ搭載セル船ヲ入港セシメタリ 其地ノ狀況及予想戰況ニ応スル如クスルノ要アリ
北支軍ヨリ軋屬セシメラルル獨立飛行中隊ハ二十三日積込天津発ノ予定ナリシコロ二十九
日尚出帆報告ナシ

兵站ニ後備隊ノ配屬ナキモ國民拳テ抗日意識ニ燃ユル現況ニ於テハ是非必要ナリ

山砲、聯隊砲ノ彈藥兩者融通使用シ得サルハ甚タ不便ナリ

地圖ノ準備不十分、軍直部隊、SAs II IIIノ如キ一部モナシ

通信力殊ニ暗号掛リヲ十分ニスル必要アリ(陸海協同作戰ニ於テ殊ニ)

聯隊附中少佐ヲ必要トス

武官室ニハ作戰兵要地誌調査専門ノ地味ナル人物ヲ置クコト

會戰ニ至ル迄ノ準備、戰鬪ノ為一會戰分ノ彈藥ヲ前送スルコト

毎週火金正午 馬鞍群島發

◇九月二十四日

會報時長中佐ヨリ(昨日武官室ニ行キ連絡)參謀ノミニ

遊撃隊ハ目下大場〔鎮〕南方地区ニ在リ時機方法ヲ定ムレハ確實ニ寢返ル。白崇禧トハ連絡
ハトレタルモ此方ハ今急ニ処断シ得ス、将来南京クーデターニテモ実行セシム

101Dハ103聯隊(一大欠)、A一中、後備A一中ヲ以テ片山支隊ト交代、他ノ主力ヲ以テ吳淞
クリーク北岸地区ヲ二十五日以後成ルヘク速カニ前進、吳淞「クリーク」ノ渡河ヲ準備スヘキ
命令ヲ出ス

艦船班鈴木中佐、防備課鎌田中佐來部、棧橋及十ツ放送局(陸軍ニテ作ル)ノ件

氣球第三中隊二十八日到着ノ旨電報アリ(二十七日乗船ニ變更25/9)

11Dハ羅店―刘家道ヲ越ヘテ右翼方面ハ相當進出、左翼ハ少シ前進、3Dハ依然タリ

原田少将午前來部、軍司令官声明改正ノ件、楊樹浦米搬出制限ノ件、之ニ関連シ此地区ノ交
通禁止区域擴張ノ件、同成大学ノ井戸水揚ケノ件、謀略ノ件、等話アリ。南市ヲ仏租界ニ管理
セシムル件ハ出処甚タ疑ハシク未タ事實ト認メ難キコトノ話モアリ。新二軍司令部附トナリシ
人々続々到着、豊教ノ大島少佐18i大隊長トシテ着任ス

◇九月二十五日

11Dノ右翼ハ最初師団ノ目標トシタル線ニ進出、左翼ハ略最初ノ線ニ在リ、重藤支隊ハ略目
標線ト同線ニ出ル 參謀長ヨリ將來師団ハ更ニ北方ニ通路ヲ作り師団及後備歩兵一大隊ヲ以テ

陸戰隊の戰車
當時、海軍陸戰隊も陸軍と同型の
の戰車を裝備していた。

独立氣球第三中隊
神吉武吉28期
長砲兵少佐

転進、重藤支隊及後備一大隊ヲ羅店附近ニ残置シ度ト（随分虫ノ良キ言ヒ分ナリ）

会報後司令官ヨリ幕僚（課長以上ニ）注意アリ 太倉―松江ノ線ヲ目標トシ作戰スル考ヘニ一貫シテ計画セサルヘカラス、從テ11D重藤支隊ハ羅店ヨリ嘉定ニ向ハシムルヲ可トスル考ナリ 軍幕僚カ第一線ニ連絡ニ行クハ極メテ必要ナルコトナルモ司令官ノ決定セサル一私案ヲ輕タニ口外スルハ慎マサルヘカラス

目下大場附近ニ在ル部隊ノ寝返リ方法時期ニ就テ概要ノ考ヘヲ司令官ニ申上ケ大体ニ於テ意見ノ一致ヲ見タルモ尚推移ヲ見研究ヲ要ス

敵機珍ラシク本日朝來襲、鉄道棧橋附近兵站地ヘ爆彈ヲ投下セリト

重藤支隊充足人馬ハ三日到着ノ予定

戰況少シ進ミタルノミ 桜井大佐、田尻少將ヲ主賓トシ東京ヨリ來レル鈴木、鎌田中佐ヲ加ヘ司令官モ出席サレテ晚餐ヲ共ニス

本日ヨリ天候恢復スヘシ 101Dノ行動開始時期ニテ之モ天祐

◇九月二十六日

博義王殿下「島風」ニテ黄浦江上流郵船碼頭附近ニ成ラセラレ折悪シク浦東地区ヨリスル敵ノ迫撃砲彈一命中左掌ニ御負傷遊ハサレタリト、尚御附武官其他負傷アリ

山室部隊長ヨリ意見具申トシテ重藤支隊ヲ羅店附近ニ残置シ師団ハ南方ニ向ハシメラレタシト

意見具申ニ就テ多少軍ノ考ト相違スル処アル如ク感セラレ參謀長電話ニテ話シタル結果大体一致シアルヲ知ル、但大場攻撃ニハ仮令一聯隊位残置スルモ師団主力ヲ其方ニ使用セラレ度シト

楠本大佐連絡ニ來リ交通遮断後モ米ハ水路ヨリ搬出サルルヲ条件トシ陸路約20台ヲ許可スルコトトシテ交渉スルコトトセリ

再ヒ來リ從來河ヨリ運ヒシモノハ一五〇〇〇〜三〇〇〇ピクルナルヲ以テ今少シ緩和サレ度希望アリ、大体30台ヲ限度トシ交通状態ヲ考慮シ多少ノ増減ヲ為スコトトス 又軍ノ必要ニ際シテハ交通ヲ若干日禁止スル筈 江上搬出ハ絶対ニ為ササル様約束セシム、又支那軍隊ニハ絶対ニ渡ササル如キ一札ヲ取ル

攻城重砲、15H、迫撃砲等上陸、迫撃砲ハ近歩ニニテ編成加藤中佐大隊長、石井少尉副官、板倉モ來リアリト

夜谷川大佐（片山支隊ト交代スヘキ）來部

本日ハ兩師団共右翼方面ハ相当ニ進捗ス

3Dノ補充員約二〇〇〇人到着セリ

一〇・〇〇頃101D遠藤參謀來部、101Dハ二十八日ヨリ攻撃開始、三十日ニハ顧家宅ノ線ニ進出スル予定

◇九月二十七日

起床前ニ149i山砲隊長村上少佐來リ泥濘ニテ人力ニテハ動シ難キヲ以テ、牽引自動車ニテモトノ申出ニ對シ軍大行李ノ馬ヲ貸スコトトシハ・〇〇頃準備終リ出発ス

3Dハ本末明無電台ヲ占領ス 重藤支隊ノ情況二、三日師団ニ問ヒ合セテモ不明トノコトナリシカ昨夜更ニ要求シタル結果、大体羅店―劉河道ノ西方一結半位ノ線ヲ防守シアルヲ知ル、後備隊ヲ合シ正面十結余

吉住第九師団長幕僚ト共ニ來部

八月四日〜十七日ニ至ル天谷支隊ノ死傷數、戦死 將校一三、准以下四八三、戦傷 將校三八、准以下九五〇、戦死傷合計一四八四、平病五〇六、コレラ二〇六、計七一二、損害總計二一九六。

9DMG小隊長賀谷少尉來訪。南雲海軍少將來部、吉野義美独工隊長

軍令部總長 伏見宮博恭王の第一

子 第三驅逐隊司令 海軍中佐 海兵

45期

『歩兵第三十四聯隊史』より

これよりさき、九月二十二日、呉松付近に上陸を始めた後統第一師団は、第三師団の左翼へ進出するよう軍命令を受けていた。

歴戦、第三師団の苦戦を思いやる松井軍司令官は、第一師団の攻撃開始のおくれを厳しく指摘した。九月二十六日の松井日誌を繰ってみよう。

……当師団ハ三十日早朝ヨリ攻撃開始ノ希望ナリシモノヲ第

三師団ノ苦戦ヲ救ヒ且軍爾後ノ作戰ヲ準備スル為第一師団ノ過度ナル慎重の態度ニ満足セス其意ヲ師団參謀長ニ含メテ攻撃開始ヲ促進セシメタリ 蓋シ軍一般ノ戦況殊ニ第三師団苦戦ノ情勢ヨリセハ第一師団ハ寧ロ上陸完了ヲ俟タス迅速ニ前進スヘキモノナレ共其特設師団ナルニ艦ミ暫ク時日ヲ与ヘテ師団ノ集結完了爾後ノ作戰行動ヲ準備セシメタルモノナルニ師団ハ此甘言ニ乘リ吞氣ニ構ヘ自己ノ都合ノミヲ思ヒ第三師団ニ對スル思ヒヤリノ足ラサルハ遺憾ナルヲ以テ叱リ督勵シタル次第ナリ

迫撃第一大隊長 歩兵中佐 加藤正次

独立工兵第十二聯隊長 工兵中佐 吉野義美

昨夜上海方面へ敵機二、三回来ル、例ニ依リ損害ナシ

大西参謀ヨリ羅店南側白壁ノ家ノ攻撃ノ詳細ヲ聞ク 午前ニ聞キタル林家宅（顧家宅北方約三軒）ノ中島大隊（68 i）ノ攻撃ト双美タルヲ失ハス、殊ニ白壁ノ家ノ西南隅ニテハ戦闘間女学生ト「ダンス」等ヲ為スヲ屢々見タリト 陣地ノ堅固ト日本軍ノ戦力ヲ輕侮セルモノ、但他ノ戦線ニ於テモ女学生ノ戦死体ヲ屢々見ルトコロヨリ察シ青年女子ノ国家意識、抗日ハ相当ナルモノト感セシメラル

◇九月二十八日

值賀少將連絡ニ来ル、王浜飛行場ハ明日ヨリ使用偵四、将来配属サルヘキ重軽爆各一中、宝山戦闘一中、公大ハ偵一中（差当リ）

片山少將谷川ト交代師団復帰ノ途中立寄り前面ノ兵力稍増加、陣地ノ強度ヲ増シツツアリト上海方面支那軍総指揮ハ朱紹良ニ変ツタト新聞報

3 D 第二回補充ハ昨日迄ニ到着、第一回ノ分ハ後レ二十三日出發トカ

井出18 iB 長来部、其他軍直部隊長等二、三名来ル

原田少將来部、松井国民記者ニ就テノ話カ主ナルモ下山航空少佐ヲ武官室ニ帰サレタシトノ要件モアリ其様手続スル筈

後方道路ハ各師団後方ニ概ネ二条ノ駄馬行違道ヲ新設スル方針ニテ夫々独立工隊ニ命令

重藤支隊塚口参謀来リ羅店附近ノ正面ハ支隊ノミニテ確實ニ保持スヘキニ依リ11 Dヲ軍主力戦ニ参加セシメラレ尙将来ハ支隊ヲ嘉定攻略ノ際劉河左岸方面ヨリ太倉ニ作戦セシメラレ度ト勢ヨキ具申ヲナス

101 D 右翼隊交代ノ際敵ノ逆襲ヲ受ケ此ノ正面ノ交代後レ本朝一〇・〇〇ニ終ル。又砲兵ノ展開モ後レ左側支隊及左翼隊ニテ若干第一線ヲ推進シタルノミ、其内部ニハ数ヶ所ニMGヲ有スル殘敵アリ予備隊ヲ以テ掃蕩中トノコト

独立工隊は独立工兵隊

11 D、3 D 間隙ノ後方地区ニ住民二百数十人アリ、昨日宝山ニ送り家ヲ限ツテ生活セシム

第三課兵站関係参謀二宮少佐来部次ノ伝言（書類）アリ

氣球一隊北支ヨリ転用、尙優良ナル人的物的内容トス（氣象等）二十八日頃着

野戦航空廠一近ク動員、瓦斯廠北支ヨリ転用スミ、砲工兵廠、衣糧廠1/3 欠ナリシモノハ増加スル如ク確定 飛行丙丁増加、確定、更ニ戦闘一中弱、増加研究中。暗号要員増加ハ不採用 12 H 先ツ十二門送り人員ハ動員シテ送ラルル様研究中、兵キ掛ハ師団ノモノハ発令済、軍ノモノモ発令ス

昭和七年事変ノ時掘リシ井戸（300尺余）ハ宝山城附近ニ発見、ツマリ居ル為調査ヲ要スト

◇九月二十九日

9 Dハ本日午後ヨリ行動ヲ開始シ得、依テ本朝四ヶ師団ニ対スル合同命令ヲ下ス 其要旨ハ呉淞「クリーク」ノ線ニ3 D 101 Dヲ各個ニ進メ9 Dハ先ツ旋回スヘキ線マテ進出 大場ニ対スル攻撃ヲ準備セシムルニ在リ 11 Dハ先キニ示シタル線迄進出セシムルノミナルモ将来ヤハリ南翔又ハ其東方ニ向ヒ攻撃セシメ度考ヲ有ス

二十七日迄ノ死傷約九〇〇〇病人約三〇〇〇 着任早々ノ軍イ大尉給水ノ為第一線近クニ行キ腕ニ重傷ヲ受ケ特ム兵戦死セリト

101 D 右翼隊正面ニハ昨夜モ三回夜襲シ来レリ、又「クリーク」ヲ背ニシ我ニ包囲サレナカラ頑トシテ退カサル小部隊各所ニ在リ

重藤支隊正面ニ新二十二師現出（中央直系）之ニテ五十四師トナル

第二聯合航空戦隊司令三並大佐来部連絡事項

江陰ノ巡戦砲艦2モ擱座、敵飛行機等モ大略片付ク

陸戦隊松コ線マテ進出（本日午後）

決戦ニ協力シ得ル水平爆撃キ十二、一機250* K 二発、60* K 六発、降下爆撃約三〇キ、250 K 一

飛行丙丁増加し軽重爆兵力を増加

250 K・60 Kは250 匁・60 匁爆弾

発、60 K 二発。次ハ明後日以後必要ナラハ全力ヲ以テ陸軍ニ協力シ得
戦闘機最新式二四キ、今明日整備。

南翔、嘉定等ノ目標ハ軍ヨリ直接、師団前線ノ協力ハ細部ハ師団ト直接連繫スル如クス 直
ニ各隊連絡者ニ希望ヲ毎日午後六・〇〇迄ニ軍司令部ヘ申出ツル如ク伝達ス

昨日桜井大佐ノ考科表、功績現認書、小尾参謀ノ功績現認書ノ処理ヲ為ス

10* 加農ヲ揚行鎮附近ニ直轄トシテ出シ、大場鎮附近ノ敵砲兵ヲ射撃セシム

本日下午ノ命令ノ要旨及将来ノ企図（南市封鎖、南翔攻撃等マテ）ヲ参謀次長宛打電ス

五・三〇頃芳村参謀 11 D ニ行キ帰来、用件ハ感状申請ニ対スル実況調査ナリ、安達大佐顔面
及腿ニ輕傷ヲ負ヘリト

白崇禧南京「クーデター」謀略ノ為日田大佐ヲ武官室、当軍附兼勤ニサレタキ電報及書類発
送、同時ニ下山少佐ヲ武官「室」兼司令部附ノ件モ申請ス

本日ハ各師団共大ナル進捗ヲ見ス、道路ノ新設改修ハ着々行ハレツツアリ
薄曇リ

◇九月三十日

軍司令部第一部長近藤少将来部、主ナル用件ハ将来海軍航空隊ハ主トシテ陸戦ニ協力スヘシト
云フニ在リト、陸戦隊ノ軍司令官ノ指揮ニ入ルハ大場攻撃ノ頃トシ艦隊長官ヨリ陸戦隊司令ニ
其旨命令スル由

軍司令官ヨリ将来ハ長官、大使共一体トナリ宣伝謀略ヲ一貫シタル方法ニ依リ遂行スル必要
アリ、又内地ニテハ元帥會議又ハ陸海軍合同ノ参議官會議ヲナシ大決心ヲ定ムルノ要アリトノ
趣旨ヲ述フ 第一部長ハ目下下相談ニテ上海附近一片付ツク頃迄ニ御前會議テモ為シ決定ス
ルノ要アリトシ進メツツアリトノコト

参謀総長ヨリ測量隊、上海派遣軍砲兵情報班、陸戦瓦斯廠、飛行丙丁各一中隊配属ノ命令来

ル内、飛行中隊ハ十日上海着（高雄発）飛行機ハ空中輸送ノ予定

101 D 正面二ヶ所ニ於テ昨夜敵ノ夜襲アリ 共ニ第一線ノ間隙ヨリ進入、其一ハ後方予備隊ノ
線ニ衝突撃退、他ノ一ハ昼間マテ内部ニ残存シ後備隊ヲ以テ掃蕩セリ

15* 臼砲ヲ 101 D ノ希望ニテ揚行鎮附近ニ出シ顧家宅附近二ヶ所ノ敵迫撃砲制圧ニ任セシム

荻洲第 13 師団長幕僚来部打合セヲ為ス

昨日 11 D 方面ニ行キシ長中佐帰来、主トシテ重藤支隊ノ状況視察ニテ第一線散兵壕ニマテ到
リ聴取、志氣極メテ旺盛、現在ノ 11 D 右翼隊正面ヲモ支隊ニテ担任シ得ル確信ヲ持チ既ニ其準
備ヲ為シアリ第一線中隊（人員百名位）ニテ最モ広キ正面ハ一、〇〇〇以上ニ及ヒアルモ中隊
長ハ確固タル信念ヲ持チアリト

和知大佐ニ会ヒ白崇禧ニ対スル謀略ノ件ヲ打合せ来ル、其結果日田大佐ハ反テ都合悪シト
ノコトニテ昨日ノ電報ノ取消ヲ電報ス

昨日 11 D 44 i 恒岡大隊感状申請ノ実状調査ニ赴キシ芳村中佐ノ報告ヲ聴ク、感状ニハ値セサ
ルカ如シ

本日上海本願寺ニ於テ戦病死者告別式トモ云フヘキ法要営マレ参謀副長参列、実ハ遺骨送還
ト思ヒシトコロ間違ヒニテ其第一回ハ五日トノコト其後ハ定期的ニ毎月二回

軍司令官声明ハ先キニ起案セルモ時日経過セル為更ニ談話ノ形式ニテ発表スルモノト声明ト
別ニシタルモノヲ起案本日持参セリ、依テ之ヲ審査ス 明日何トカ決定ノ筈ナルモ元来声明
ハ出ササルヲ良シト考ヘアリ

本日ハ三師団共一步モ進出セスト云フ程度（68 i ハ「クリーク」ヲ越ヘ進出セリ）殊ニ 101 D
ハ昨日モ三、四度突撃シテ失敗、本日モ又朝ヨリ午後五・〇〇迄全砲兵ヲ以テ胡家庄ヲ射撃シ
タル後突撃セルモ MG 六残存、跳ネ返ヘサレ坑道作業ニ移ルトノコト

軍参謀ハ第一課長マテ 30 c 臼砲、24 H 等ヲ出シ砲撃セシムト云フモ之ニハ同意シ得ス。只試
射ノ意味ニ於テ若干適當ナル目標ニ対シ射撃セシムルナラハ大場攻撃ノ際ノ兵器急襲ノ意義ヲ

独立野戦重砲兵第十五聯隊（長街
道長作²⁵期中佐）十四年式十^サ
加農砲十六門

独立攻城重砲兵第五大隊（長鈴木
茂²⁹期少佐）15 式臼砲 12 門

歩兵少佐 恒岡小文吾（歩四第
二大隊長）

少シ減少スルノミナルヲ以テ強テ反対セサルモ之カ為101Dノ攻撃進捗スト予期スルハ過望ナリト述ヘ置キタリ

今日ハ復々雲深ク時々少雨モアリ爾後ノ天候ヲ危マシム、夜ハ明日飛行機ニテ帰ル鈴木中佐ニ托スル為石原ヘ手紙ヲ書ク

◇十月一日 天候恢復快晴

9Dニ直協スル為公大ニ在ル海軍13航空隊長千田貞敏(黨君弟)*大佐来部9Dニ行ク
安達大佐見舞ノ大西參謀帰来 迫撃砲彈ノ大破片鉄兎ニ命中、小破片類、腕、腿ニ命中エ生隊ニテ治療三週間ヲ要スト

昨日上海ニ行キタル寺垣三課長帰来兵站整理ニ就テ話アリ又総領事ノ語ニ軍夫カ病氣ト称シ離脱上海住民トナル者アリト 事実兵站ノ人夫百二十名ノモノガ現在ハ60名(病人ヲ除ク)ニナレリトノコト 林家宅(中島大隊奪取)敵屍体総数263内銃創125、砲創66刺創47不明25

第三課長日清汽船ヲシテ調査セシメタル概要、「支那人三名船ニ依リ旅行セル結果 黃浦江ニ依リ嘉興ニ到ル途中軍隊アリ北進スル者モアリ嘉興ハ十九師ナリ目下ハ三千位店舗ハ開キ居ラス民船ハ極メテ少ク小蒸汽船ハ二日間一隻モ見ス 嘉興ヨリハ西水路ヲ取り蘇州川ニ出ル途中軍需品積載ノ民船甚タ多シ 北水路ヨリ蘇州ニ分岐スル水路モ民船頻繁ニ通航ス 之ヲ要スルニ嘉興ヨリノ西水路、蘇州ヨリノ水路カ主要兵站線ナリ 上海ニ来ル鉄道ハ目下不通、嘉興ニ至ル水路現在ハ十尺ナルモ減水時ハ四〇五尺ナルヘシ」 68 i 9Dノ右翼ハ本道ヨリ一ギ位ノ線ニ進出3Dノ一部ハ刈家行ヲ完全ニ占領、101Dハ変化ナシ、對壕作業ヲ為シ明後日一斉ニ突撃スト 二神參謀3D、101Dニ連絡ニ行ク101D攻撃不進捗ノ真相、3D右翼カ9Dト交代セサル理由ヲ知ル為後者ハ為シ得ル限り速カニ地境内ニ入ル、前者ハ敵ノMGヲ砲兵ヲ以テハ破壊シ得サル為ナリト

11D左翼モ進出セリ

昨夜宝山城上空ニ敵二機来レリト

定期航空ハ本日來ラス鈴木中佐ハ長崎定期船ニテ帰ル

本日ハ101Dヲ除キ夫々進展シ9Dニハ更ニ一結〱二結前方ニテ略南面スル攻撃進出線ヲ示ス
軍命令ヲ起案明日出ス筈

◇十月二日

今朝3Dハ顧家宅ヲ占領其後引キ続キ老壩宅ニ進出9Dモ進出、101Dモ「クリーク」ノ線ニ迫ル

軍司令官ノ新聞記者談話及声明案決定 尚司令長官大使会合ノ時談話ノ要旨、同時新聞記者ヘノ談話案モ定ル

九月三十日迄ノ海鷲作戰概要 十九日以来反覆空襲中南支ニ於ケル敵空軍ヲ殆ト剿滅シ主要軍事施設並粵漢鐵路(山間500ギ)ノ交通遮断ヲ為セリ 軍艦五隻大破擱坐砲艦二、三大破浸水敵機擊墜確実156地上爆破136不確実ナルモノ13(格納庫内ノモノハ不明)使用兵力大型攻撃機6中型36、艦上攻撃機45、艦上爆撃機63、艦上戦闘機81、水上偵察機46、計277被害(開戦以來)被撃墜20不時着其他(内約1/3ハ搭乗者救助) 28

11Dヲ除ク各師団正面活潑ニ進出敵ハ昨夜退却シタルカ如ク殆ト抵抗ヲ受ケス 101D正面ニ僅少ノ残存MG等アルノ報告アリ

飛行機ノ報告ニ依レハ蘇州河南岸ニテハ敵兵ノ移動最モ甚シク大場、南翔、嘉定、太倉辺迄相当ノ部隊移動シアルヲ見ルモ其行進方向詳カナラスト 敵ハ恐ラク嘉定南翔大場江湾ノ線ヲ前線トスル陣地ニ後退ニ決セルニアラスヤト判断セラル

但更ニ敵後方ノ動キヲ確メ空ヲ衝カサル如クスルノ要アリ

9Dニハ更ニ南下シ吳淞「クリーク」ノ線迄ノ進出線ヲ示ス

本日軍用定期航空來リ本日附ノ「日日新聞」ヲ見、更科ソバ鯛すしヲ味フ

千田薫^{21期}(飯沼少將と同期)

*多嘉王殿下昨日薨去ノコトヲ知ル
有終会ノ竹下大将来部

飛行機ニテ来レル大阪少佐ニ托シ特別補充員13日頃到着セシムル件ト外国武官観戦ニ関スル
書類ヲ送り来ル

副*長宛後藤侍從武官ヨリ十月下旬ヨリ差遣セラルル予定トノ通信アリ

御厨少佐3Dニ行キ34iノ状況報告、最後ノ最モ堅固ナル顧家宅ノ陣地(十五位ノ「クリ
ック」ヲ前ニシ十五二十位ニ掩蓋MG座ヲ設ケ更ニ其後方ニ側防ノMGヲ配置ス)ヲ砲兵一
中隊ノ協力ノ下ニ払曉煙幕ニ依リ工兵ノ輕渡河作業ニ引キ続キ突入格闘シテ奪取セリ 此時人
員最モ少キハ第一中隊ノ十数人第一大隊ハ全員ニテ八十余名、尚且攻撃力アリ 此点日本軍ノ
真価ヲトスルニ足ル(兵員ノ減耗ハ12iヨリ甚シキモ中隊ハ多ク尚將校ノ指揮下ニ在リ)

六・〇〇頃飛行隊長ノ報告敵ハ大場ヨリ南翔嘉定方面ヘ自動車數十輛移動 蘇州河右岸ノ陣
地ヲ固メ其辺部隊ノ移動甚シ 吳淞「クリック」ノ南岸附近極メテ静カニシテ百位ノ低空飛
行ヲ為スモ射撃モセス尚武官室ノ調査ニ依レハ本夜上海四大銀行ハ何事カ發表スト 或ハ敵ハ
上海放棄ヲ覚悟セシニアラスヤ 昨夜一・三〇頃珍シク河口附近浦東ノ敵砲射撃シ反撃ス

軍司令部―上海電信局―内地ノ有線連絡完成(無電ハ広島對向ニシテ一日五時間ノ時間通信)

3Dノ九月二十九日迄ノ戦闘成果 遺棄屍体概数一三、〇〇〇鹵獲品小銃二、四九九 小銃

彈二八八、五二〇LG三〇三 MG五三 手榴彈一、〇〇〇等カ主ナルモノナリ

△欄外△ 俘虜38、迫撃砲51

独氣球第三中隊到着 内山旅団上陸完了

九月三十日迄ノ死傷概数一〇、四二一

		戦 死		戦 傷		死傷合計
		将校	其他	将校	其他	
重 藤		4	113	15	327	459
11 D		51	1,449	121	3,592	5,213
9 D			5	1	24	30
3 D		65	994	143	3,360	4,562
101 D		3	8	6	131	148
谷 川			1		8	9
計		123	2,570	286	7,442	10,421

九月二十五日調 平病概数一、三〇〇内、内地還送二〇〇、コレラ五〇〇、赤痢四〇〇
101Dカ顧家宅附近ノ迫撃砲ニ側射サレルカラ曰砲ヲクレ本日ハ復最左翼カラ一大隊半ヲ渡河
セシムルカラ 曰砲ヲクレト自力ヲ以テセス他ノ力ニ依頼セントスルカ如キ態度ノ見ユルハ幕
僚トシテ慎ムヘキナリ(他ニモ在リ)

◇十月三日

一昨夜敵機五、六公大附近ニ来リ河ニ焼夷彈投下、昨夜復同所附近ニ来レリ 前ノ上海事変
ノ軍司令部ノ位置ヲ覬クモノカ

彈藥ニ就テ三課長報告 大場鎮会戦半会戦分ヲ基準トスMG八〇〇〇、重擲60、九二歩兵砲
250、37mm砲530、平射570、曲射390、41山砲480、三八野砲榴280、霰220、九四山砲榴420、霰360、10H

久邇宮多嘉王

朝彦親王第五子 十月一日没

有終会(海軍將校のOB会)理事
長 海軍大將 竹下 勇海兵15期

参謀副長 上村利道大佐

歩三四第一中隊長 川那銀二大尉

(戦死)

歩三四第一大隊長 垣内 徹少佐

(戦傷)

尖銳彈460、四年式15H榴250、破甲280、三八15H破甲230、霰137、12H破甲200、10K榴474、霰186、15M破甲170、57*戦車300、軽迫80

更ニ特ニ要求セルモノMG一〇、〇〇〇、重擲80、九二歩兵砲200、曲射100、四一山砲500、三八野砲500、九四山砲300、10H200（内地新設輓駄各八師団分ヲ流用送付シ前記ノ使用可能数ニナレリ）特ニ要求セル彈藥ヲ重〔点〕方面ニ送ルニハ更ニ動員常設師団其他ノ分ヲ送ラサルヘカラス、故ニ之ニ対スル返答ナシ、十月一日ヨリ工業動員ヲ実施セルモ其能力ヲ發揮スルハ数ヶ月後ナリ

二日調へ、3D。榴二、五八四、霰五、二九四、尖銳一、六二四、發煙一、三六二、燒夷九二〇、11D。九四山砲榴一、七八〇、霰一、三四〇、101D。三八砲四、七〇一、霰六四一二、燒夷二五八

軍司令官ヨリ幕僚ニ、大場攻撃ノ時兵力ノ許ス範圍ニ於テ南翔ヲモ攻撃シ南市浦東ノ封鎖モ行ヒ十一月三日明治節ニ嘉定ニ国旗ヲ立テタシ、各課ニテ研究シ今明日ニ大体ノ案ヲ策定スヘシ

	戦死	戦傷	計
28	54	351	405
29	67	281	348
30	165	450	615
1	130	567	697

〔8月28日～10月1日〕

過日海軍ニ於テ嘉定西方外岡鎮ヲ爆撃シ二ヶ所爆発シ南翔ニ於テモ一ヶ所爆発セリ（外岡鎮ニハ嘗テ蔣介石来リシ情報アリ）

軍ノ給養額、人19万、馬6万

昨日ヨリ本日午後ニカケ敵ノ後方部隊ハ南翔ヲモ捨テテ退却スルカ如キ各種ノ動キヲ見ル、依テ各兵団ハ速ニ所命ノ線ニ進出シ大場附近ノ敵情ヲ搜索スヘキヲ命ス

荻洲師団長畑參謀長、内山旅団長再度来部、内山ノ一聯隊（15H）ヲ刘家行附近ニ出シ9Dニ協力、各師団共大体滙藻浜クリークノ線ニ進出、一部ハ其南岸ニ出テタルトコロヘ前記ノ敵退却ノ兆歴然タル飛行機報告アリ

◇十月四日

独立野戦重砲兵第四大隊、第五野戦氣象隊（12D）*第五野戦航空廠（3D）*野戦鑿井第三、四、五中隊（GD）ヲ隷下ニ入ラシメラル

11Dヨリ昨夜一二・〇〇頃敵ハ嘉定方面ヨリ大々的ニ攻勢ニ転シ当師団正面大丈夫ナルモ重藤支隊正面ハ電話モ断絶シ不明ト、別ニ飛行機ノ払曉ノ偵察ニ依レハ大場及南翔ニ一部火災起嘉定ヨリ西北進スル敵ヲ見ルト

昨夜11Dハ其右翼隊正面ノ軍所命ノ線ニ進出セハ該地区ノ守備ヲ重藤支隊ト交代シ重藤ヲ南方ニ移シ南翔方向ニ対シ右側ヲ安全ナラシム攻撃、重藤支隊ハ新ニ後備大隊ヲ加ヘ劉河鎮嘉定方向ニ対シ軍ノ右側ヲ安全ナラシムヘキ命令ヲ下ス

昨日重藤支隊充足人馬140許リト人夫到着（MG8共）重藤支隊長自動車ニテ河岸道ヲ通り二時間弱ニテ来部、昨夜ノ敵ノ砲撃及小銃MG射撃ハ從來ニナク盛ナリシモ退却ノ兆ニアラスヤト判断シアリト、又太倉攻略計畫案ヲ持参

3Dモ11Dモ軍命令ニ拘ラス「クリーク」南岸ニ進出セサルヲ以テ芳村參謀ヲヤリ実情ヲ聴取セシム

大場攻撃計畫ノ概要策定各課長立会ノ上司令官ノ承認ヲ受ク

24H、30Mニ陣地占領準備前方進出ヲ命ス、五日行動開始

13Dモ五日行動開始月浦鎮西南方地区ニ集結ヲ命ス

57戦車は口径57耗戦車砲彈

独立野戦重砲兵第四大隊（十二榴）
長砲兵少佐 二宮 精

第五野戦氣象隊 長高島
第五野戦航空廠 長航空兵少佐
山名 要

鑿井隊關係は「上海派遣軍職員表」
（昭一三・一・一五調製）によれば

野戦鑿井第二中隊 長工兵大尉
萩原 吉

野戦鑿井第十六中隊 長歩兵少佐
瀨川 柱

第五野戦鑿井隊本部 長小野
のみであるが、戦史叢書によれば鑿井中隊は「第四、第五、第十、第十一」とあり相違している。

30Mニ独立攻城重砲兵中隊 長大尉
片島一彦（30歩重迫一門）

楠本大佐来部 白崇禧トノ連絡成リ上海マテハ何トカシテ脱出スヘキニ依リ其後方法ヲ尽シテ広西ニ脱出セシメラレタシトノコト 司令官之ヲ承認、宋子文暗殺モ承認、保安隊等ノ寝返リ問題モ楠本大佐本人ト会ヒ使用ノ旗ヲ定メ時機ハ飛行機ニテ合図スルコトニ定メアリ 原田少将岡崎総領事日高参事官ト共ニ来部、大使病氣ニテ軍司令官ト会見ノ席ニ出得ストノ断リ本日ノ内地新聞ニハ一斉ニ大場攻撃ノ企図ヲ大々的ニ掲ケテ居ル 随分迂濶ナ話ダ 本郷カ報道部ニ実情調査ニ行ク

長中佐飛行機ニテ戦場全般ヲ視察 ヤハリ敵ハ大場ノ線ヲ守リ其後方陣地トシテ蘇州河ノ線ヲ増強且配兵シアルヘシトノ判断ヲ為ス

101 D カ二夜モ渡河スルト称シ実行セサルハ全ク準備整ハサリシ結果ニテ幕僚勤務ノ不良ヲ示ス 明後半夜ニ実施スト 且其希望ニ依リ工兵一中、15 H 一大ヲ属ス

3 D ハ準備中、歩六(右) ハ本夕渡河スト

11 D ノ右翼ハ少シ出タ 敵陣地堅固ニシテ大隊長ト濤本大尉(軍刀) 其他大ナル犠牲ヲ払フ迫撃砲ニテ20名許リ戦死ト 左翼永津部隊ハ大ニ進出シ中央ノミニ詰モ凹形ヲ為シアリ

9 D モ少シ進出、101 D ハ崇明塘ヲ占領

昨夜復黄浦江内ノ軍艦ニ向テ機雷ノ爆破ヲ為シタト 之テ三回目何レモ何ノ損害モナイガ第三國ノ建物ノ蔭ニカクレテ行フノカ賴タ 101 D ニテ崇明塘ノ頑強ナル敵陣地ヲ奪取セル際敵ノ屍体約200俘虜300

◇十月五日

来ルヘシト予想シタ低気圧モ広東北方ニ上陸、大体無難ニスムラシ

13 D ノ戦列部隊大体上陸ヲ終リ騎兵ヲ除キ各団隊長来部

「コレラ」ハ尚11 D 3 D ニ数名散発、9 D 101 D ニモ一名宛発生、早速防疫班ヲ派シ感染ヲ防止ス軍司令官ノ注意「各隊ハ家屋ニ入ラサルヲ方針トセサレハ敵軍内ニ「コレラ」蔓延シアル状

況ニ於テ撲滅ヲ期シ難シ」ト 依テ参谋長ヨリ各隊ニ注意ヲ与フルコトトス

谷川支隊ヨリ報告来ル 最左翼Iヲ以テ復旦大学東側郭家駅張巷、王家宅、錢巷上ノ線ヲ占領敵情ヲ搜索セントス 右方面ハ依然敵陣地ヲ増強シアリ

午後一・〇〇ヨリ三艦隊ニ行キ軍ノ大場攻撃要領ヲ説明計画一ヲ渡ス 南雲少将モ来会ス

司令官トノ会見ノ打合せ、上海ニ於ケル陸戦隊ト陸軍ノ警備関係ニ就テノ話アリシモ之ハ現状ノママトスルコトシタルモ憲兵ヲ陸戦隊司令カ指揮スル件ハ更ニ研究スルコトトス

武官室ニ至リ新聞記者会見ノ日時ナト相談ス 尚報道部ノ失態ニ就キ善後策ヲ協議ス

四・〇〇過帰ル 本日ハ各師団共進捗セス

◇十月六日

昨夜爆撃サレ13 D ノ騎兵、3 D 架橋中隊ニテ六名戦死十一名負傷 本未明敵機再ヒ襲来軍司令部附近ノ高射砲モ前後半夜共相当ニ射撃ス

輸送船内ヘ海軍兵曹カ支那手榴彈ヲ持チ帰り弄フ中爆発、五、六名即死 数名ノ負傷者ヲ出シタリト

公大飛行場ニ対シ江湾方向ヨリ射撃シ陸軍機一焼失 一中破、海軍機三破損、陸軍兵一負傷 弾薬ノ追送ニ関シ左ノ通知アリ

発煙筒4万、八、九日頃大阪発 91式曳火手榴彈一三、五〇〇、八九式擲弾筒榴彈二万、北支輸送中ノモノヲ転用 火焰放射キ40十月八、九日頃大阪發送、先ニ増加具申ノ弾薬ハ引続キ決定実施セラルル筈

吳淞―月浦鎮水路輸送ハ昨日ヨリ日量120 t ニテ実施

石洞口―羅店東北方ノ間モ患者後送ヲ主トシテ実施中

福岡―上海定期航空ハ上海着一泊ノ上翌日朝出發 其日ノ中ニ東京ニ行ク如ク隔日ニ改正 羅店北方ニ重藤支隊ニテ設定セル飛行場(200畝ト600畝?)ニハ常時一機ヲ置キ直協セシム

岡崎勝男

土屋正治氏 46期(歩一九第四中隊長)の言「聯隊長から「國際連盟、國際連盟」とやかましく言われたのを記憶しています。よほど第三國權益の保護についてきびしい指示が上司からあったのでしょう。

第八戰隊司令官 海軍少將 南雲 忠一 海兵36期

末藤大佐先日ノ新聞発表ノ責任ニ依リ重謹慎三日

楠本大佐来部、謀者ノ言ニ依リ現在ノ線カ第一線ニテ陳誠之カ指揮ニ任シ南翔大場ノ線第二線陳天民（紅浙遊撃隊）守備、蘇州河第三線ニテ目下構築中各線ノ配備師団番号並八十二日ニ反撃ヲ為スヘク蔣介石命令セリトノコト

陳、白ノ謀略ノコト、上海自治特別政權樹立ノ準備ノコト等相談アリ

三艦隊長官ヨリ司令官宛ニ陸戦隊ヘ軍司令官ノ指揮下ニ入ルヘキ命令ヲ出シタル旨通知アリ
101Dハ左翼隊一大隊ト一中隊、中央隊二大隊渡河、其後右翼隊ノ二中隊其線ヘ渡河夕刻迄ニハ七大隊渡河（コノ件誤ナリキ）3Dハ「クリーク」北岸ニ頑張りシ唐橋ノ敵ヲ駆逐又最右翼ヲ以テ「クリーク」南岸ニ進出、9Dノ左翼進歩 広福前面ハ二大隊ニテ監視スルニ止ム 依テ13Dノ一聯、砲一大ヲ以テ交代攻撃準備スヘキ命令ヲ出ス（攻撃開始ハ軍ニテ命令、9Dハ全力ニテ南方ニ向ハシムル為ナリ）11Dハ中央進出

◇十月七日

23/8—30/9山室部隊ノ敵ニ与ヘタル損害概数、戦死三二、〇八〇 俘虜五二四 鹵獲MG四五、自動小銃二九、小銃三六二

上陸以来ノ負傷者別 銃創七二、砲創二二、爆創二・〇、白兵〇・四八

本朝六・三〇〇七・三〇ノ飛行機偵察ノ結果コ京鉄道ハ數個列車西行ヲ見ル外自動車ノ移動又甚タ多シ 武官室情報ニ依レハ敵ハ十月十日迄ハ上海附近ヲ保持スルモ其後之ヲ放棄スト云フ情報ト符節スルカ如キモノアリ 為シ得ル限り迅速ニ攻撃スルヲ要ス

軍司令官謀略ニ間シ注意（原田、楠本、長、上村）陳天民ノ使用、大場鎮附近ニ集結セルモノノミヲ以テ蘇州河ヲ突破シ南市ヲ占領、其ノ他ノ正面ハ後方ヨリ擾乱シ兵力ヲ集結シアレハ我軍ニテ適宜処置ストデモ云フ

陸戦隊ニモ適當ノ時機ニ伝ヘ置クコト

上海附近ノ治安維持、蘇シヤク文、將來独立政權ト伝フ程度ニ進ミタル時ハ白崇禧ノ如キ反蔣軍閥ト蔣ト思想的ニ相容レサル者、段派一部等カ目標トスヘキ相手ト考ヘアリ（許世英ノ如キモ其一人）然シ之ハ先キノコトニテ差当リ上海ノ治安維持ハ以上ノ如キ者ナラス地方人士ニヤラスルヲ可トス

実業家トシテハ王^{*}イツテイ ユウヤチン 地方政治家、章士^{*}劍（行蔵）（現在辯護士）ハ人格學識共ニ可ナリ 吐^{*}月笙モ顔役ニテ利用シ得ヘシ 之等ヲ利用シ治安維持会ヲ作ラセ漸次ニ政治的ニ移行セサレハ北支ノ如ク失敗ス 藍衣社共產黨系ノ者ハ勿論排斥サス 船津カ之等ノ事情ヲ承知シアルヘシ 外務省系統ニテハ清水

南市ハ浙江人ニテ杜月笙勢力アリ聞北ハ廣東系ナルヲ以テ其財閥ヲ利用スルヲ可トス 唐シユウビ（生命保險会社）アタリヲ利用スヘキカ 本人ハ老人ニテ表ニ立チ得サルヘキモ其縁類アリ名前ダケ出スモ有効ナリ 段派ノ晏光新等モ歸来スヘシ 要スルニ政權運動ハ決シテ急クヘカラス

日本ノ浪人來リツツアルモ大体相手ニセサル方針、萱野、山田等ハ信用シ得 宮崎竜介、秋山貞助等ノ一派ハ不可、之等ノ運動起ルヘキニ就キ警戒ノ要アリ

頭山ノ紹介状（広田モ）安売リナレハ用心スヘシ 白崇キ連絡ノ為ニハ香港ニ居ル王文、可ナリ

司令官ハ「出雲」ニ於テ艦隊長官及大使代理等ト会见二・〇〇過帰ラル

内山少將砲兵使用ニ関シ意見具申ニ来ル、大体軍ノ考ト一致ス

一昨日海軍參謀長ヨリ聞キタル杭州灣上陸ニ関シ金山東西地区等ヲ適任者ヲ以テ偵察至急報告サレタシトノ電報來ル、軍ハ目下幕僚ヲ出シ難キヲ以テ田尻少將ニ依頼スルコトトス

長崎県會議員團慰問ニ来部

夜攻撃命令、師団長參謀長ニ示スヘキコトヲ承認サル

本日ハ各師団共大ナル変化ナシ

王^{*}一亭 一八六六—一九三八 上海實業界の長老（『支那問題辭典』中央公論社、昭一七）

虞^{*}洽卿 上海實業界の長老、一九四五没。

章士^{*}劍は章士^{*}劍の誤記 一八八一—一九七三 第二次大戰後、国共和平の国府側代表となる。

（コンサイス人名辭典）

朴月笙 江蘇省上海縣の人。字は月笙・秘密結社青幫の首領、滬

介石の後援者、もと上海フラン

ス租界工部局の密偵黄金榮の従

弟として頭角をあらわし、アヘ

ン売の総元締である同興公司

を經營、上海フランス租界に青

幫を組織した。一九二七年の共

産党弾圧を助け、三二年上海事

変中の上海の秩序維持に裏面で

努力した。陸軍空軍總司令部參

謀、上海フランス租界工部局中

國人委員、同商會連合會會長中

◇十月八日

重藤 昨夜ヨリ交代準備本夜交代終ル予定兩翼現役大隊、中間後備、騎兵、当初ハ支隊予備ハ後備一中隊、後ニハ現役二中隊位ニシタシ 一中隊150人位自動車モ到着兵力転用自由ニナレリ

15H来レハ唐家宅ヲ奪取スル希望ヲ有ス

11D只今軍指示ノ線ニ到達セリ 明弘曉迄ニ交代ヲ終リ逐次集結第二ノ任務ニ向ヒ進ム、此任務ニ対シテハ出来ルタケ攻勢ノ三解決ス、之カ為先ツ敵ヲ西方ニ圧迫シ先ツ三神宅ヲ奪取南翔東側地区ニ前進ヲ企図ス、師団戦力ハ上陸当初ニ比シ多少落ちアリ且連日戦闘シアルモ必勝ノ信念ニ燃ヘアリ、多大ノ犠牲者ヲ出シタルヲ恐縮シアリ

(司令官) 広福ノ線ニ出ルハ何日頃カ

(D長) 王宅附近ヲ撃破スルハ先ツ十一日頃ト予想シアルモ此陣地堅固ナラハ之ヲ避ケ9Dト協定成ルヘク早ク広福ニ出度キ企図ヲ有ス

3D 5iB塙門頭ノ線29iBハ河ノ線ニテ対壕作業最左翼ノ一中隊カ舟ニテ敵ノ側面ニ出テ敵散兵壕ニ跳ヒ込ミ今未明弾薬ノ補給シ得34i(右翼隊ノ右聯隊) Iハ兵員甚タ減少シタルモ大隊長カ中小隊長ヲ兼ネアル状況ナリ、八房宅ニ漸ク取り付キタルトコロナリ、此補充員ハ十二、三日頃到着ノ予定 6、68ハ補充ヲ受ケ、18iハ補充ヲ受ケタルモ將校其後損傷セリ 弾薬殊ニ歩兵砲ノ弾薬不足

101D 渡河準備不慣ノ為一旦中止セシメ決行ノ前日砲兵ニテ射撃シ午前五・〇〇及六・〇〇ニ渡河、右翼ハ輕易ニ行ハレタルモ左翼ハ渡河途中ヨリ困難トナリ中止ノ止ムナキニ至レリ、渡河後モ左翼隊ハ地歩ヲ獲得シ得ス 乾パン弾丸ハ昨夜補給シタル筈、第一線ヨリハ壕内水ニ浸リ報告モ悲観的、衛生隊ニ收容セル者600名許リ比較的將校多シ

谷川 四日敵交代、夜襲モ大々的ニヤリ射撃モ克ク第一線ニ落下ス、素質良キカ如シ一昨夜

ハ一、五〇〇位ノ夜襲アリ、十日ニハ更ニ逆襲スルヲ予想シ堅固ニシアリ

9D 左翼隊ノ右第一線(二大) 陳家行ヲ攻撃中、24Hハ本朝ヨリ協力、今朝迄ニ最右翼ヲ13Dト交代、一部11Dト交代スルモノハ実施シ得ス

軍ノ予定線ニハ本日進出シ得ヘシト予想ス、七日迄ノ戦死一七〇 傷一、一〇二(正式報告ヲ受ケタルモノ) 戦利品ハMG輕機各1、小銃200、大隊長二戦死、大尉三

13D 山田旅団長104i砲一大ニテ昨夜一二・〇〇頃迄ニ北梅宅以東ノ陣地ヲ交代セリ攻撃(広福) ハ十日ニハ実施シ得ルモ11Dノ攻撃ハ十二日且作戦地境ノ關係上其統制ヲ必要トス地上敷設ノ電線ハ不通 輜重ハ本日午前中位ニ上陸且完了ノ筈、九日遅クモ十日ニハ本道ニ出タシ

内山(5SAB) 二大刘家行ノ南北、其一大隊ヲ小陸宅ニ陣地変換ノ予定 一大ハ101Dヘ配属一大ハ小陸宅ニテ3Dニ協力10K刘家行東、文衡堂西、15Mハ顧家宅南側、気球ハ火焼場。

三飛、偵一戦一、王浜、偵一ハ公大、破損機ハ直ニ補充、戦闘隊ハ薄暮昼間制空ノ準備、一部ノ偵察、爆撃隊来レハ重点ニ集中使用ノ考

軍司令官、命令下達訓示後兵団長ニ注意

「軍作戦ノ成果ヲ大ナラシムル為及国軍全般ノ情勢上一日モ早く成功スルノ要アリ故ニ遅クモ十三日、状況ニ依リテハ更ニ早ク

軍ハ全般ノ状況ニ基キ指揮ス各師団ハ当面ニ捉ハレ易シ将来ニ於テモ全般ノ状況上第一線ニテハ無理ト思フ様ナ命令ヲ出スコトアルヘシ 師団長ハ軍司令官ノ氣持ニナリ軍司令官ハ師団長ノ氣持ヲ察シ一心トナルコト肝要ナリ 意見具申ハ喜ンテ聴クモ命令セハ之ニ全力ヲ尽スノ氣持カ肝要ナルコトヲ重ネテ述フ」以下各兵団毎ニ命令ノ氣持ヲ説明的ニ附加ス 〇・三〇乾杯ヲ終リ帰ル、往復共一時間ヲ要ス泥濘甚シ

午後三・〇〇過カラ碇泊場監田尻少將ニ從來ノ御礼ヲ言ヒニ行ク

『松井大將日記』

十月八日

陰雨又来ル 終日細雨雨条道路泥濘ヲ極メ全線將兵ノ勞苦不及申補給ノ困難モ亦一層ニテ憂鬱ヲ禁セス

此日朝十一時幕僚ヲ伴ヒ楊行鎮ニ至リ各師団長ヲ集メ大場鎮附近攻撃ニ関スル軍命令ヲ与ヘ又同時一般ニ對シ軍司令官ノ訓示ヲ与ヘ之ヲ督励ス 各師団長以下皆元氣旺盛ニシテ 緊張セル態度ヲ以テ予ノ訓示及指示ヲ諒セルハ欣快ナリ 各師団長ノ報告ニ依レハ各戦線ハ此ノ日何等變化ナシ 蓋シ敵陣依然タルト打テ続ク惡天候等ノ為戦況自然交綏ニ至レルモノノ如シ

回顧セハ吳淞上陸後正ニ一ヶ月ナリ 予ハ本日开始メテ沿道第三師団ノ古戦場ヲ過ギテ楊行鎮ニ至レリ

敵ノ遺セル陣地ノ跡附近村落交通機關等破壊ノ状況悉ク胸ヲ打タルモノナシ 此ノ間ニ於ケル將兵奮戦ノ状ヲ想起スルニ十分ナリ

又目下該道路上ニ来往スル輜

重其他ノ人馬ノ状況ハ誠ニ同情ヲ禁セス 瘦馬ヲ鞭ウチテ泥中ヲ行ク特務兵ノ顔貌割合ニ元氣ニ満テルハ意ヲ強クセルモ雨泥ノ裡ニ於ケル將兵ノ勞苦ハ真ニ察スルニ余リアリ 殊ニ微発軍馬力皆衰ノ感アルハ痛マシク早急ニ何等カノ方ヲ講セサルヘカラスト思ハル

○軍司令部符号

武藤大佐ヨリ西原宛、上海附近ノ終局ヲ一日モ早カラシムル必要生シタルニ因リ之カ為一兵団（師団？）ヲ上陸セシムル場合ノ意見ヲ徴シ来ル之ニ対シ上海附近浦東地区ノ敵ヲ掃討スル為ナラハ虹江碼頭対岸附近ニ一師団ヲ上陸セシムルヲ可トシ若シ又蘇州河渡河南市封鎖ニ協力セシムル為ナラハ杭州湾北岸ヲ可トスヘキモ偵察ノ結果ニ待タサルヘカラス 又之ニ要スル兵力ハ三師団ナラハ十分ナルヘントノ返電ヲ出ス

今日ハ戦線進捗セス只 3 D 34 i カ八房宅ヲ完全ニ占領セルノミ、戦車大隊ノ副官ノ言トシテ 3 D 歩兵カ常ニ戦車ニ追隨セス過日ハ之ガ為車外ニ出テ後方ノ歩兵ト連絡セントシタル中隊長小隊長戦死（二正面ニテ）セル事実アリト聞ク 相互ニ至ラサル点アルヘシ

◇十月九日

参謀長ニ訓示指示ノ後示ヘキ事項

命令セラレタルコトハ全力ヲ尽シテ遂行スヘシ 司令官ハ真ニ己ムヘカラサルニ出テ或ハ達成ノ確信ヲ有スルニアラサレハ命令セラレス 弾薬ノ準備ハ大場突破ニ十分ナリト信スルモ全般ノ關係上アリ余ル弾薬ヲ準備スル能ハサルカ故ニ万々一總攻撃ヲ復行セサルヘカラサルカ如キニ至レハ忽チ砲彈ノ不足ヲ来ス、換言セハ夫レダケノ余裕ヲ有セス故ニ必勝ヲ期シ得ル準備ト断乎タル決意ヲ以テ一回ニテ突破スルノ要アリ

歩戦協同不十分ナリ（敵ノ夜襲ニ追跟スル夜襲）俘虜ヲ作ル如クス 敵動揺ノ兆アルニ乘シ来ル者ハ俘虜トスヘシ

彼等ハ日本軍ニ捕ハレハ殺サルト宣伝シアリ之ヲ是正スルコト

上海西北正面ニハ租界外ト雖外国兵ノ警備シアル建物アリ後日其配備ハ配布スヘキモ其方面ニ射彈ノ行カサル如ク予メ注意セシメラレタシ

陳天民寢返リハアテニナラサルモ實現セハ其戦機ヲ捉ヘ迅速ナル突破ヲ敢行スヘシ、勿論彼等ノ欺騙ニ陥ラサルコト 我部隊内ニ入レル之等ノ部隊アラハ武装ヲ解除シ（説明シテ）他ノ

俘虜ト取扱ハ同様トスルモ将来別ニスル旨ヲ理解セシム

各師団参謀長懇談

11 D 十一日「クリーク」ノ線ノ敵ニ対シ攻撃開始 南翔ヘ約二^キ里ノ東北面セル陣地線カ目標 第一ノ目標ハ三神宅、9 Dノ地域ニ部隊特ニ砲兵ヲ入レタシ 航空写真ヲ希望ス（スグ送ル）（広福ノ攻撃ニハ 13 Dノ部隊ハ使用シ度ナシ） 13 Dノ進出線ヲ少シ後ケ且 9 Dノ後方ニセラレタシ

師団司令部ハ東王宅ニ移ル（明後十一日）後方連絡線田宅迄ハ軍ニテ作ルコトニナリ居ルモ更ニ少シ延ハサレタシ（駄馬道一本ハ軍ニテ作ル）功績調査ノ規定

13 D 進出時期ハ如何（11 Dノ作戦進捗ニ応ス尚專用道ハ指定ス） 第一線ニ出ル時ハ 9 Dノ地境又ハ其東ヨリ（此時期ニハ作戦地境ヲ定ム）

3 D 十一日迄ニ所命ノ線ニ進出スル如ク命令下達 砲兵ハ本日午前中ニ陣地占領明日以後ハ砲兵ヲ統一シ内山ノ指揮ニ属シ実行 34 i ハ一大隊136人ト云フ有様ニテ之ヲ第二線トス

砲彈ノ制限カアマリ極端ニテハ困ルコトアリ砲兵關係ニテ適當ニ伝ヘラレタシ 発煙筒ヲ十分支給セラレタシ聯隊砲ノ彈ヲ十分頼ム（現在ハ屋根ノ上ニ上ケアリ）砲兵ヲ第一線ニ出シ砲門射撃ヲナスコトヲ砲兵關係ヨリモ指示サレタシ（R i A 一門 350ハ使用シ得ル筈）

101 D 軍指示ノ線ニ出ル為「クリーク」広キカ故ニ中間ノ線ニテ一度統制ス、3 Dトノ間隔ハ逐次ツメル

火焰放射キ有効ナルモ旧式ニテ15^リ位ナリ新式ヲ欲ス 尚爆薬有効ナレハ之モ頼ム、平射砲彈薬モ頼ム

飛行隊 重藤、各師団（13ヲ除ク）各一機、軍砲兵二機、3 Dノ砲兵ノ為二機 陸海軍爆撃目標搜索ニ各一機 敵後方並写真ノ為残余、天候ノ為写真ノ後ルルヲ懸念ス 爆彈ハ一機毎日10発位シカナシ 50 Kノモノハ未着

軍司令ノ防空ハ明日迄ニ配置ニツク

R i A は歩兵聯隊砲

50 K は 50 發 貯 爆 彈

各師団トノ直通々信ヲ為シタシ

9 D 13 Dノ広福ノ前面ノ部隊ハ如何ニスルヤ(9 Dノ右側掩ゴナリ)側方ヨリ砲撃サレ困ル昼間ハ飛行機其他コノ方面ニ強圧ヲ加ヘラレタシ

大坪中佐、各師団ニテ使用シ得ル標準彈野砲3^{*}5基、山砲6基、其他5^{*}7基

指示後司令官ノ指示、敵陣地ハ堅固ナルモ障礙物ハ比較的少シ敵陣地ヲ破壊セサレハ突撃シ得サルモノハ少シ我裝備殊ニ砲兵ハ甚タ優勢ナリ將來ソ軍ト戦フ場合ノ軍ノ砲兵力ハ之レ以下ナリ而シテ敵支那軍ノ裝備ハ甚タ貧弱ナリ、故ニ支那軍ニ対シ砲彈ナケレハ勝テスト云フ考ヘハ不可、破壊ニアラスシテ制圧シタ瞬間ニ突入シ白兵ヲ以テ勝利ヲ獲得ス從來ノ戦跡ヲ見ルニ無駄彈多カリシ感アリ、白兵ヲ以テスル為夜襲殊ニ敵ノ逆襲ニ尾スル方法ヲ奨励シタシ大場突破ニ引続キ南翔嘉定ヲモ奪取セサルヘカラス、之カ為ニハ砲彈ナクトモ白兵ニヨリ遂行セサルヘカラス

軍イ部長ノ話ニ依レハ十日迄一、八〇〇九月二十二日迄二一、二〇〇傷病者原隊復帰

3 D 11 D其他ノ補充員(歩兵聯隊ハ642名)ハ十一日夜ヨリ十二日夜ニ亘リ到着 尚34 iハ別ニ500余名同時到着ス

午後二・〇〇日本新聞記者ノ代表13名許司令官ニ会見

3 Dハ34 iニ代ルニ68 iヲ第一線トシ本日相当ニ進出ス揚宅ニハ敵ノ屍体400、王家辺ニハ250、鹵獲機関銃30余

18 Dハ佐世保ニ待機上陸演練ヲ為シツツアリト八房宅ニソ聯將校ノ屍体ヲ発見セリトノ報告アリ(3 D)

織田大佐ノ指キスル後備隊ハ前面ノ敵退却セルヲ知り第一線ヲ一・五ギ半程西方ニ進出セシメタリ

次長電五五三ニ依リ報告スヘキ事項 七日午後受領

1、上陸ノ能否 2、沿岸ニ於ケル敵ノ抵抗判斷 3、上陸後ニ於ケル進出ノ難易 4、此

方面ニ於ケル敵ノ兵力集結判斷 5、軍需品等ノ揚陸ノ難易

11 Dノ進出思ハシカラス、西原ハ13 Dヲ第一線トシ11 Dヲ第二線ニスルヲ可ト主張セルモ同意ヲ与ヘス

◇十月十日 終日殆ト雨東風強シ

未明前カラ相当ノ降雨早ク天候ノ恢復センコトヲ神カケテ禱ル双十節ノ為カ未明可ナリ激シク砲撃シタルカ如シ

司令官ハ、アーベント(ニューヨークタイムス)フレザー(ロンドンタイムス)記者ト一・〇〇頃ヨリ会見サルル為午後出發揚家宅(揚行鎮西端)西側公□ノ建物ニ移ラル、幕僚ハ朝移動9 D陳家行ノ攻撃ハ成功セス取敢ヘス之モ一部ヲ以テ氣長ニ取ルコトトシ所命ノ線ニ南下スト

十月六日迄ノ「コレラ」患者800余、死亡約300 赤痢325、死亡5名 道路泥濘輻輳、到底先方ニ到着シ難ク朝八・三〇頃出發シタル參謀ノ先頭カ午後二・〇〇頃西原大佐等ハ四・〇〇少シ前漸ク到着セル有様ニテ司令官ハ移動ヲ中止サレ予ノミ出發シタルモ途中橋梁破損ノ為輜重車自動車東西ヨリツメカケ夜ニ入りテハ馬ノ通行ニ至難トノコトニ已ムナク引返セリ

織田大佐ノ部隊ハ大体揚行鎮江灣道ノ近クニ進ミ吳淞「クリーク」ヨリ右折シテ揚行鎮ニ至ル水路ヲ利用シ得ルニ至レリ

13 Dノ一旅団砲兵ノ大部ヲ以テ新不橋及其東南ノ陣地ヲ奪取セシムルコト、11 Dハ兩翼隊ヲ以テ揚涇クリークノ線ヨリ攻撃前進シ広福モ奪取スルコトナリ更ニ西原大佐代テ処置ス

9 D変化ナシ3 Dハ一部正面ニ於テ千餘許リ進出101 Dハ其右翼3 Dトノ境界ニ近キ五宅マテ進出セルモ左翼ハ進捗セス

「基」は基数を意味する。彈藥数を表す単位であつて通常一基数は野山砲にあつては「百發」を意味する。

◇十月十一日 曇リ天候ノ恢復ヲ祈ル

朝〇九・三〇乗馬ニテ出発一一・三〇揚家宅ニ到着途中道モ悪ク諸隊道路ニ充滿シ軍司令官ハ馬ニテモ一寸通過困難多分明日トナルヘシ

101 D左翼ニテ困難ナル渡河並其後ノ戦闘ヲ指揮シアリシ加納大佐(101 R長)ハ今朝戦死セリ同聯隊ハ既ニ一大隊長戦死、一大隊長負傷後送、一大隊長ハ輕傷後昨夜(?)夜襲ニ出発シタルモ其後ノ消息今ニ至ルモ不明、依テ師団司令部附中佐ヲ臨時聯隊長ニシタトノコトナリシヲ以テD命令ニテ一時聯隊ヲ指揮ヲ執ラシムルヲ適當トスヘシト答ヘ置ケリ

軍司令官午後二・三〇揚家宅司令部ニ到着

3 D 6日7日ノ敵屍体一、二八〇、小銃25、LG 18、MG 9、速射砲2、小銃彈藥一五、一〇〇、手榴彈一、一一〇

101 D、3 D少シ進歩シ最先頭ハ大場ノ線ノ北方約二詰ニ達セリ乍浦、金山城方面偵察ニ行キタル芳村中佐午後帰来、大体敵前上陸ハ金山東側二千呎ノ海岸ニテ出来得ルモ敵ノ防備モ相当アリ殊ニ全ク遮護ナク錨地モ悪ク舟艇ノ溜リ全然無ク到底一師団ノ補給不可能ナリ乍浦ハ此点稍良好ナルモ之トテモ一師団ノ補給輸送ハ甚タ危マル其他ノ条件総テ宜シカラス次長553電ノ五項目ニ就テ返電ヲ出セリ

◇十月十二日 曇リ

劉河口白茆口方面陽動ノ結果敵ハ依然相当兵力守備シアルヲ知レリ、水兵一戦死

加納大佐戦死約一時間前、師団參謀長宛報告要旨(十一日八・五〇) 1、連日降雨ノ為各種ノ連絡殆ト杜絶 2、曹宅攻撃ハ手榴彈ノ投擲ニ依リ二火点ハ不十分ナカラ破壊セルモ尚多数存シ在シ十一日午前〇・三〇頃突入セルモ同時兩正面ヨリ多数ノ敵逆襲シ来リ不成功ニ終リ吉川103 i大隊長以下歩兵中隊長ハ兩聯隊共ニMG長ヲ除キ全員未タ所在不明兵力ノ半数モ所在不明ノ

有様ニテ当方ニ面スル曹宅部落縁端ニハ支那兵ノ行動スルヲ見ルヨリ察スルニ僅カノ兵力カ部落ノ奥深く進入シタルカ或ハ突入後多数死傷シタルモノカト存セラレ搜索スルモ未タ明カナラス

3、左正面ハ逆襲ヲ受ケタルモ頑強ニ抵抗既ニ銃器ハ使用ニ堪ヘサルモ白兵ト手榴彈ヲ唯一ノ武器トシテ平然トシテ戦闘、其頑強サハ部下ナカラ驚嘆ニ値スルモノナリ(昨夜死傷ナシ) 4、兵中(一部ノ幹部ニモアリ)ニハ既ニ戦意ヲ失ヒ自ラ間違ヒタル振リヲナシ或ハ故意ニ「クリーク」北岸ニ後退セントスルモノアルハ只申訳ナク今ヤ三人ノ大隊長、中小隊長ノ大部ヲ喪ヒ纔カニ幹候出ノ伍長位カ中、小隊ヲ指揮スルコトトテ夜間戦闘ノ如キハ掌握殆ト出来ス 兵ハ敵ノ射撃ヲ受ケ或ハ傷者テモ出来レハ良イコトトシテ介抱ヲ名トシテ暗夜後退スル者少カラス 涙ヲ吞ンテ口惜シク存セラレ候モ相当幹部中ニモコノ思想ナキニアラス 深憂ニ堪ヘス只小生ノ信賴シ得ルハ三ノミニ候 右衷情ヲ披瀝シ泣言ヲ申スノテハナク御耳ニ入ル」 十月四日大平橋(刘家行北方一結余)附近ニテ工兵少尉一投降セリ敵ノ瓦斯準備ハ云フニ足ラサルカ如シ

蘇州河以南租界ニハ正規兵便衣隊潛入シアリト領事ヨリ抗議セシム

午前一〇・三〇頃藤田部隊ヨリ報告、伊東部隊右正面ノ敵顧家宅―大場道方面ニ逃走スルモノアリ相当ノ損害ヲ与フ

公大飛行場ニ浦東方面ヨリ(午前六・〇〇頃)野砲級數十発ノ射撃ヲ受ケ海軍機二破壊 裏ニ攻撃ヲ十三日ト言明サレタノヲ十五日ニ訂正、内山カラ未タ歩砲ノ協同カウマク行カス 現有砲彈ニテハ此様子テハ心細シトノコトニ重ネテ各師団參謀長ニ注意ヲ出ス 無電ヲ監督シタルトコロ第一線ニテハ生文ヲ相当使用シアリシニ依リ之亦注意ヲ促ス

本日ハ3 Dノ右翼隊(68ヲ主力トス)カ一步進出シタル外殆ト變化ナシ谷川支隊ノ左翼ニハ敵カ少シ進出シテ工事トノコト

3、11 Dノ補充員到着、荻洲部隊モ二〇〇〇許リ上陸適切ナル処置ナリ 半弦ノ明月一点ノ

雲ナシ 夜ハ冷ユ

◇十月十三日 薄雲点在スルモ好秋日和

飛行機ノ活躍目醒シ 海軍ノ一隊ハ今日モ南京襲撃ニ出發セリト 昨日ヨリ九・三〇司令官ノ報告会報

9 D 兩旅団長ノ位置スル隆家宅ニ敵砲彈十數發落下セルモ全部不発、我24 H 四〇発射撃(陳家行)シタルモ半数不発、30 M 四發試射シタルモ之又二發不発ナリシト云フ

新聞報ニ依レハ内閣參議院カ出来事變ニ關連シテ善後策ヲ講ストノコト、其顔振レハ宇垣、荒木、末次、安保大將、町田、前田、秋田清、郷、池田成彬、松岡洋右

長中佐、陳天民ノ件ニ就キ武官室ト連絡、彼ハ今ニ至リテ部下ニモ予メ金ヲ分配スル必要アルヲ以テ百万円前渡ヲ要求シタル由、依テ何トカ調達スヘシト約シアル由 陳ハ目下南翔ニ在リト

101 D 右翼中央(157 i、149 i)ハ本未明夜襲シタルモ不成功、本日午後四・〇〇—五・〇〇更ニ突撃セントシタルモ不成功トノコト、砲兵ノ位置遠シト注意シタルモ道路悪ク進出シ得スト称シ十分推進シアラス 11 D ハ一部揚陸「クリーク」ヲ渡リ他ハ渡河準備中明日未明渡河シ攻撃スト 但此正面敵陣地ハ近ク三線アリ(101 D 正面モ写真ニ依レハ網ノ目ノ如シ)

13 D ハ緒戦ナレハ慎重ニテ昨日ヨリ至近ノ距離ニ在リナカラ未タ突撃スルニ至ラス

軍司令官少シヤキモキシ何トカ工夫ヲ言ハルルモ目下ノ所力押シニ押スヨリ他途ナク結局根氣比ヘ意志ノ闘争ナリ

◇十月十四日 好晴

軍司令官ハ朝ノ会報後參謀ニ13 D 第一線トシテ速進シ同師団ノ一部及11 D ノ一部ヲ予備トシテハト意見ヲ述ベラレタルモ予ハ時期尚早、暫ク13 D、11 D ノ攻撃状況ヲ見ルコト、工兵ヲ第一線ニ出シ攻撃築城ニヨリ奪取セシムヘキヲ進言ス 101 D 左側「クリーク」北岸ヨリ織田部

隊右翼「クリーク」南岸齊家宅ノ一部ニ亘ル間ヲ軍直轄トセル後備大隊(一中欠)ヲ以テ守備セシムル命令ヲ下ス

月浦鎮ニ対スル水路輸送ハ隔日約60屯、揚行鎮ヘハ毎日約100屯トス(十月十六日ヨリ)、揚行鎮以西ニ於テハ師団ニテ多少利用シアリ台湾ヨリ来ル管ノ輕重爆撃機遂ニ来ラス(台湾ノ天候悪シキ為)陸軍省ヨリ補任關係ノ人六、七名来ル(数日振リノ定期飛行機ニテ)其話ニ18 D 106 D 114 D 105 D ノ一部ニテ当方面ニ作戰セシメ松井大將ヲ方面軍司令官兼任トスル案研究サレツツアリテ18 D ハ既ニ乗船待機他ハ十一日動員下令セラレタリト

101 D ノ外各師団少シハ進ミタルモ何レモ一村落ヲ奪取スル程度ニ至ラス 司令官益々焦慮夕刻敵機2(?)来ル

◇十月十五日

昨夜ハ二機宛ニテ四回空襲アリ、本晚爆彈四公大飛行場及陸航宿舍ニ命中 海軍機一損傷、人員死傷ナシ

外人記者ノ談ニ依レハ3 D 正面ニ於テ敵19 D 督戰隊ト同志討セリト

30/9/10/10 3 D ノ戦果 俘虜四五、小銃一〇〇八、LG 一二六、MG 三九、小銃実包一八九、二〇〇、迫撃砲彈五八、手榴彈六五〇、有刺鉄線一五〇卷、地図二、遺棄屍体五、三六〇 大平橋ニ落下シ噴煙中ノ迫撃砲彈ヲ持参各種実験検査ノ結果発煙剤ニ「ホスゲン」ヲ混入セルモノナルコトヲ明確ニシ二・〇〇頃実験部長来テ説明セリ 尚一昨日3 D 正面ニ破裂セス黃色煙ヲ噴出スル彈丸ヲ認メタル等他ニモ此種彈藥使用ノ疑アルモノアリ

台湾飛行隊本日午後到着但輕爆一ハ途中不時着水セリ結局到着セルハ重爆6 輕爆9機ナリ 上村副長101 D 司令部及102工藤旅団ヘ連絡 西部李宗樞ニ対シ砲撃後突撃(午後三・〇〇頃)シタルモ兵続カス一旦退却セル敵兵再ヒ陣地ニ就キ50 M ノ線ニ停止セリ本夜奪取ヲ期ス101 i ハ今尚壕内ニテ混乱シアリ何トモ為シ難シ整理後一部ヲ残シ主力ヲ右ニ転用スル企圖ヲ有ス 103*

第二野戦化学実験部 長 工兵大佐
風早 清 22期

歩兵第百二旅団 長 工藤義雄 17期
少將

103 歩兵第百三聯隊(101師団)

大隊長（吉川少佐）夜襲ノ際モ大隊長及其機関ハ難ナク敵陣ニ入り大隊長ハ煙草ヲフカシ居タルモ兵統カス其中ニ敵ヨリ逆襲サレ書記等カ無理ニ大隊長ヲ後退サセタル途中見失ヒタリ從テ屍体ハ彼我ノ中間ニ在ルヘシト、今日ハ全線戦況發展セス 而モ特設隊ノ兵ハ指揮官ノ前進突撃ニ從ハサルコト 13 Dモ同様トノ話慨嘆ニ堪エス

◇十月十六日

天候悪化スルヤニ思ハレタルモ幸ニ風強キノミニテ大体晴

朝会報ノ時 11 D正面ヲ防勢ニ立タシムル件及大体現在ノ線ヨリ総攻撃ヲ開始スルノ必要アルコト及近キ將來ニ瓦斯使用ノ必要ヲ生スルヤモ知レサルヲ以テ近日中ニ其意見ヲ上申スル考ヘナル旨ヲ述ヘ作戰指導ニ就テハ最初ノ案ヲ抛棄スヘキヲ主張シ第一課長ニ更ニ研究ヲ命ス 尚本日長中佐 11、13 D、重藤支隊ニ実情調査ト 13 Dニ老陸宅附近攻撃促進ノ為派遣、長中佐ノ性格及從來ノ行動ヨリ見テ危険ヲ冒ス虞大ナルヲ以テ大体師団司令部ニ止ムヘキ注意ヲ与フ

本日迄ニ判明セル敵ノ総兵力七十ヶ師ニ達セリ

新ニ黃浦江内ノ警備ニ就キタル十二戰隊參謀、内山旅団長、瓦斯廠長岡田宗弐 武官室ニ着任ノ士校中井中佐等來ル

101 D胡家庄南岸ニ占拠セル敵ヲ四方ヨリ「クリーク」ヲ渡リ（午後四・〇〇過）攻撃一小隊ニテ突入シ午後一〇・〇〇迄白兵戦ヲ交ヘ約三百人ヲ刺殺セリ、其小隊長ハ予備少尉清水某ニテ敵ハ疲勞シヒヨロヒヨロナリシト

内山旅団長ハ大場攻撃ハ二十日過トイフ判決ヲ持參ス

長中佐歸來、荻洲中將ノ作戰上ノ意見希望ヲ聞キ司令官ノ御考ヘモアリテ老陸宅附近攻撃ニ軍砲兵ノ協力、孟家宅攻略ノ為之ヲ 13 Dノ地境内ニ入ルルコト及 11 Dノ一部ヲ以テ概ネ現在線ヲ守備シ主力ヲ集結スル件ノ命令案ヲ作ルコトヲ西原ニ命ス 近來西原ハ「ドウデモセイ」ト云フ様ナ氣持ニナリ課長会報ノ時ノ事ヲ課員ニモ伝ヘス、課員ハ課長會議ニテ作戰ヲ決定セラ

レアルカ如ク感違ヒシアリシトノコト

今日モ全線殆ト進展セス

◇十月十七日

臨參命 118 号、北支ヨリ独攻重 I（丙）（自動車二中、八門 15 K）独攻重 II（自動車ナシ同上）第三索引自動車隊（乙）、戰車 I・独立輕裝甲車隊 2、6、7 中隊、独氣球第二中

重藤支隊北島參謀早朝連絡ニ來ル、不相變澆刺タル志氣、糧秣モーケ月分ヲ本道上ニ集結スル考ニテ既ニ十日分集メ得タリ、平病稍多ク志氣ノ振興ニ努メアリ、支那板蓄音器揭示板ニテ戰意ヲ鈍ラス本朝投降者一アリ

唐家宅及其南方敵ノ拠点ハ明日アタリ爆破占領シ得ル如ク坑道進ミタリ、嘉定攻撃ノ時ハ支隊ハ太倉急襲一兵団ハ劉河南側方面ヨリ嘉定ノ東北方ニ向ハシムルヲ有利トスト考ヘアリ、西原ノ聞キタルトコロニテハ新軍司令官ハ柳川中將、參謀長田辺少將、作戰課長藤本、第二課長井上大佐トノコト

此軍ノ上陸地到着ハ十一月二日ノ予定ナリト

正午頃楠本大佐來リ陳天民ノ謀略ニ就キ攻撃時機延期ニテ彼カ既ニ準備シタル關係上甚タ困難トナレリトノコト司令官ハ少シ早クトモヤラセヨトノ意見、白崇禧ト連絡、本夜仲介者ニ會フ管中井中佐ハ之カ補助ノ為來レルモノ、稻刈ノ件台灣軍ヨリ問ヒ合セアリ、第三課ニテ返答スル管ナルモ次第二収獲高ヲ減スルハ已ムヲ得サルトコロナリ

9 Dハ陳家行ノ殆ト全部ト左翼塘北宅ノ全部ヲ占領シ 3 Dハ右翼カ前方ノ無名部落ヲ中央カ葛家神樓宅ヲ占領セリ、13 D長ハ本十七日三家村附近ノ攻略ヲ命シタルモ第一線ハ變化ナシ、101 D亦同シ 11 Dハ概ネ現在線ヲ步三大、砲一大ニテ守備シ敵ヲ牽制、騎兵集團ハ軍直、13 Dハ速ニ三家村孟家宅附近ノ敵陣突破八字橋花字橋宅ノ線ニ進出スヘキヲ命セラル

9 Dノ陳家行攻撃ニ於テ一昨日東端奪取ノ時ニ敵ノ屍体 300、本日奪取ノ際敵ノ俘虜約 60 早速

上海派遣軍第七野戰瓦斯廠 長歩兵少佐 岡田宗弐

独攻重 I II は独立攻城重砲兵第 1、2 大隊

後方工事ニ使用シアリト

24 H 本日ハ命中中稍ヨク村落命中ノ彈丸ハ破裂セリト

芳村参謀参本ノ鈴木中佐海軍側等ト杭州湾上陸ニ就キ研究、参本ハ強行ノ考ニテ進ミアリ海軍三艦隊ハ反対、予モ万全ノ準備ト慎重ナル案ヲ以テ実行セサレハ意外ノ失敗ヲ招ク慮アリト思惟ス

◇十月十八日

昨夜敵機二回襲来王浜飛行場ニ二発命中(15^K) 損害ナシ 重藤支隊正面ニハ250^K級ヲ投下セリト

上海野戦防疫部ニ敵迫撃砲ノ焼夷弾命中殆ント全部ノ材料焼夫(海軍ハ全部) 陳家行西端ニ出テタル部隊(一小隊位ナリシカ如シ)ハ敵ノ逆襲ニ依リ中央部迄後退セリ 何レモニガニガシキ事共ナリ

9 D 左翼ノ後方橋亭宅ニ敵ハ復モヤ瓦斯彈ヲ相当数射撃セリ蒐集ノ後軍司令部ニ送ルト十六日迄ノ死傷統計二二、一五八、谷川支隊、死・准以下9、傷・将1准以下66、計76

午後10^D参謀長ヲ呼ヒ実情ヲ聞クト共ニ「隊長進ムモ部下統カサルコト」「一部隊カ一旦占領シタル地点ヲ敵ノ逆襲ニ依リ旧陣地ニ後退スルコト」ニ就キ直接法ニ 注意ヲ与ヘ且師団命令ニテ漫然ト兩翼隊ニ攻撃続行ヲ命スル方法ヲ採ラス師団ニテ奪取スヘキ地域ヲ定メ堅キ決意ヲ透徹シテ敢行スルコトヲ要求ス之ニハ勿論軍砲兵、飛行機ヲ協力セシム、尚左翼隊ハ明朝更ニ一機関銃座ヲ奪取シ明晩約一大隊ヲ残シ主力ヲ右ニ転用スト

午前11^D参謀長ヨリ電話ニテ11 Dハ爾後遠ク突破作戦ニ使用サルヤトノ問ニ対シ或ハソウナルヤモ知レサレトモ現在ニテハ長中佐力連絡シタル通りナル旨答フ 之ニ対シ師団長ハ是非攻勢のニ使用サレタシト又和知聯隊正面ノ呉家宅迄ハ師団ノ一旅団砲兵ノ全部ヲ以テ奪取シタル上所命ノ集結ヲ行ヒタシトノコトニテ之ヲ是認ス 其時機ハ明後二十日トノコトナリ

参本は参謀本部

15 K・250 Kは15^{グラム}・250^{グラム}爆弾

表後掲

101 D 参謀長 歩兵大佐 西山福太郎 24 期

11 D 参謀長 片村^{しほ}四八大佐 23 期

井本熊男 37 期 『作戦日誌で綴る支那事变』(芙蓉書房) より

河辺作戦課長は十一月十七日、上海に連絡のため出張、井本参謀はこれに随行した。

上海派遣軍司令部訪問

十一月十八日、上海派遣軍司令部を訪う。大場鎮南方約一^{キロ}、周宅という部落にあった。派遣軍司令部は長期の苦しい陣地戦と取組んだため、かなり気分が沈滞しているらしいことであった。実際訪れて見ると、それは予想をはるかに上まわるものであった。

河辺大佐は挨拶して来意を告げたが、飯沼参謀長以下六、七名の参謀は、一団となつて話をしつつ全員ほとんど見向きもしない。それでいて参謀間の話は、来訪者(河辺)に聞かせるのが目的であるらしい。

参謀部との接触

西原大佐「重藤支隊は、正面の敵陣地はトーチカを築き堅固で抜くことができぬという。こんな意見具申をよこした『軍は第十一師団を以て、福山上流に上陸作戦を遂行せられることが必要である。そうしなければ、正面堅固で抜け

	将 校		准 以 下		計		総計
	死	傷	死	傷	死	傷	
3D	76	170	1,394	4,721	1,470	4,891	6,361
11D	60	145	1,789	4,685	1,849	4,830	6,679
101D	32	135	324	2,723	356	2,858	3,214
9D	21	91	500	521	4,014	4,105	4,626
13D	2	3	17	155	19	158	177
重藤	8	20	244	743	763	262	1,025

大坪中佐ヨリ陸軍省各課ヨリ来リシ人カスクスクノ件ニテ希望アラハ申出テラレタシ万全ノ努力スヘシトノ諸条件ヲ聞ク

本日ハ3 D 若干進出シ一部(中央)ハ所命ノ線ニ進出セリ

9 Dノ九月三十日ヨリ十月十日迄ノ戦果、遺棄屍体二、四六九、鹵獲MG二五、LG五、小銃三九四、小銃弾二九、五四〇、手榴弾二五〇、夜鈴木中佐田尻少将杭州湾上陸ニ就キ協議結局甚タ困難(殊ニ常統補給)ナルモ万全ノ準備ヲ為シテ断行セハ実行シ得ヘシ、然レトモ敵ノ野戦軍ヲ捕捉セントスルナラハ寧ロ常熟蘇州ノ線ヲ遮断スル如ク白茆口附近ニ二、三師団ヲ上陸セシムルヲ可トス若シ兩者同時ニ為シ得レハ最モ可ナリ若シ兩者ヲ実施スルモ遅速アリトセ

ハ本流ヲ先ニスルヲ可ト認ムル旨意見ヲ述フ

田尻少将偵察結果ヲ司令官ニ報告 其際司令官ハ三師団ヲ杭州方面ニ使用スルトセハ先ツ一師団ヲ浦東地区ニ上陸セシメ其作戦ヲ若干進捗セシメタル後二師団ヲ金山附近ニ上陸セシムルヲ得策トストノ意見ヲ述ヘラル

我陸軍戦闘機一、敵高射砲ノ為撃墜サル

◇十月十九日

江上ヨリ上流上陸地点偵察ノ為芳村参謀飛行機、二神及参本ノ鈴木中佐出發ス、陸軍省ヨリ出張ノ八名中大部ハ本日帰京スヘキニ依リ各主任者ヨリ依頼シタル骨子ヲ更ニ参謀長ヨリ述フ 3 D参謀長連絡ノ為来ル将来ノ為作戦地境ノ右ヲ少シ広メラレタキコト大場ノ線ノ「クリーク」ニハ攻撃前至近ノ距離ニ接近ス砲撃間要スレハ後退セシムトノコト何レモ合意ス

101 Dノ最右翼ハ本未明3 Dノ戦車ガ本道上ヲ突進シ敵ヲ制圧シタル機ニ乗シ膏家柳ニ向ヒ攻撃前進セリ其他ハ師団ノ計画ニ基キ攻撃中(以上ノ報告ハ誇大ニシテ殆ト攻撃前進セサリシカ如シ)又101 Dハ本日24 Hニテ協力セシメタルモ戦況進展セス戦力甚タ乏シ

3 Dハ張家楼下宅前宅黄宅ヲ占領セリ前宅ノ東北側ニ在ル陳宅ハ極メテ小ナル一、二軒ノ村ラシク南北ヨリ狭撃セラルル關係ニ在リナカラ尚頑トシテ退却セス、黄宅ニテハ遺棄屍体300俘虜30トノコト

9 Dハ北桃園浜ヲ占領セリ

13 D参謀長連絡ニ来リ104 i長田代大佐ハ戦時聯隊長ニ適セス機ヲ見テ転補セシメラレタシト因ツタモノ、但臆病ナルニアラス

11 D和知部隊ハ新宅ヲ奪取茲ニ於テ11 Dハ其正面ヲ22 iト交代、集成騎兵隊ノ正面ヲモ22 iニテ持チ後方ニ集結、騎兵隊長ハ本日來部夕刻迄ニハ揚家宅北方ニ集結スト

本夜3 D補充中隊長二名来リ3 D、101 D補充員二、〇〇〇人許リ到着只今第一線ニ前進中ト

ノコト

3 Dノ黄宅占領ノ際得タル俘虜中11名ハ負傷者ニテ処分19名ハ19、64、24、31、52 D各一名36 D14名ナリト、後日取調ノ結果改編シテ當時ハ皆36 Dノ者ナルコト判明セリ

101 D左翼隊ハ計画ノ如ク本朝曹宅北方河岸近キMG座ヲ占領セルヲ以テ同方面ニ一部ヲ残シ主力ハ一先ツ後方ニ集結スル筈(一大隊ノミ抽出シ他ハ逐次ニトノコトナリ)

◇十月二十日

本日正午前出發9 D、3 D司令部ニ行ク、9 Dハ補充員ノ到着若干ノ訓練ノ後即十月三十日ヲX日トセラレ度トノコトナルモ之ハ絶対ニ否認シテ歸ル、参謀長以下志氣衰ヘサルモ最初ノ如キ意氣ヲ見得ス、井出ノ消極的性格問題トナリアリ、師団長モ直接注意セラレタル由、下校亦十分ナラス且目下「マラリヤ」? ニテ静養中ニテ結局師団ノ實際ノ戦力ハ1/3トナリ大隊ノ総員百二、三十名ノモノモアリ 伍長ノ指揮スル中隊数個アリトノコト 師団長ニノミ新軍ノ上陸ノ件ヲ告ケ絶対ニ遷延シ得サル旨極言シテ歸ル、後方機関ノ為作戦地境ヲ拡ケラレタキコト手榴弾等ヲ欲シキコトヲ聞ク、3 Dニテハ其左翼ヲ出スコトヲ要求シ師団モ其ツモリ、只片山旅団長相変ラス十分ナラス 6 iノ素質悪ク此点閉口シアリト、三・〇〇歸着、途中通路上ニ馬ナシノ彈藥車ヲスラリ列ヘタルモノ(内山隊)等交通上ノ注意足ラサルモノ少カラス

11 Dノ十月一日ヨリ十六日迄ノ戦果概要

「屍体七、六三二(砲兵隊カ三、六〇〇許リニテ之ハ多分ニ歩兵ト重複シアルヘシ)俘虜二七、迫撃砲三〇、MG一四〇、小銃三四七、小銃彈七、五〇〇、MG〔彈〕一二、〇〇、手榴彈八〇〇、チェック銃8水冷MG3」

敵ハ本日復13 D正面三家村ニ催涙性毒瓦斯彈ヲ射撃セリト

司令官ノ意ニ從ヒ井出宛、円曲ニ注意ノ手紙ヲ出ス

本日ハ13 Dカ三家村載家宅ヲ完全ニ占領セル外全線動カス

ない。もし右の作戦を実行せられるならば、当支隊に配属してある軍直部隊は引抜かれても支障はない。こんな状況であるから、とても戦況は進捗しない。道路を修理して重砲を持って行かねば駄目である」

飯沼「しかしそれ程頑強ではないかも知れぬ」

西原「いや、とてもいかぬ」

以上のような内輪話約二十分間。この間河辺大佐は立往生していた。この間河辺大佐は立往生していた。

河辺「何か承ることはありませんか。小言でも何でも」

西原「指示の線(蘇州—嘉興)に止れば何等問題はないが、さらに主力を以て進出するならば、後方に無理がある。

飯沼「ガスの使用を許可せよ。南京はとってしまつてはどうか」(真面目な発言とは受取れない)西原「上海戦のような作戦では、特設師団は防禦以外には使用できない。第百一師団は蘆漢沿リークでへこたれてしまつた。第十三師団も戦力は似たりよつたり。団結、装備特に団結は最もよくない。

第百一師団は、一小部落に二万発の射撃をしたことがある。

敵が退却しても、突入することができない。たまたま突入しても、逆襲を受ければ逃げて帰った。歩兵第百三聯隊の某大隊は夜襲の際、大隊長と二、三名が突入したがあとは続かなかつた。突入した時は敵はおらず、大隊長は部下が来ないので煙草を吸っていたところ、そこへ逆襲を受けた。部下に促されて元の陣地へ帰る途中、彼我中間地区で戦死した。部下は翌日までそれを知らない有様であつた。戦死者を見ても顔を知らず、隊長も戦友もあつたものではない。困つたものである」

上村「今少し訓練すれば、多少よくなるであらう」

西原「①、第一回の補充兵は、会戦前に到着していることが必要である。天谷支隊の歩兵第十二聯隊は上陸後十日間に三千四百名が九百名になった。補充兵はその後長く来ない状況であつた。

②、歩兵が敵の機関銃をどうして制圧するかを考えて、装備をきめる必要がある。砲弾は、いくら撃つても局部には届かない。掩蓋下の機関銃は、三十七ミリ歩兵砲では制圧できない。

武官室ヨリ密電ニ依レハ「敵ハ大場陣地ノ一角ヲ敵ニ突破セラレタルニ依リ真茹南翔ノ線ニ退却スヘシ」トノコト又本日四・三〇頃大場鎮方面ニテ盛ニ「黒竜」ヲ打ち上ケ、9 D司令部ヨリ通知アリ軍司令部屋上展望台ヨリモ之ヲ望シ得タリト

11 Dハ22 iヲ以テ全線ノ守備ヲ為シ其他ハ(44 i共)本日集結セリ 本日モ暖カナ好晴、満月殊ニ良シ、半月程好天氣ノ続クコトヲ祈ル 一昨夜ヨリ高射砲ノ射撃ヲ禁シ戦闘機空中待機、敵機遂ニ来ラス

◇十月二十一日

十月X日ヲ二十七日ト決定シ攻撃準備線ヘノ進出ヲ二十四日正午トスル軍命令発令
参謀次長ヨリ第十軍ヲ編成シ(6 D 18 D 14 D 5 Dノ一部)杭州湾北岸ニ上陸セシメラルル件
発令ノ旨電報アリ

海軍聯合航空戦隊司令三並大佐来部、積極的ニ要求ヲ聞ク為、武官室中井中佐 和知大佐ニ会フ為ニ行ク途中立寄、末藤大佐ハ特ニ来部、内地ヨリ上海方面ノ残況悲観ノデマ甚シキニ依リ戦況ヲ発表セラレ度トノ希望アリタルニ関シ打合せ

9 Dノ患者輸送モ手配スミ、手榴弾モ千個増給、急造焼夷剤モ材料送付方処置セリ

101 K長大島中佐来部

午後三・〇〇頃飛行機ノ報告ニ依レハ敵ハ新木橋、9 D中央正面、3 D右正面ヨリ南翔方向ニ散ヲ乱シテ退却中トノコト之ニ対シ第一線ヲ督励及偵察爆撃ス

13 D一・五〇新木橋占領追撃中、9 D談家頭、101 D中部李家橋占領

駐日独武官、在上海伊武官ニ司令官会ハルコトヲ承諾

13 Dハ一・五〇新木橋ヲ奪取追撃シタルモ敵ノ迫撃砲及側射ノ為同地西端ニ停止セリ、夜同参謀長ヨリ軍所命ノ線迄進出スルニハ多クノ日時ヲ要ス、「クリーク」ノ線ニテ我慢出来スヤトノコトナリシモ軍命令ナレハ変更シ得ス且近來ノ敵ノ動揺ハ数日前ト異ルヲ以テ断乎トシテ

行ヘハ突破ノ見込アルヲ以テ第一線ニハ決シテ手控シタル処置ヲ取ルヘカラス、但シ師団ノ見込ハ諒承ト伝フ

3 Dハ張家楼下宅ノ東部部落ヲ占領敵ノ屍体600、重軽機等相当ニ鹵獲セリ

午後和知聯隊長来部第一線ノ実情聴取、軍司令官ノ前ニテ白崇禧ヲ中心トスル謀略ニ就テ話シ和知ヲ其方面ニ使用スルヲ得策ト考ヘ且本人モ其事業ノ完成ニ全幅ノ熱意ヲ有ス、第一線ニテハ命令通り実行スルノ熱意ニ欠クルモノアリ 師団又命令ヲ飽ク迄実行セシムル氣力十分ナラサルカ如シ 四十九期皆立派ニヤリ殆ト全部死傷シタルモノノ如シ

平尾工兵等知和ハ言葉ヲ極メテ賞揚シアリ 武官室情報、中央軍ニハ既ニ昆山ニ退却ノ命令ヲ發セリト

当方面ニハ数日前ヨリ敵機来ラサルモ上海方面ニハ毎夜来ルト 又当正面ハ毎夜銃砲撃盛ナリ之ニ対シ101 Dハ志氣上ラサル為殆ト毎夜砲兵マテ射撃シアリ、本夜ハ重藤支隊方面殊ニ賑カナリ

◇十月二十二日 朝霧深シ

蔣ノ命令ニ基ク朱紹良ノ命令ヲ9 Dニテ取り(談家頭)本朝其訳文ヲ見ル 昨夜重藤支隊谷川支隊正面ニ対スル敵ノ企図セル牽制トモ見ラルルモ攻勢正面変化ナシ、9 Dハ本朝南桃園浜、丁字橋宅南部ヲ占領セリ今日ハ幸先ヨシ

118号命令ノ増加兵力ハ24ノ27日ニ上海着ノ指示アリシモ実ハ22(日)氣球中隊、23日輕裝一中31ノ2ノ11、I II率自中隊、戦大、輕裝二中ハ大連到着逐次乗船ノ予定トノ返電アリ

上海憲兵分隊ニ昨夜砲弾命中通訳即死

彈藥ハ大体心配ナキニ至リシモ糧秣ハ目下陸上ニ在ルモノ五日分位ト云フ心細キ状態ナリ

9 D 13 Dノ補充員ハ昨日今日上陸中

北野少佐ヨリ聞キタル彈藥ノ状況、21ノ10月ノ10ノ11月ノ期間、各隊ニ於テ使用シ得ル彈數

第三師団の蘇州河渡河攻撃は、機関銃二挺のために阻止されたといつてもよい。

③、飛行機の整備が必要である。陸軍の飛行機はあまり役に立ってない。海軍は、陸軍のパイロットは機関に対する觀念が乏しい、と評している。『陸軍は飛行機を大事にお使いになりませう』と皮肉を云っている。第九師団は上陸早々飛行機にやられ下坂参謀等戦死、その後飛行機に対し極めて敏感となっている。

④、歩砲の協同についていえば、最後の砲弾に続いて突入することは、精銳な常備師団であった当初は可能であったが、補給を以て交代した後はできなくなった。一方砲兵は前線に出ることをいやがる。配属しても協同はなかなかできない。第一線の歩兵聯隊長が出ると命令しても従わない。

特例として、第三師団の歩兵第六十八聯隊と野砲兵第三聯隊の某大隊は協同が機動的によく行っている。

⑤、一會戦の彈數は、増加する必要がある。第一百師団は第三

師団と交代後、蘊藻浜クリークに出るまでに、一會戦分の彈藥を消費した。彈丸がなくては、大砲がいくらあっても役に立たぬ。第三師団は一時百二十門の砲兵の協力を受けたが、彈藥が不足していたため戦闘は進捗しなかった。

⑥、糧食はハイカラのものはいらない。疲労回復素など、配給しても意味をなさない。

⑦、手榴弾の曳火時間七秒半は長すぎる。着発は発火しないものが多い。第一線小隊長でこれを憤慨して、軍司令部にどなりこんだ者がいた。手榴弾では支那に負けた感がある。

⑧、隊長によって部隊の強弱が分れることは、平素から原則的にいわれているが、實際戦をやってみて、その真実が深刻におかった。曲折凸凹のある我戦線で、突出部は常に隊長の優れた同一部隊で成形されている。こんな部隊は、文句を絶対に云わない。」

〔付記〕当面の状況を判断し、柔軟な思想をもって用兵を行うべきことは、兵家の戒めである。しかし實際は、それを適切に行うことは困難である。上海の陣地攻撃

等(別表)

一〇・三〇頃ヨリ新木橋附近ニ対シ昼間攻撃シ来ル、此機ニ大打撃ヲ与フル為予備隊ヲ増加スト11Dノ22i正面電話通セス不明

9Dハ二・〇〇孟宅ヲ占領ス、急造迫撃砲ノ試射ヲ為ス 其他急造手榴弾、監視鏡等工夫セルモノヲ見ル

9D蘆宅ハ占領シ得サルモ其東方ニ於テ「クリーク」ヲ超エ、中央モ同線ニ進出ス、9D左翼ニ六・〇〇頃六、七百ノ逆襲アリ 其際催涙瓦斯ヲ使用シタルモノノ如ク全員防毒面ヲ使用シ撃退セリ 其他ノ戦線変化ナシ

参謀本部公平砲兵中佐来部 第十軍ニ関スル書類持参、司令官ハ浦東ニ一師団上陸ノ考ヘヲ電報セヨト言ハルルモ最早案ヲ改メシムル余地ナキヲ以テ思ヒ止マル様具申ス

夜襲ヲ以テ9Dハ朱宅(丁字橋宅南方) 3Dハ陳宅、朱宅(箭宅ノ北側及西南側)ヲ占領セリ

◇十月二十三日

第十軍ノ上陸ニ関シテハ軍司令官ハドウシテモ黙視スル能ハストシテ天候其他ノ状況ニ依リテハ変更セサルヘカラサルコトアルヲ顧慮シ準備セシメラレ度意味ノ電報ヲ次長宛発ス

和知大佐ヲ特務機関ニ充用ノ件、上村副長ヨリ諫山及青木大佐ヘ私信ヲ書キ本日飛行機ニテ帰ル公平中佐ニ托ス

101Dハ本早朝膏家柳ヲ占領前方ニ斥候ヲ出シアリト

臨参命127号ニテ隸下ニ入ランメラレタル部隊、第二野戦高射砲兵司令部、独工第九聯隊(乙)第三野戦建築部、野電第二中隊(車)同三十四中隊(駄)無電49小隊(駄)第六手押輕便鐵道隊、3Dノ3建築輪卒隊、6D第一建築輪卒隊、第五野戦道路構築隊、北(支)方面軍等ヨリ6D第三陸上ユ卒隊、5D第三陸上ユ卒隊、9D第八第九ユ卒隊 以上ハ大体十月二十七、八

日頃到着ノ予定ナリ(遅キモ十一月九日トナリアリ)

126号ニテ当軍GD第一、第二野戦照空隊ヲ第十軍ニ転属

9Dハ本日午前、候行及陳家宅ヲ大ナル抵抗ナク占領セリ前面ノ敵情益々注意ノ要アリ、内山旅団長来部西原立会ノ上左ノ件諒解ヲ得タリ、対砲兵戦ノ時ハ一時9D3Dノ砲兵ノ一部モ軍砲兵指揮官指揮スルモ大体砲兵戦ハアマリヤラス 師団砲兵ハ専ラ歩兵直協ノ精神、攻撃間要スレハ3D砲兵ニテ9D左翼正面ヲ砲撃援助スルコトアリ、X日前日一部ノ(24H等)攻撃準備射撃ヲ行フ、予ハ内山ニ対砲兵戦、攻撃準備射撃ニハ極力弾丸ヲ節約シ突撃支援及歩兵推進ニ十分使用スルヲ有利トスル旨意見ヲ述ヘ置キタリ

昨夜半一・〇〇過敵機珍ラシク来リ王浜、宝山飛行場附近ニ投彈 被害ナシ

9Dハ大ナル抵抗ナク概ネ所命ノ線ニ進出師団ハ引キ続キ「クリーク」ノ線ニ追撃スト、敵ハ大体西南方ニ退却中トノコト 夕刻ニハ其最先頭部隊(36i?)ハ走馬塘「クリーク」直前ハ房宅ヲ占領セリ(二大隊)依テグングン前進スヘキヲ要望シタルモ師団ニテハ実ハ既ニ戦力尽キアルヲ以テ此処ニ補充員ヲ入レ予定ノ如ク二十七日ヨリ攻撃シタシトノコト

3Dハ李碩宅ヲ占領セリ、先キニ占領セリト伝ヘラレシ陳宅ニハ今尚三百許ノ敵死守シアリ、最先頭(68i?)ハ湖里宅、黃宅ヨリ前方ニ対シ対壕ヲ進メアリト

夜佐々木参謀ヨリ現在ノ軍通信状況ヲ聞ク、大体満足スヘシ、13D酒井参謀来部、軍司令官ヨリ松茸ヲ貰ヒタル御礼ノ為ト戦況報告ナリ 58i軍旗ハ新木橋ニ対スル敵ノ逆襲ノ際敵ノMG弾(?)ノ為折損、副官戦死、旗手重傷

13Dハ老張宅ヲ占領セリ

3D李碩宅占領ノ時戦車中隊長支那兵一名ヲ捕ヘ之ニ投降スル者ヲ呼ヒ来レト命シタルニ25名許アリ戦車ニ珠数ツナギニシテ帰還其他ニモ二十数名ノ捕虜アリタリト

で、二ヶ月半も悪戦苦闘した上海派遣軍は、敵が総崩れになって退却を始めてから十日以上経つても、なお陣地にひっかかっている観念から、脱却することができなかった。日露戦争で、旅順要塞の攻略に苦難を嘗めた乃木大将の第三軍司令部に対し、次の奉天会戦に参加する前、司令官以下新しい陣容に入れ替えようとする意見があったと記録に見える。考えさせられる問題である。

飯沼少将は四十九期生陸士在校時の生徒隊長であった。

輕装は輕装甲車、牽引は牽引自動車、戦大は戦車大隊

野電は野戦電信。無電は無線電信

近衛師団第一野戦照空隊(長砲兵大尉 尾崎 勝)
近衛師団第二野戦照空隊(長砲兵少尉 笛木林一郎)

◇十月二十四日

本日午前二・〇〇頃9D斥候ハ走馬塘「クリーク」ヲ超ヘ張宅ニ進入シ敵カ西方ニ退却スルヲ見、軍ニハ五・〇〇頃其報告到着 然ルニ9Dハ尚昨日其進出ヲ軍ニテ止メタト勘違ヒシ本朝モ出足鈍ル、3Dハ状況ノ通報ニ依リ進撃ニ移ル 101D亦前方ノ村落ニ進出ス

八・三〇軍司令官ノ承認ヲ得電話ヲ以テ追撃命令下達 北唐宅3D第三野戦病院ニ昨夜一二

・〇〇頃爆弾2個投下戦死10、負傷15、馬10数頭死傷

二十一日張宅（陳家行東南約二結）ニ於テ捕ヘタル軍イ大尉ノ言ニ依レハ朝食7〜8時夕食

5時頃、「マラリヤ」流行シアリ、材料ハ塹壕ニ入レアリ、患者後送機関ハ団ニ担架卒40名、

師ニハ80名（174師所屬）

3D9Dハ正午頃迄ニ走馬塘「クリーク」ノ線ニ進出シ橋モ現存シ敵モ大ナルモノナキニ拘ラ

ス容易ニ進出スル氣配見ヘサル為軍司令官ニ3D司令部ヘ行カルコトヲ願ヒ、9D13D長ヲ集

メ督促セラル 此頃（三・三〇頃）9Dノ一部ハ「クリーク」ヲ越ヘタル報アリ（之ハ誤リ）

然レトモ各師団共急追ノ意氣ナク本日ハ大体其近クニテ日没トナルナラン

科学研究所長多田中将急ニ來部、研究ノ上新考案ノ兵器ヲ使用スルコトヲ具申スト（満洲ニ

行ク予定ヲ變更急ニ來ラレタルモノ）五・三〇帰着、不在中杉山艦隊參謀長來リ御視、共同租

界ノ警察權ヲ日本軍ニテ持タサレハ掠奪等アリテ取締ツカズ、放送所ヲ急設スルコト海軍飛行

機ハ広東爆撃ヲ止メ全力ヲ此正面ニ用フルコト等ノ伝言ヲ西原ヨリ聞ク

夜九・〇〇ニ知り得タル状況、13D孟家宅占領（過日ノ老陸宅占領ハ誤リ）

9Dハ右翼隊ヲ43iト午後交代、其他ハ右ヨリ36、7、35ノ順序ニ「クリーク」ノ線ニ進出

7ノ一部ハ三度渡河ヲ決行シ夜ニ入り渡河、3D亦左翼ヲ除キ「クリーク」ノ線ニ進出右翼隊

ハ本夜渡河ノ意ナキモ左翼隊ハ渡河スト、101Dハ沈宅翟巷、李家樓各北側ニ進出其左翼隊ハ曹

宅山宅ヲ占領、谷川支隊ハ競馬場西端ノ北方、南北天樂等及競馬場南方ニ於テモ概ネ其西端ノ

団は支那軍の聯隊、師は支那軍師

「第九師団作戰經過の概要」

第九師団參謀部

陳家行附近攻略後走馬塘「クリーク」に至る戰闘（十月十九日―二十三日）

一 攻撃部署

（十月十九日）師団は（十月二十

十四日）迄に走馬塘「クリーク」

北岸に進出し同「クリーク」南岸

敵陣地に対する攻撃を準備すべき

軍命令に接し直に師団予備たりし

36iを中央隊とし第一線に注入し

戰況の進展を図る。

二 戰闘經過（十九日―二十三日）

各翼隊は砲飛協力の下に力戰奮

闘一意攻撃進展に努め逐次鞏固な

る敵壘を抜き（十月二十三日）夕

には軍所命の期日に先つこと一日

率先攻撃準備線に進出するを得た

三 攻撃準備線進出當時に於ける

師団第一線の戦力

第一線歩兵の兵力は蘊藻浜

「クリーク」より走馬塘「クリー

ク」に至る約三吉の堅陣突破間或

は正面する敵歩砲火、或は右側面

よりする側射斜射の為或は突入時

に於ける手榴弾戰により逐次減少

し攻撃準備線到着時に於ては既に

其兵力約八分の一以下に減じ伍長

を中隊長とする長以下二十名内外

となりたる中隊渺しとせざるに至

れり

科学研究所長 多田礼吉15期工博

線ニ進出（競馬場ニハ敵味方共無シ）各我第一線前面ニハ尚多少ノ敵アリ

武官室ヨリ閘北ノ敵主力退却、第一線モ退却開始ノ報告アリ、明朝軍艦ハ鉄道棧橋附近ヨリ

大場東南方地区ヲ及其他ノ方向ヨリ江湾西端附近ヲ射撃スル答

追撃ハ困難ナルモノナリ 本朝ノ軍ノ命令ニ基キ此追撃ヲ誘発シタル9Dハ命令下達遅ク（午

後三・〇〇頃軍司令官ノ出ラルル時目下追撃命令下達中ナレハ師団長ハ刻モ離レ難シナド称

シ居タリ）9Dハ一・四〇更ニ攻撃命令ヲ下シ四・〇〇ニ至リ蘇州河ノ線ヘノ追撃命令ヲ下セリ、（師

団長軍司令官ノ指示ヲ受ケタル後ト思ハル）

印刷命令ハ午前一一・〇〇トナリタルモ第二項ハ「当面ノ敵ヲ撃破シ先ツ洛陽橋東西ノ線ニ

進出セントス、攻撃ノ重点ハ毛家宅ヨリ張宅方向ニ指向ス」ト云フニ在リ且兩翼隊ニハ「速ニ

攻撃前進スベシ但八房宅東西ノ線（クリーク）ノ線ナリ）ヨリノ前進ハ別命ス」トアリ（此命

令ハ軍命令ヲ受クル前ノモノトモ思ハルモ「軍ハ蘇州河ノ線ニ向フ追撃ヲ企図ス」トアリ）

然ルニ積極的ナル重藤支隊ハ早クモ九・三〇「軍ハ9D、3D、101Dヲ以テ蘇州河ノ線ニ向ヒ

追撃中ナリ」ト云ヒ第二項ニ「支隊ハ敵ニ当面ノ敵ヲ監視シ機ニ応シ敵ヲ追撃セントス」トア

リ各隊ニ追撃ヲ準備セシメアリ、指揮官幕僚ノ注意スヘキ所ナリ

又軍ニ於テモ既ニ昨朝9Dニテ此兆ヲ認メ第一課モ承知殊ニ本日未明ニ前記ノ如キ報告アリ

タルニ拘ラス第一課ハ軍ノ計画ヲ壞スト称シ何等処置セス且9Dニ其前進ヲ拘制スルカ如キ電

話ヲカケ遂ニ八・三〇迄遷延セリ（事実9Dハ止メラレタリト感シ其後ノ出足鈍レリ）

午前重藤少將ヨリ電話ニテ此際支隊カ嘉定ニ向ハサレハ敵ヲシテ嘉定南翔ノ線ニ抛ラシムト

ノ意見具申アリシモ軍ハ敵ノ該線ニ抛ルハ覚悟ノ前ニテ爾後更ニ大々的ニヤル考ナレハ支隊ノ

攻撃ハ暫ク見合サレタシト述ヘ、命令ヲ待ツヘシトノコト、軍司令官ニモ報告シ同意セラレタ

リ

◇十月二十五日

昨夜ノ中ニ9Dノ第一線各隊(35、36、7)ハ一大隊宛「クリーク」南岸ニ進出3Dハ遂ニ一兵モ南岸ニ出テス101Dハ翟宅ヲ占領シタル外変リナシ 一〇・三〇独武官オットー来部、司令官ト直接伝語ニテ会話

一・〇〇ニ知得セル状況、43iハ小郁公廟以北ヲ守備ス、9D各隊ハ渡河シ7iノ先頭ハ宗宅ニ進出、3Dハ34iノ一大、〇・三〇渡河各当面ノ敵ハ退却中101Dハ旅団長モ第一線近ク出テ督励、洪家橋姚宅、康家宅ノ線ニ進出、兵站後備隊ハ康家宅ヲ占領、遂ニ呉淞「クリーク」ヲ開放セリ

本日ノ内地新聞ニハ敵追撃ノコトカ大々的ニ出テ居リ総長殿下ヨリ祝電ヲ賜リシ旨記載シア
ルモ未着、北支方面軍司令官ヨリ祝電来ル、九月三日印刷四日発送ト云フ宣伝方針ニ関スル書
報到着シ居ラス、本月初メテ末藤大佐ノ入手セルモノヲ見ル、其他未着ノ電々モアリト云フ
本夕ノ線13Dハ張家橋ハ取ラス載宗宅、三家村ヨリ揚徑「クリーク」ノ線ニ進出シ清水顧ノ
東半部ハ奪取セリ、43iニ陳家行ヨリ王家宅(南翔東方3.5ギ)ニ亘ル線ヲ防守セシム(本日午
後発令)9Dハ仙師廟、張家、白牆宅、陳家白牆ノ線ニ在リ一部ハ狗橋籬宅ニ進出シアルカ如
シ前面ニハ右翼前ニ陸宗密、李家橋、張家衡ニ陣地アリト

3Dハ西窑灣、張王家宅、徐宅、勞宅ノ線最左翼18iハ王家宅ノ敵ヲ攻撃中、101Dハ周宅ノ
北側(大場鎮北側約一誌)北孟宅、顔宅ノ線(左翼隊ハ二小隊ヲ河岸ニ残シ他ハ廟巷鎮西側ニ
集結ヲ命シタリト)織田大佐ノ後備隊ハ「クリーク」南岸張家宅、唐家宅ヲトリ水路ヲ開放シ
南方ハ西面シテ北孫宅、東部中心巷、余馮宅ノ東端ノ線ニ進出、谷川支隊ハ其後殆ト変化ナキ
カ如シ、追撃ハ困難遂ニ敵ヲ逸シ去ルヘシ本晩二・〇〇頃王浜飛行場ニ敵ノ焼夷彈十数發投被
害ナシ

◇十月二十六日

夜半一・三〇頃後備隊ハ廟巷鎮ヲ占領セリト

昨夕ノ占領ト異ルモノ、9Dハ本朝陸家窑占領、李家橋北側、狗橋籬宅、張港ヲ占領、3D
ノ中央ヨリ左ハ昨夕ノ線ハ誤リニテ朱家橋宅ノ北側、徐宅、王家池ノ線ニ下リアリ、101Dハ司
宅、王家街、南孟宅ヲ占領、昨夜101D正面谷川支隊ノ一部ニハ逆襲アリ、一〇・三〇次ノ命令
下達 11D主力ヲ以テ現在43ヲ併セ 9Dノ右側ヨリ概シテ西南方ニ向ヒ重点ヲ左ニ保持シ小
南翔、陳家頭(江橋鎮北方約一杆)ノ線ニ進出軍ノ追撃ヲ容易ナラシム、後備大隊ヲ9D長ノ
指揮下ニ入ラシム

正午過知リタル状況、3D、戦車27ハ一〇・三〇第一線ヲ超越、真茹停車場方面ニ突進、左
第一線ハ李宅勞宅ノ線ノ敵ヲ攻撃中ナルモ大ナルモノナク一皮剥ケハ突進シ得ト判断シアリ
(師団參謀ハ皆第一線ニ出テ本朝連絡ニ行キシ長中佐ヨリノ電話ナリ)(3D戦闘司令所ハ丹
石橋ニ在リ)

9D亦司令部ニ參謀居ラス状況不明

蘇州河南側豐田紡績ニ在ル英守備兵ハ数次ノ交渉ニ拘ラス撤退セサルノミナラス同所附近ニ
英國砲艦アリテ動カス、依テ司令官ノ認可ヲ得先方ニ爆撃スヘキニ就キ危険アルヘシトノ通告
ノ上実行スルコトナレリ(我飛行機爆撃ニ行キ英砲艦ヲ認メ空シク帰リタル為判明)兵站病
院ノ食事甚タ疎菜ナリ、豆十粒程ニ汁少シ、常ニ其程度 今頃斯クノ如キハ其原因何レニ在リ
ヤ不都合ナリ

兵卒ノ上海市内ニ入ル者多ク風紀ヲ紊スノミナラス流言ノ流布防諜上甚タ寒心ニ堪ヘサルモ
ノアリトノコトナルヲ以テ酒保ヲ速ニ開設シ上海市ノ出入ヲ禁止スルコトトセリ(實施ハ酒保
開設後)

3Dノ李碩宅占領ノ際109名ノ俘虜、屍体600内、團長モアリ、午後武藤大佐其他方面軍要員数名

オットー Otto, Eugen 一八八
九一・一九七六 駐日ドイツ大使
館附武官 石原莞爾少將の意を
受けた參謀本部々員馬奈木敬信
28期中佐と共に十月十七日東京
出發、二十六日ごろ、トラウト
マン Trautman, Oskar P. 駐華
ドイツ大使と日中和平について
上海キャセイ・ホテルで三日に
わたり会談した(馬奈木中佐は
ドイツ駐在当時、トラウトマン
と交友あり)。オットーはのち
駐日大使となり日独伊三国同盟
締結を推進したが、ゾルゲ事件
にかかわり一九四二年解任さ
れ、中国に渡った。

到着、10 Aノ上陸ハ十一月五日ニ延期、松井大將ノ兩軍指揮ハ七日頃以後、當軍ニテ一部ヲ北方ニ作戦セシムルハ十一日頃ノ予定ニテ現状ニ応シ準備決行

六・三〇聞ク、I / 157 i ハ五・三〇大場鎮占領、101 Dノ左翼隊モ同線ニ進出シアリ上海市長ハ外国新聞記者ニ江灣閘北ノ放棄ヲ声明セリ

長中佐3 Dノ連絡ニ行キ第一線聯隊ノ状況ヲ觀察シタ刻歸來第一線ノ小銃MG戦ハ甚タ熾烈而シテ大ナル敵無シト見ナカラ進出遅キハ砲兵追隨セザルカ為ナリト見上野旅団長ニ意見ヲ質シタ所同意見ニテ之ヲ師團ニ具申シ且敵ノ陣地ヲ迂回溢進進撃スヘキコト、戦車、装甲車、自動車歩兵ヲ真茹停車場ニ突進セシムヘキヲ具申シ悉ク実行ストノコト(戦車ハ無電台ニ突進更ニ大場ニ引キ返シ東南方道路ヲ前進シタルモ敵ハ三々伍々退却スルノミニテ戦車ニ対シ射撃モセス)

九・一〇ニ知得セル状況 13 Dハ清水願ヲ完全ニ占領セル他変化ナシ

11 D主力ハ明朝迄ニ所命ノ線ニ展開正午ヨリ攻撃前進

9 D袁家橋南側、洛陽橋、晶家街、金家巷各北側ノ線、3 Dハ周涇樓、南部徐宅、李宅、勞宅、王家宅各南端ノ線、101 Dハ大場南側、東方ハ「クリーク」ノ線一部隊ヲ以テ夜間趙家棚、白皮橋、曹家巷ニ進撃、後備隊(第二兵站ノ)廟巷南方田園ニ進出、谷川支隊遂ニ時計台ヲ奪取シ得ス本夜左翼ニ重点ヲ移ス筈

3 Dノ楊子径占領時ノ死屍600、LG 21、MG数挺鹵獲

◇十月二十七日

*司令官ノ誕生日(月ハ異ナル)ニテ喜ヒ居ラル 今日ハ司令官ノ誕生日、昨夜ノ中ニ敵ハ総テ退却ヲ了リタルカ如ク9 Dノ右翼ヲ除キ大体無人ノ境ヲ南進シアリテ八・〇〇過キニハ3 Dハ真茹無電台ヲ通過シ101 Dモ趙家棚附近ヲ通過縦隊前進、陸戦隊ノ一部ハ西八字橋ヲ越ヘ進出セル為之ヲ地境内ニ退ケシム

松井石根は明治十一年七月二十七日愛知に生まれる

敵ハ蘇州河鉄道橋附近ハ陣地ヲ退ケアリ 英守備兵(豊田紡績)モ退カス、我レハ其附近ヲ爆撃ス 九・〇〇前101 Dハ上海北側米宅、其西方張宅ニ達シ海軍陸戦隊ノ砲撃ヲ止メラレタキ要求アリ

兵站部隊ハ今朝四・〇〇走馬塘「クリーク」ヲ越ヘ南進、谷川支隊不明、9 D右翼モ八・三

〇頃概ネ鉄道線路ニ達セリ 3 Dモ略同様ニテ歩一大ヲ自動車ニテ戦車ト共ニ真茹方向ニ突進

陳天民ノ部隊豊田紡附近ニ集結シアリトノコトナリシモ九・〇〇遂ニ橋梁ヲ爆破セリ、9 D第一線ハ一・〇〇頃左右兩翼隊ヲ以テ鉄道線路ヲ通過セリ

3 D其他ノ状況明カナラサルモ大体斉頭面ニ在ルカ如シ

昨日陸戦隊ニ行キシ松田海軍参謀ヨリ聞ク 陸戦隊ハ一・〇〇頃迄ニ大体ポケット地帯ヲ残シ閘北ノ全地城ヲ占領セリ(大ナル抵抗ナシ)

午後一・〇〇出發海軍聯合航空隊ニ御礼ニ行ク 今日一機撃墜サル

敵ノ大部ハ昆山蘇州方面ニ退却セリトノコト 艦隊司令長官ニ御礼 浦東作戦モ遠カラス実施スヘキモ今ノ所尚期日ヲ約束スル能ハサルコト之ハ成ルヘク 謀略ニ依リテ撤退サセタキコト、会见ハ更ニ一段落チツキタル時ニシタキコトヲ伝フカ 本月初メテ長官ヨリ浦東ヲ清掃サレタキ申入レアリタリ、英陸軍指揮官ハ甚タ不遜ノ漢ナリト、陸戦隊ニ至リ御礼、閘北ハ本朝来大火災、ポケット地区ニハ尚百名余頑強ニ残リアリ、閘北掃蕩ハ今迄ノトコロ戦死ナク十数名ノ負傷ノミナリ、商科大學奪取ノ時ニハ戦死者モ出シタリト、六・〇〇頃帰着道路補修モ逐次進ミアリ

長中佐武官室ニ連絡、陳天民ハヤハリ二十三日ニ信号シ督戦隊ヲ退ケタリト 今ハ北新徑、南翔附近ニ集結日本軍ノ攻撃渡河ト共ニ反旗ヲ飜ストノコト

外国通信員ノ取扱殊ニ堀口ノ通訊振悪シト

六・〇〇司令官出席総長殿下ヨリノ御祝電 軍令部総長殿下ヨリノ御祝電ヲ読ミ上ケ殿下賜ノシャンパンニテ祝盃ヲ挙ケ万歳三唱、七・〇〇頃3 D 9 Dノ渡河準備、101 Dノ集結ヲ主体

トスル命令下達

本夜迄ニ知り得タル状況、13 Dハ老陸宅ヲ完全ニ占領新張宅ノ一角ニ入り其北方敵家宅西方ニ於テハ一中隊「クリーク」前岸ニ地歩ヲ占ム

11 D主力ハ概ネ所命ノ線ニ展開少シ前進ス 9 D右翼36 iハ三・五〇甘家巷ニ進出敵ヲ撃退シツツ南進、K集團及7 iハ四・〇〇王家宅ニ突進河ノ北岸ノ敵ヲ攻撃、35 iノ所在不明、3 D右翼隊ハ所在ノ敵ヲ撃退シツツ進ミ北岸ニ残ル敵ヲ攻撃中夜ニ入ル左翼隊ハ正午頃河岸ニ達シタルモ対岸ハ英伊ノ守備区域ナル為渡河シ得ス 101 Dハ上海西北側附近ニ集結三・三〇頃谷川支隊ヲ併セ同隊ニ江湾ノ掃蕩

武官室情報並ニ敵ノ命令(9 D拾得)ニ依レハ敵ハ南翔、嘉定ヲ捨テ福山―蘇州ノ線ニ退クヤモ知レスト、大ニ考慮スヘシ天候悪化ノ兆アリシモ本日ハ更ニ好転セルカ如ク晴天ナリ夜間二回司令部方面ニ空襲アリ

11 D 3 Dノ補充員上陸ス

◇十月二十八日

3 Dノ二十六日ニ於ケル戦果概要 屍体二・〇〇〇 小銃三七〇 LG四六 MG一四 小銃弾薬多数、43 i長浅間大佐進級8 D留守部附、後任ハ2 D留守参謀花谷正(十一月異動) 44 iノ主力ハ南翔東方三誌ノ線ニ迫リ一部ハ江橋鎮ニ入リタルモノノ如シ(19 iノ一大隊モ同地ニ向ヘリ) 9 Dハ19 i河岸ニ出テ7 iノ前面北岸魏家宅ニテ抵抗セシ敵ヲ撃退シ河岸ニ進出セリ 敵ハ上海西南方約十誌七宝鎮ヨリ華莊鎮ニ亘リ陣地ヲ構築増兵シアリト、午後司令官ハ劉家行附近野戦病院ヲ見舞ハレ唐橋附近水路ニ依ル物資ノ集積ヲ視察シ四・〇〇過帰ラル、同地ノ敵MG座数個我砲撃ノ為ニハ一ツモ破壊サレアラサルヲ見今更ノ如ク砲兵力ヲ疑ハル 然シ之ハ既ニ従来屢々体験セルトコロナリ

原田少将来ル 海軍ノ提案ニ係ル南市爆撃通告ノ件、謀略ノ件等ナリ、南市爆撃ハ真ニ己ム

ヲ得サル時ニ限り先ツ各国支那人民ニテ軍隊ヲ外ニ出ス、出テサレハ次ニ区域ヲ定メ人民ヲ収容ス、通告ハ実施ノ直前トスル案ニテ原田少将海軍側ニ交渉スル筈 陳天民ノ謀略ハ既ニ一部実行セリ、次ニハ北新経ニテ行フ

之ヲ南市ニ入レ且吐月笙ニ渡リヲツケ軍隊ヲ追ヒ出ス如ク仕向ク、張堯奎ニモ連絡尚英人(浦東ニ財産ヲ有ス)ヲシテ兵ヲ引カシムル如ク船津ヲ介シテ努力ス

塚田少将来部 将来ノ十軍ノ作戰ハ上陸ハ兎モ角予定ノ如ク行ハシメ然ル後現況ニ応シテ部署ス

今日モ南方戦線(11 D)ハ進出シ遂ニ南翔ヲ攻略スヘシト命令ス 之レニ関連シ各師団ノ配属部隊作戦地境ノ整理変更ノ命令ヲ下達

祝電各方面ヨリ殺到、総長殿下ヨリハ塚田少将ニ托シ御祝酒ヲ重ネテ下賜、東京新聞ニ依レハ旗行列、提灯行列極メテ盛大、恥シイ氣持ト斯克迄国民ヲ待タセタコトニ責任ヲ感ス、銃後ノ熱誠ハ心強キ極ミ

重藤支隊ハ右翼ヲ北方ニ延伸ス、13 Dハ張家橋ヲ占領セル外変化ナシ 11 Dハ南翔東方約三誌内外ノ線ニ進出ス 9 D正面河岸南側ニハ一連ノ鉄条網、掩蓋MG座ノ陣地アリ河幅30~50呎兩岸堤防ハ8呎位、3 D正面ハ敵陣地千巔弱後退シアリ、河岸ニハ警戒部隊アリ一部ニテ奇襲的ニ渡河セシム 英守備兵ハ鉄道線路ヨリ千巔許リ東方ニ後退セリト 伊守備区ノ鉄道橋近クニ支那MGアリトノ第一線ノ報告アリ確メシム 日華紡績ヨリ水ノ補給ヲ受ケタル所伊側ハ支那ニモ補給セザリシヲ以テ中止サレタシトノ申出アリ、中止セリト

◇十月二十九日

午前一一・〇〇伊国武官来部 簡單ナ会食、多田中将来部

11 D中央隊ハ其左翼ヲ以テ少シ進出セル外戦線変化ナシ

3 D 9 D正面ノ河川ノ状態ハ大体判明 3 Dハ明夜奇襲的ニ渡河若シ成功セサレバ31日ニ渡

河スト 軍ニテハ9 Dノ準備ノ為十一月一日トシ3 Dノ夫レ以前ニ実行スルハ歡迎ス

塚田少将来リ将来派遣軍々司令官ヲ專任スル件ニ就キ相談アリ 常熟蘇州ノ線進出迄ハ其儘ヲ希望シ司令官亦其御考

13 Dハ陳家宅ヲ必ス取ルトノ決心ナルヲ以テ司令官ノ師団ノ面目及将来ノ志氣ヲモ考ヘラレテ本月中ハ之ヲ猶余スルコトニ定メラル

11 Dモ師団カ南翔攻略ノ気慨ナキ為大体現在線ニ止ムルニ決ス、敵師長朱某大場以西ノ防禦ニ失敗セル責ヲ引キ自殺セリト支那紙伝フ、結局大場附近ノ線ハ敵陣地ノ最後端ナリシナラン

◇十月三十日 昨夜少シ雨降り本日ハ曇リ、寒クナル之テ順調？

昨夜ハ各方面共敵ノ砲撃ナシ 我軍カ南翔嘉定方面ニ向フト誤断セシ立直シカ彈藥ノ欠乏カ、兎モ角敵カ蘇州河南岸ノ防備ニ汲々タル有様ハ之ヲ想像シ得、俘虜ノ訊問ニ依レハ殆ト全滅ノ聯隊、師団等アリ師団ニテ千名位ニナリタルモノ相当アルカ如ク本朝迄ニハ敵師団ノ退却方面ヲ概要察知シ得タリ(第二課)

午前一〇・〇〇頃塚田少将来リ次ノ話アリ 二十九日四・〇〇(上海時間)頃「ゼスフィールド」公園ニ日本軍砲彈八発落下セシニ付速カニ砲撃ヲ停止セラレ度ト申来リ次テ四・〇〇頃公園ニ十数發飛来、死者英兵三 負傷者数名ヲ生セシニ付日本軍ハ如何ニ処置セラレシヤト敵重抗議シ来レリ、伊太利ハ四・〇〇頃英國トノ警備地域境界附近ニ砲彈落下、停止スル様好意的ニ申込アリ、仏國ハ七・〇〇頃「アページョフル」道上租界ト鐵道線トノ中間ニ又米國ハ同時頃「コロンビヤサークル」ニ日本砲彈一發落下セシニ付砲撃停止ヲ申シ来レリ、以上ニ就キ調査セシトコロ二十九日ハ3 D砲兵カ發煙彈射撃ヲ豊田紡西側附近ニ行ヒタル他砲撃セス 多分支那側ノ砲撃ナラント其材料ヲ集メ砲兵將校ヲ伴ヒ一・三〇頃司令部ヲ出發、其直後ニ現場ニ至リタル宇都宮少佐ヨリ現場ニ日本ノ不發步兵砲彈アリトノ電話ニ接シ更ニ3 D歩兵ヲ調査中(午前ハ電話不通ニテ歩兵ノコトハ不明)尚浦東ニ作戰スル場合ハ自然外國建物等ニモ損害

上海武官室 宇都宮直賢 32期 少佐

ヲ及ホスコトアル旨ノ注意ハ日高參事官ヨリ各國領事ニ又船津ヨリ同方面ニ工場ヲ有スル者達ニ説明、彼等ノ手ヲ以テ支那兵ヲ撤退若クハ抵抗ヲ断念セシメルコトヲ勸メ置ケリ 南市爆撃ニ就テハ次ノ如ク海軍ニ伝ヘ置ケリ、軍司令官ハ爆撃ハ不賛成、己ムヲ得サル時ハ砲撃又ハ爆撃スルコトアルヘシ、此件ハ陳ノ謀略、浦東作戰ト関連スルヲ以テ差当リ実行セサルコト

英公園ニ落下セル彈丸ハ我68 iノ歩兵砲ナルカ如ク軍司令官ハ男ラシク之ヲ認メテ処置セヨトノコトナリ

原田少将英指揮官ト会谈ノ結果、左ノ三点ノ要求ヲ提出シ明日回答スルコトセリ、「連絡將校ヲ派遣シ置カレタシ、鐵道線東方地区上ハ飛行セサルコト、鐵道線ノ西方約一・五浬ノ二条実線路ニテ囲マレタル地域ハ砲撃爆ヲ為ササルコト」、以上ニ對シ軍トシテハ連絡者トシテハ宇都宮少佐ヲ出ス 飛行ハ為スコトアリ、第三ノ件ハ承認シ得ス日支兩軍共ノ射彈ハ鐵道東方地区ニ及フ公算少カラサルヲ以テ本然ノ租界内ニ入り建物ノ東側ニ位置セラルルヲ安全トスト武官ニ回答ス

3 D一部ノ渡河実施ハ陳ノ謀略部隊配置間ニ合ハサル為モアリ延期シ明三十一日正午ヨリ全力ヲ以テ渡河ス

13 D長ヨリ電話ニテ本日發令セラレタル同師団ノ集結並守備交代ニ関スル命令ハ軍司令官ノ認メラレタルモノナリヤトノコトニテ斯クナリシ情勢ヲ話シ快ク諒承セラル 尚11 D右翼正面ヨリ敵陣地ヲ突破シ現在攻撃シアル敵ノ背後ヲ攻撃スベキ案(歩一聯、砲一大)ハ取り止メ部隊ハ之ヲ引キ返サシムトノコト

夕刻公平中佐方面軍編成ニ関スル案ヲ持參、軍司令官ニ説明、軍司令官ハ方面軍司令官ノ權限甚タ局限サレアルハ絶対ニ同意スル能ハサル旨ヲ強調シ再研究ヲ命セラル

11 D中央隊ハ楊家宅ヲ占領馬路灣ニ迫ル、其他變化ナシ

昭12・0・26 中支那方面軍參謀
(作戰主任) 公平匡武 31期

◇十月三十一日

各師団補充ノ状況

3 D 十月二十八日一、六〇七 十一月二日以後ニ出発シ得ルモノ一、九一四、馬六〇〇
 11 D 三十日一、六五〇 十一月一日出発予定一、〇〇〇 十日予定一、〇〇〇 十三日四〇〇
 9 D 十一月五日ヲ先頭トシテ出発人五、〇〇〇、馬五〇〇
 13 D 十月二十三日四二一 次ハ十一月中旬以後出発
 101 D 十一月上旬出発一、一五〇

過不足	到着 十一月上旬	補充	死傷
+ 4,000 (+5,000)	(2,000)	12,900	8,000
+ 3,000 (+4,000)	(1,000)	10,415	7,200
- 2,000 (- 800)	(1,150)	2,100	4,000
- 3,000 (+2,000)	(5,000)	3,200	6,200
+ 2,000		3,200	1,600
13 Dノ補充ハ三千二百ヨリ少イ 管、為メニ13 D ノ歩兵ハ不足			

廿五日調 各師団死傷ト補充 戦線復帰者ハ除外シアリ

13 D 一支隊ノ孟家宅南方ヨリ敵背後ニ出ツル動作ハ中止ノ筈ナリシモ当面ノ敵配備甚タ薄キヲ知リシヲ以テ再ヒ敢行ニ決シ本朝ヨリ実施中トノ報告アリ(参謀長ヨリ電話)
 3 Dノ攻撃ハ一〇・〇〇ヨリ砲撃 此時黒竜ノ合図ヲ為シ正午渡河、〇・三〇3 D右翼隊ノ一大隊ハ渡河完了ノ報ニ接ス

臨参命134、135号(電報)ニテ高射砲隊、自動車隊、輸卒隊、病院、鑿井隊等各種配属セラル

重 藤	13 D	9 D	101 D	11 D	3 D		
12	13	61	40	50	85	死	将
21	37	138	158	151	197	傷	校
307	238	1,317	468	1,931	1,972	死	准士官以下
899	1,771	6,313	3,604	5,218	6,428	傷	
319	251	1,378	508	1,981	2,057	死	計
920	1,808	1,451	3,762	5,369	6,625	傷	
$\frac{1}{2.3}$	$\frac{1}{8.5}$	$\frac{1}{4.9}$	$\frac{1}{7.4}$	約 $\frac{1}{3}$	$\frac{1}{3.3}$		比
1,239	2,059	7,829	4,270	7,350	8,682		合計
戦死傷合計 以上ハ戦死ハ廿八日迄 戦傷ハ廿九日調							戦死 将校 准以下 計 戦傷 将校 准以下 計 戦死 将校 准以下 計

六、五二八
 二四、九三五
 三一、四六三

(注・計算違イ委員ニテ修正)

二・三〇頃聞ク

34 i 正面ノ敵ハ河岸南方約八百餘ノ陣地ヲ捨テ後退シアリ 我部隊ハ家屋ヲ掃蕩シツツ前進スル為抄ラスト 左翼隊モ一部ハ南岸ニ進出セルモ其他ノ状況不明

104 i 大隊長トナリシ長滝少佐上海丸ニテ来リ立寄り荷物ヲ届ケラル

武官室トノ電話不通ノ為手紙ニテ原田少将ヨリ三・三〇過受 米国総領事ヲ介シ日本総領事ニ各国軍隊、長官カ軍司令官ニ会见ヲ申込ミ来リ本日午後ヲ希望スルモ明日ニテモ可トノコトナリシモ作戦上十一月十日前後ナラテハ会见ノ可能性ナキ旨原田武官ニ通シ置ケリ

陸軍次官ヨリ英大使カ日本飛行機（陸軍機ヲシ）カ爆弾三ヲ租界ニ落シ且機銃射撃ヲ為シタリト申込アリ、回答ノ都合上実情承知シ度トノ電報武官室ニ来リ同時ニ廻送シ来レリ

34 i ハ一中ト一小隊、68 ハ二中隊（前者ハ輕架橋、後者ハ漕渡）渡河シタルノミニテ夜ニ入ル（側防火ノ為）

11 D ハ少シ攻撃進捗セルモ遂次敵ノ抵抗増加シ且小ナル村ニテモ千名以上モ在ルコトヲ戦車ニテ確ム（大部落ヲ避ク）

13 D 一日タヨリ四日払曉迄ニ右方面ノ交代ヲ終ル件及重藤支隊（22 i 山砲一大（一中欠）其他ヲ属ス）ノ集結ヲ命セラル

◇十一月一日

曇リ、朝小雨アリシモ逐次天候恢復

午後一・〇〇揚家宅司令部発二・〇〇過大場鎮南方約二哩周宅ノ新司令部ニ到着、9 D 右翼隊ハ予定ノ如ク渡河、二大隊ハ既ニ前岸ニ移リ姚家宅張家宅ニ向ヒ突撃中ナリト 3 D ハ左右共昨日ノ通りニテ未タ一兵モ渡河シアラス左翼隊ノ渡河シタル者ハ二三〇名許リナルモ現在殘レル者ハ三〇名位ニテ翼隊長片山少将ハ之ヲ後退サセル決心ヲ為シ參謀長ハ之レヲ不可トシ旅團長ノ許ニ到リタルモ決着セス、遂ニ師團長ノ決裁ヲ受クルコトニナリシ旨參謀長迄耳ニ入レラレタシト、薄弱ナル意志ニテハ困難ナル作戦ハ出来ス 海軍機ノ報告ニ依レハ敵兵多数3 D 正面ヨリ南方ニ退却中、尙武官室ノ報告ニ依レハ陳天民部隊ハ日本軍一挙ニ来ルモノト思ヒ一旦退リタルモ然ラサリシ為再ヒ一部ガ第一線ニ就キ且後方ニ中央直系ノ督戰隊約三千配置陳モ困リ居ル由

軍司令官ハ先キニ諜報ノ在リシ如ク三十日蘇州ノ線ニ後退ヲ実施スルコトモ無キニアラス、然ルトキハ十軍ノ作戦等モ考ヘ直ス要アリト

武官室報、南市ノ敵ハ五日、浦東ノ敵ハ十七日退却開始 但南市ノモノハ日本軍ノ出方ニ依リテハ三日ニ退却スルヤモ知レス 四・三〇9 D ノ渡河セル二大隊ハ姚家宅、張家宅占領一部ハ蔡家宅攻撃中右翼隊ノ主力ハ渡河シ得ルモ更ニ占領地域ノ拡大サルヲ待ツテ渡河ストノ報告ヲ受ク 五・一〇報、34 i ノ一大隊ハ渡河完了、続テ他ノ大隊モ渡河夜ニ入ラハ鉄舟橋ヲ架ケ主力渡河ノ予定

朝塚田少将以下來集 各課長集合方面軍作戦要領ニ就テ研究、塚田少将等ハ昆山ニ向ヒ求心的ニ作戦スヘキヲ主張シ西原及予ハ重藤支隊等ヲ以テ常熟ヲ急襲、更ニ為シ得レハ無錫ニ突進シ遠ク敵ヲ捕捉スヘキヲ主張ス 結局中間案トナルヘシ 夜間珍ラシク銃砲声ヲ聞カス

9 D 右翼隊ハ三大隊確實ニ渡河セリ

◇十一月二日

昨夜9D3D共渡河ヲ行ヒ9Dハ四大隊、3Dハ三大隊渡河シ終レリ 両師団共其左翼隊正面ヨリ全部ヲ渡河セシムルカ如シ 昨日英國ノ「マーク」ヲ附シタル飛行機戦線直上ヲ飛行ス依テ武官ヨリ之ヲ英ニ通告スルト共ニ第一線ニハ会釈ナク撃墜セシム

上海支那人14万人ニ答解ヲ求メタル所(支那人主体) 9万人ハ速ニ和平、4万ハ抗日、1万ハ不明確

三十日調 現隊復帰約四、一〇〇 内地還送七、七〇〇

楠本大佐来ル 陳ノ謀略ハアマリウマク行カサリシモ実行ハセリ、今ハ北新涇附近ニ約三千ヲ集メ居ルモ其後方ニハ更ニ督戦隊アリ 茲ニテモ日本軍ノ前進ニ伴ヒ後退シ南市ニ入ラシムル予定

原田少将来ル 先般英ノ抗議ニ対スル解答及説明ト本日英、米、仏、伊、艦隊長官列席ノ場ニ臨ミタル報告アリ 英國モ決シテ高圧のナラス何トカシテ戦禍ヲ警備区域ニ及ホサランコトヲ願フモノナリ 其際英米等ハ鉄道附近ノ敵ヲ適時後退セシムル用意アル旨言明セリ

仏ノ歩哨ハ租界南方ニ拡ケ同文書院ノ大半ヲ含ム地域ニ亘リタリト之ハ当方ニモ不都合ナシ其位置ノ明示ヲ要求シ置ク、蘇州河南方約二・五結ノ東西ニ通スル二条実線路附近ニハ英國及他ノ財産相当ニアリトノコトニテ各国位置ヲ明確ニ通告スヘキコト、其図ニ記入ナキモノハ支那カ勝手ニ旗ヲ悪用セルモノト認ムルコトヲ通告ス(支那軍ハ常ニ掠奪ヲ行フヲ以テ後ニ入リタル日本軍ノ所為ト認メサル如ク予メ現認ノ方法ヲトラレタシ) 又松井司令官ハ列國ノ利権等ニ損害ヲ与ヘサル為ニハ細心ノ注意ヲナシ現ニ蘇州河ノ渡河モ西方ニ行ハレアルカ如シト述ヘタルトコロ満足セリ

鉄道附近ノ支那軍ヲ撤退セシムルカ最モ賢明ナリト述ヘ其時機モ早カラサレハ遂ニ危害及フヘシト注意ス

日本軍南進セハ其彈丸ハ警備地域ニ飛ハサルモ支那軍ノモノハ来ルヘシ 英(?)新聞記者ニ支那ハ何故大場ヲ退却セリヤトノ質問ヲ為シタルニ師長死シタル為ナリト、其レハ如何ニシテ知リシヤトノ反問ニ対シ独乙ノ指導將校ヨリ聞キタルトノコト、朱師長ハ陳ノ親友ナルモ陳ノ部下カ殺シタルモノノ如ク其退却ハ全ク予定ナラサリシト

本日9Dハ六大隊渡河蔡家宅張巷ヲ占領シ架橋ヲ終レリ 3Dハ四大隊渡河セルモ河岸ニヘハリ付キタルノミ前面ニハ大ナル敵ナキモ「コンクリート」家屋ヨリMG射撃スル為トノコト、11Dノ戦車ヲ直ニ3Dニ配属ス(道路モアリト) 右翼隊ハ遂ニ渡河セルモノヲ後退セシメ幕僚モ憤慨シアリト

第二期作戦計画大綱案ヲ見ル

昨日午後上空ヲ飛ヒタル飛行機ハ英國ノモノナラスト、陸軍長官言明シ且ソシナモノハ撃チ落セハヨイト(海軍二機アリ)

午前13D參謀長来ル本日ヨリ四日朝迄ニ処置完了ノ予定

昨夜戦場静カナル如ク聞ヘタルモ音源標定隊ハ二十ヶ所位ノモノヲ標定セリ 其結果南翔方向ノモノ河南ニ移動シタルコト明瞭ナリ、一方諜報ニ蔣ハ今後二週間陣地ヲ固守スヘシト命シタリト

臨參命134号書類来ル、上海派遣軍戦闘序列編入部隊

16D、高射砲隊3隊(2)、野戰瓦斯隊本部、瓦斯二中隊ト一小隊、無電三小隊、9D第一兵站司令部、陸上輸卒隊4、水上輸卒隊4、建築輸卒隊1、鑿井第二中隊、第一兵站自動車隊(本部、十中隊)、予備病院二班、患者輸送部二班、兵站病馬廠

135号 兵站輜重兵隊本部三個、野戰鑿井隊本部、同一中隊(関東軍ヨリ)

136号 兵站輜重兵隊本部

137号ニテ野戰瓦斯隊ノ編成ヲ令セラル

飛行隊報告ニ依レハ南市ニハ浦東トノ間ニ舟ヲ縦ニ撃キタル輕架橋(中央アケアリ)アリ

砲兵情報班 長砲兵中佐 稲井民雄

本日ハ午前ヨリ降雨天候ノ恢復ヲ祈ル

◇十一月三日 明治節吉例ニ依リ天候恢復スル模様明カナリ

方面軍司令部ノ動員ハ十月二十九日下令、(下令ノ正式電報来ラサルモ武藤大佐へ私伝アリ且書類昨日到着セルヲ以テ) 二日完結ノ報告ヲナス 感状授与種々議論アリシモ軍司令官ノ趣旨ニ従ヒ次ノ部隊ニ今日ノ佳辰ニ附与サレタリ 田上、鷹森、飯田、天谷、和知部隊、感状附与ニ就テハ其功績ノ看方、他トノ釣合ヒ、将来ニ及ス影響、軍司令官ノ氣持、軍師團幕僚ノ感シナト種々錯綜シ議論スレハ限リナキモノナリ殊ニ今回ノ如キ作戰ニテハ目立タルモノナキヲ以テ益々然リ、後ヨリ来リシ師團及個人感状ニ就テハ追テ詮議セラル

五・〇〇稍前9D最右翼19iハ西温里、徐家衛ヲ占領、軍及ヒ師團砲兵ノ殆ト全力ヲ以テ支援セル36iノ荻巷上、屈家橋ノ攻撃ハ成功セス更ニ復行ス

方面艦隊参謀トシテ「鳳翔」艦長タリシ草鹿大佐挨拶ニ来部

9Dノ渡河(河幅20餘余)ハ堤防上ニMG堤防内ヲクリ抜キ其間ニ舟ヲ置キ一斉ニ渡河僅々50名許ノ死傷ニテ成功セリ

34iモ河岸ノ家ノ南側迄進出、此附近ハ家屋密接シ一寸戰況進展スル模様ナシ 武官室ヨリ電話謀者報、蘇州河南方二、三結ノ第二線ニ在ル敵ハ南方ニ移動シ南市ノ敵ハ集合本タヨリ南方ニ行クト称シアリ、又浦東ノ敵モ本タヨリ集結スル敵命令ヲ入手セリ

9Dハ約九大隊渡河、薄暮再度突撃遂ニ荻巷上ヲ占領セリ(36i)

◇十一月四日

蘇州河南岸第二線ノ敵及南市、浦東ノモノハ既ニ七宝鎮ノ線並松江ノ線ニ後退セルモノノ如シ

支那新聞ニ依レハ陳家行広幅ノ戰闘ニ旅長二、団長一戰死シアリ

渡河及其直後ニ於ケル死傷

9 D	3 D	將 校		准以下		計
		死	傷	死	傷	
2	4					
4	6					
33	121					
226	498					
265	629					
一日ヨリ渡河開始、30日ヨリ2日マデ		卅一日渡河開始、1日ヨリ3日マデ				

十一月一日附ノ進級ノ官報来ル 畑、小磯 大將、小見山氏マテ中將(春田、木本等)横山マテ少將(井関モ)其他決定者全員進級猿渡モ少佐、44キハ大尉ニナル ガリ板来ラサル為転補不明 9D 36iハ四・三〇八字橋奪取35ノ屈字橋攻撃ハ突入目下手榴彈戰中 午後天候恢復、陽光久シ振リニ射ス、10Aノ為慶賀ニ堪ヘス、上海ニ集メアリシ小蒸汽木船等10Aニ一時貸与

11D参謀長片村大佐来ル主要事項ハ感状ノ内容ニ就テノ希望ヲ申入ルニ在リ 音楽学校方面軍司令部ニ於テ戌方面上陸ノ協定、副長出席

司令官二、三日前ヨリ少シ氣分勝レス今日軽度ノ「マラリヤ」ト診断ス司令部内ニモ先日中ヨリ数名アリト

24H一昨日一門、本日一門腔^{*}シ本日ハ藥室附近ニテ爆発隣接砲手五名輕傷ヲ負ヘリト一門ハ予備アリ(調査ノ結果二門共過早破裂ナリシコト判明、二彈共広島製)

野戰瓦斯隊長ハ現ニ当地ニ在ル瓦斯中隊長ヨリ後任ナルヲ以テ入レ換ヘ方電報ス

3D司令部ヨリ英警備区域蘇州河突角聖約翰大學附近ノ高層建物ヨリ觀測シ砲撃ス本日モ政務次官司令部ニ来リタル時数発ノ射撃ヲ受ケ一発ハ其建物ニ命中セリト右武官室ヨリ注意ヲ与フル如クス

八・三〇頃敵機来ル

一・〇〇方面軍司令部ニテ戌上陸ノ協定アリ陸海軍副長出席

草鹿龍之介海兵41期 昭11・11「鳳翔」艦長 12・10支那方面艦隊参謀(のち連合艦隊参謀長)

旅長・団長は中国軍旅団長、聯隊長の呼称

攻城重砲兵第一聯隊第一大隊(長小笠原勝国²⁸期少佐)の四五式二十四榴 腔^{*}とは発射時彈丸が砲身内で破裂すること

◇十一月五日

雲低ク飛行機ノ協力ハ困難ナルヘシ

丁集団ハ予定ノ如ク六・三〇両正面共上陸ニ成功セリ祝電ヲ発ス

南市ノ敵ハ昨夜六・〇〇〇ハ・〇〇ニ南市南端ヲ発シ七宝鎮ニ高射砲等七八百名ハ虹橋ニ向ヒ移動、浦東ノ主力モ既ニ南方ニ移リ一部ハ二、三個所ニ昨夜集合シアリシト 蘇州河南方約三結余ノ東西二条実線路ハ嚴重ニ配兵シアリ諜者進入シ得ス

13 Dヨリ伝染病16名アリトノ報ニ専門医ヲ遣ハシタル処「コレラ」様ニテ九十名ノ死亡者アリ、現患者六十余名徹底的防遏ヲ為ス

11 D補充員970名昨日上海丸ニテ到着

小舟133隻（半数ハ発動機附）軍ノモノトシテ到着

十一月二日ノ現在彈3 D A 3・2基、9 D山砲3・8、11 D山砲4・4基、101 D野砲2・0、13 D B A 2・7基数

楠本大佐来ル、陳ノ軍隊ハ9 Dヨリ右ノ正面（蘇州河左岸）ヨリ豊田紡附近ニ互リ配置シアルモ後方ニ監視督戰隊アリテ行動困難ナリ南市ノ部隊ハ保安隊五六百ノ外大体移動セリ

浦東張發奎ノ軍モ大部分居ラス 軍司令官ハ独乙女記者ヲ通シ張ノ意向ヲ探ラセヨ、楠本大佐モ他ニモ連絡者アリ張ヨリ多少接近ノ風アリ

英國側モ近來日本トノ摩擦ヲ減スル意向アリ 蘇州河ノ使用ニ就テモ大体異存ナシ 只便衣隊等ノ為租界内ニ於テ戰鬪惹起スルヲ心配スルモノノ如シ

十日午前各國指揮官ニ面会スルモ可ナリ

南市浦東ニ於ケル外國財産支那民衆ニ危害ヲ及ササルコトヲ考慮シ来リシモ今ヤ戰況之ヲ許サス予メ通告スル旨公式ニ通達スルヲ可トス

10 Aハ九・五〇金山浦城ヲ占領セリ

3 Dハ少シツツ拡張郁家宅ノ南端ニモ進出セリ

主要大臣協定ノ下ニ成リシ事變善後處理要領ノ主管ハ第二課ト定ム

10 Aノ大部6 D、18 D主力ハ殆ト敵ノ抵抗ヲ受クルコトナク上陸シ極メテ順調ニ進捗シタルモ18 Dノ一部タル左側支隊（？）ハ敵ノ頑強ナル抵抗ニ会シ水中ニ浸リテ、戰鬪シアルカ如シ北新涇以東ハ朱紹良指揮ノ下ニ88、16、63、3、6、42師守備シ同地ヨリ西方黃紹竑新ニ指揮官ニ任命セラレタリト

9 D正面ニ江橋鎮方面ヨリ続々増兵スルカ故ニ11 Dニ有力ナル部隊ヲ以テ江橋鎮ヲ攻略スヘキ命令ヲ出シ次テ9 Dノ右側背ニ不安ヲ感スル（第一線部隊ヨリノ申出）ニ依リ該方面ニ101 Dノ歩兵一聯隊ヲ集結セシムルコトトセラレタリ

軍司令部ニ慰問袋分配 第一線ニ行キ亘レルヤ否ヤ

陸軍省ヨリ動員、人事、兵ム課員等四名来ル

戌方面上陸後ノ通信ニ就キ研究ス

今日ハ全線進展セス、第一線聯大隊迄十軍ノ上陸ヲ概知シ攻撃意志鈍リアルヤノ感アリ

小田切大尉（68 i 第一 M G 中隊長）笹沼中尉来部、上原ハ十月二十三日ノ戰鬪ニ於テ敵砲彈ノ為戦死セリト惜シキコトヲセリ

◇十一月六日

10 Aハ昨夕迄ニ張堰鎮ニ進出セルコト確實ナルモ其他不明 飛行機ノ見タル所ニ依レハ10 Aノ先頭ハ一〇・〇〇頃黃浦江南岸ニ達シ左右兩側ハ概ネ計畫ノ線ヲ占領シ主力縱隊ハ張堰鎮附近ヲ北進中ナリ

侍從武官十九日上海着ニテ差支ヘナキヤノ問合セニ對シ差支ナシ但次期作戰ノ為混雜シアルヘキヲ諒承セラレタキ旨返電

北支戰線昨夕既ニ太原北方第二線陣地ニ突入、背向南部正面ニモ近ク迫リアリ敵ハ西南方ニ

退却中ニテ太原ノ占領ハ目睫ノ間ニ在リ

楠本大佐ノ謀略ニ依ル太湖渡航ノ支那船ハ多数松江附近ニ集合シアルコトヲ飛行機偵察ニ依リ承知、此謀略ハ着々成功スルカ如ク慶祝ニ堪ヘス

陸軍省連絡者ノ言トシテ先キニ意見ヲ出セル戦力増加案ニ対スル回答、駄馬師団ニ92式歩兵砲ハ9Dハ十一月中旬、11Dハ十二月中旬實現、彈藥ハ一ヶ月一会戦分トシテ努力ス、砲兵指揮機關ハ考慮ス、2.8吋ノ觀測鏡一個及5.7吋ノ梯子85個送付ノ筈、對壕作業用器材トシテ製作中ノモノヲ送ル 尚手榴彈、火焰放射器等ハ努力ス、兵器部ヲ送ル如ク研究中 移動修理班ヲ増強シ各師団ニ分屬シ得ル如ク第一線ニ進出セシム

衛生機關ハ各師団ニ軍イ10名下士官十五名増加、予備病院二個兵站病院二個増加、病院船モ増加ス 飛行場設定隊ハ作ル如ク研究、兵站自動車モ十中隊位増ス、藥莢箱等ノ還送ヲ勵行セラレタシ 補充員ヲ予メ戦地ニ置ク 適材適所主義ハ軍内ニテ彼此入レ換フル如ク上申セラレタシ

3Dハ辟家野及郁家宅ヲ完全ニ占領シ明日ヨリハ戦況進展スヘシト觀測シアリ、9Dハ屈家橋ノ一角ニ突入、本夜之ヲ占領シ其右ニテハ施家街ノ直前ニ迫リ明日攻略スヘシト

10Aノ13iハ松江東南側ニ於テ黃浦江ヲ渡河シ集結、此附近ニハ敵ヲ見ス松江北方ニ陣地ヲ構築中ナルカ如ク敵ハ各方面ヨリ急遽増兵シツツアルモノノ如シ

芳村參謀中支碇泊場ヨリ帰リ上陸計畫案ヲ承認ス

◇十一月七日

夜半ヨリ風雨激ケシク10Aヲ心配シタルモ彼ノ地方ハ風速八級ニテ稍困難ナルモ作業繼續中ナリトノコトニ一安心

9Dハ屈家橋ヲ占領、3Dハ辟家野ニテ手榴彈一万發土囊多数ヲ鹵獲セリ、戦況進展セサル為9Dノ渡河セサリシ重点正面ヨリ101Dヲ渡河セシムル如ク命令案ヲ作リタルモ9Dハ自ラ戦果

ヲ拡張スト主張スルヲ以テ更ニ暫ク狀況ヲ視ルコトトス

憲兵密偵ノ報(相當確實性アリ)ニ依レハ蔣介石二、三日前上海仏租界英人宅ニ来リ帰路ハ英砲艦ニ依ルトノ噂サアリ一説ニハ外国ニ逃避スヘシト

「日独伊ノ防共協定」五日成立六日發表セラレタリ

9Dハ全力ヲ以テ南進スル為其右翼ヲ他ノ部隊ニテ交代セシメタレタキ意向ナルニ依リ101Dノ一聯隊ヲ基幹トスル部隊ヲ以テ其正面ヲ交代南方ニ攻撃セシメ101Dノ主力ハ屈家橋附近ニ架橋シ南進ヲ準備セシムルコトニ決定午後命令セラレ

高松宮殿下ノ軍及方面軍司令部台臨ハ九日ト決定ス

北支機械化部隊ヲ以テ太原ヲ占領セル快報ニ接ス

二・三〇ヨリ方面軍司令部ニテ陸海軍協定、兩參謀長、重藤支隊長、近藤護衛指揮官等集合、綜合訓練ヲ吳淞附近ニテ實施スルコトセル外大ナル變更ナク原案可決四・〇〇時前終了、重藤支隊長ト護衛指揮官トノ協定ニ移ル、(河口方面ニテ訓練ヲ行フ為ニハ外国船舶ノ泊地ヲ昼間二回通過スルコトナル為變更)

9Dノ倪巷口占領ノ報ハ誤リ、3Dハ右翼ヲ以テ約八百級進出屈家宅ヲ占領中央ハ□家宅北側、左ハ其東北ノ小「クリーク」ノ線ニ進出セリ此「クリーク」ノ線ニモMG、LG四十余モ列ヘ居タリト

10Aヨリハ何等通報ナシ

(方面軍一命令ニ依ル軍ノ任務ハ南市封鎖重点ヲ京滬鐵道北側ニ沿フ地区ニ持チ昆山方向ヘノ攻撃、一部ヲ以テ揚子江上流ニ上陸敵ノ退路遮断ニ在リ、10Aハ松江ヲ奪取シ上軍ノ南市封鎖ヲ容易ナラシメ昆山ニ向ヒ攻撃此附近ニ於テ敵ヲ殲滅スルニ在リ)

浦東ノ敵ハ本夕南市ニ移動シアリ海軍機ハ若干爆撃セリト云フ

白茆河口方面河岸ヨリ太倉―常熟道ニ出ツル自動車道二条アルモ太倉―常熟道北側ニ広大ナル湿地帯アリ南側ハ大「クリーク」錯綜地域ニシテ兵ヲ用ヒ難キヲ飛行機偵察ニテ概知ス、依

昭11・11・25日独防共協定締結
昭12・11・6イタリヤ、日独防共
協定に参加

テ上陸計画ノ「16 Dハ重藤支隊ニ引キ続キ上陸ス」トシ爾後ノ前進方向ハ今後ノ情勢及偵察ノ結果ニ依リ決定スルコトトス

◇十一月八日 天候全ク快復セリ

10 A長ヨリ方面軍司令官ヘノ報告ニ10 Aハ一部ヲ以テ松江ノ南方ニ於テ其方面ノ敵ニ対セシメ6 D主力ハ水路平望鎮ニ18 D主力14 Dハ楓涇鎮附近ヲ経テ嘉興ニ向ヒ前進セシムルノ企図ヲ有スト

14 Dノ上陸ハ多少遅延セルモ重藤支隊向ノ船ハ本日正午過ニハ廻航スル筈ト、

9 Dハ施家衛ノ東部ニ突入シ掃蕩中

3 Dノ渡河開始即十月三十一日ヨリ十一月三日迄ノ死傷戦死将校5、准士官以下136、戦傷将校9、准士官以下608合計758、鹵獲品(四日郁家宅68 i)チェッコ3、水冷式MG1、手榴弾一万、土囊三万、六日、辟家野ニ於ケル(34 i)敵ノ遺棄死体五、六百(郁家宅ハ五〇)

*独軽装甲車第二中隊本日北支ヨリ到着、戦車第一大隊、鑿井隊、瓦斯隊等モ同船シアリト南市浦東南岸第二線ノ敵ハ青浦方向ニ続々退却中、豊田紡附近三、四千ノ敵ハ蒲漚頭「クリーク」ノ線ニ拠ルモノ如シ

朝方面軍参謀武藤大佐来リ軍カ16 Dヲ支塘鎮ニ進出セシムルコトヲ止メ常熟ニ向ハシムルニ決シタリトテ方面軍ノ意図ニアラストシ大議論ノ末結局武藤ノ意見ノ如ク先ツ支塘鎮ニ向ハシムルコトトセリ

中央ヨリハ方面軍ノ作戰地域ヲ常熟蘇州ノ線以東ニ限定シ来リシヲ為軍トシテモ己ムヲ得ス無錫ニ向テ退路ヲ遮断シ□□□□無カラシムル案ヲ放棄セサルヘカサルニ至レリ 第十軍ハ前記ノ如ク直ニ西方ニ向フ企図ナルモノヲモ変更セシムトノコトナリ

原田少将来部各国艦隊長官トノ儀礼ノ打合ニ過キス

10 A正午頃6 Dハ先頭ヲ以テ松江ノ西側ニ18 Dハ邵家浜東方鎮ヲ先頭トシ西進中、松江ノ敵

ハ北方ニ退却中、青浦ヨリモ北進スルモノヲ見ル

9 D未タ倪巷上ヲ奪取シ得ス、3 Dハ左翼18 i材肯路附近ニ進出ス、16 D大須賀参謀連絡ニ来ル(夜)其時16 D参謀長ヨリ師団ハ概ネ歩一聯、砲一大ヲ基幹トスル船団ヲ十日夕ヨリ毎日出發セシメ得ル旨ノ電報来ル之ニ依リ上陸開始ハ如何ニ早クトモ十五日ト予定サルニ至レリ

11 D44 iハ江橋鎮ノ一角ニ突入本夜半ニ「クリーク」北岸ヲ掃蕩スル予定ナリ

七日附内地新聞ニ依レハ滿洲国ト「治外法權撤廃、滿鉄附屬地返還ノ条約」成立セリト独乙ハ日支間ノ協定ニ乘リ出セリト新聞ハ報ス、時機尚早

◇十一月九日

朝七・〇〇頃果シテ3 D正面ノ敵退却シ第一線ハ追撃中ナリトノ報ニ接ス、間モナク9 D右正面ノ敵モ退却ヲ開始セリ

3 Dノ攻撃セサリシ蘇州河南岸地区ニハ相当數ノ便衣隊交代進入セリトノ武官室報アリ取リアヘス9 D3 Dニ追撃命令ヲ出ス

午前11 Dハ江橋鎮ヲ奪取セルヲ聞ク

午前一一・三〇分高松宮殿下台臨 西原大佐作戰經過御説明本日ハ午前午後ニ亘リ陸戦ノ跡ヲ御巡視、師団戦闘司令所ニモ御成

全国商工会議所ヲ代表シテ七、八名来部、慰問金ヲ受ク

〇・三〇6 iノ一小隊ハ竜華鎮ニ進入セリ又9 Dノ一部ハ同時頃七宝鎮ヲ占領セリ

五・〇〇前知リ得タル状況、11 D44 iハ江橋鎮ヲ完全ニ占領掃蕩中 43ハ其南方地区ニ進出、44 iノ右ハ張家宅陣地前ノ「クリーク」ヲ渡河セントシアリ、9 D配属ノ101 Dハ諸翟鎮東北約一結陳思橋ノ敵ヲ攻撃中 7 i(一大欠)BA一中ハ七宝鎮ヲ占領一部ハ南方ニ追撃中 師団主力ハ飛行場及其東方地区ニ集結中 師団司令部ハ明日中新涇鎮ニ移ル筈、6 iハ大部電華鎮ニ入レリ、憲兵戦車ニテ南方ヨリ南市ニ入ラントシタル処橋梁ヲ爆破セリト

独立輕装甲車第二中隊(長歩兵少佐 藤田實彦)

戦車第一大隊(長歩兵大佐 岩仲義治 26期)

11 D ハ江橋鎮ハ尚一部残シアリ南方ニテハ錢家行ヲ奪取夜間尚攻撃ヲ続行ス 9 D ハ配属101ヲ以テ陳思橋ヲ奪取其各一部ヲ以テ河岸ニ沿ヒ又南側ヲ諸翟鎮ニ向ヒ追撃中主力ハ二条実線路ニ沿フ地区ニ集結7 i ノ二大隊ハ七宝鎮占領 3 D 主力ハ竜華鎮附近ニ集結、依テ兩師団ニハ現在ノ第一線ヲ警備シ主力ヲ集結スヘキコト、集成騎兵ハ四徑鎮ニ追撃、101 D 主力ハ11 D トノ交代準備ノ為ノ集結ヲ命セラル

ハ・〇〇ニ至リ昨八日午後一・〇〇方面軍第一号命令受領後ノ10 A ノ企図ヲ聞ク、其要旨6 D ノ一部ヲ以テ平望鎮占領主力ハ松江東北地区ニ集結、18 D ハ嘉興占領、114 D ハ金山附近ニ集結爾後ノ作戰ヲ準備セントス

◇十一月十日

11 D ハ江橋鎮ヲ奪取シ既ニ其西方ノ線ニ進出シアリ、朝原田少将3 D 參謀長來部、南市掃蕩ニ就テ方法等ノ協定ヲナス南市ニハ敗殘兵400、保安隊警察其他ノ敵対スルモノ一、六〇〇位

浦東ハ101 D ノ歩三大、砲一大、陸戰隊二大隊（一、〇〇〇）山砲二中隊ヲ以テ明十一日未明ヨリ実施スルコトニ命令セラル

軍司令官ハ本日各国司令官ニ会見其他ノ要務ニテ十二日迄方面軍司令部ニ起居セラル 軍司令官ノ「マラリヤ」モ全快今日ハ出發前ニ会報ヲ行ハル

獸医部長會議ヲ本日本大場鎮ニ開ク

酒保モ大繁昌一個所一万元以上ノ売上アリ、為替モ一萬數千円ニ上リアリト

南市ノ敗殘兵ハ予メ吾方カ旧城内ニ避難セシメントシタル民衆ヲ追ヒ彼等ハ仏租界ニ逃入セリト

目下偵察シ得タルコロニテハ敵ハ嘉定、黃渡鎮、爾後南岸ニ出テ白頭巷鎮ニ亘ル陣地ニ拠ルモノノ如ク外崗鎮附近ニハ相当ノモノ集結シアリト

本郷少佐飛行機ニ依ル偵察ノ結果ハヤハリ、青浦及其北方ノ線ニハ敵ハ拠ラサルヘント判断セラルト

「飛行協會」ヲ代表シ慰問ノ為四王天中將來ラル 11 D ハ全正面攻撃進捗シ江橋鎮西方約一結ノ南北ノ線ニ進出

南市ノ敵ハ「クリーク」ニ面シ二十ニ近キ掩蓋 M G 座ヲ設ケアリト（大西參謀輕裝甲車ニ乘リ至近ノ位置ヨリ偵察ス）

10 A 6 D ハ青浦ヲ18 D ハ楓涇鎮ヲ占領セリトモ言ヒ然ラサルヤモ知レス

11 D 左翼ノ攻撃進捗ニ伴ヒ蘇州河南岸9 D ノ最右翼ナリシ田多里及西灣里ニ敵殘存シアリテ背後ヲ射撃スト云フ

◇十一月十一日

四涇鎮ニ追撃セル集成騎兵ハ敵一、〇〇〇ニ遭遇敵ハ屍体500、自動車20、迫撃砲1、手榴彈20箱等ヲ殘シ敗退セリ、7 D ヨリ歩一大、砲一中等ヲ騎兵ト共ニ青浦ニ追撃セシム

陸戰隊ハ四・二〇49 i ハ六・三〇浦東ニ上陸殆ト敵ノ抵抗ナシ

昨夕西原大佐方面軍ニ行キ今後ノ作戰ニ就キ協議結局昆山附近ニ敵ヲ捕捉スルト共ニ常熟蘇州ノ敵陣地ヲ攻略ス其時期ヲ十二月上旬ト予定ス、其他ハ從來通り

10 A ハ重砲揚陸出來ス當軍ノ重砲一聯、輕裝甲二中ヲ轉属スル為先ツ戰車ニ道路偵察ヲ命ス

（昨日午後）

3 D ハ二大隊許リ「クリーク」ヲ渡リ市内ニ進入セリ

浦東ハ殆ト抵抗ナク午前一〇・〇〇ニハ既ニ半ハ近ク進展セリ、正午過ニハ白蓮涇鎮ノ線ニ達シアルヲ飛行機ニテ見タリト、〇・三〇頃所命ノ地点ニ進出セルモノノ如シ

3 D 5 i B ハ掃蕩進捗シ三・三〇頃班路東方道路ニ到ル

6 D ハ本日先頭ヲ以テ既ニ蘇州河ヲ渡河シ師団司令部ハ白鶴涇鎮ニ前進セリト

帝国飛行協會専務理事
孝11期
四王天延

永安倉庫（兵站病院予定ニテ設備セルモノ）失火、布団等焼失、之ハ白崇禧（宗子文？）ノ煙草收納シアリントノコト詳細不明ナリ

方面軍ヨリ青浦及松江ニ到ル道路ノ補修ト当分ノ間6D（国崎支隊ヲ含ム）ノ補給ヲ担任スヘキ命令来ル

夜爾後ノ作戰協議ノ為西原、長ト共ニ司令部ニ到リ結局9Dヲ6Dト共ニ渡河追撃セシメ重藤支隊ハ十三日上陸セシムルコトトシ為シ得レハ11Dヲ適時抽出北方ニ転用スヘキ諒解ヲ得一一・〇〇過帰来ス

◇十一月十二日

6Dノ歩二聯ハ既ニ河ヲ渡リ敵ニ多大ノ損害ヲ与ヘ陸家浜鎮（？）附近ニ進出、11Dハ南翔ノ西側ニ出テ右翼ハ小南翔ヲ奪取追撃ニ移レリ

軍命令ニ基キ10D3D共々本日正午頃ニハ出發追撃シ上陸ハ十三日未明ト決定ス

以上ニ基キ昨夜半要旨ヲ命令シ本朝筆記命令ヲ下達セラル

6D等ハ上海派遣軍ノ指揮下ニ入ラシメラル

軍司令官ハ明日乗艦、依テ代テ本日午後軍艦「大井」ニ乗ル司令部ノ主体ハ從來通、又通信系モ陸上指揮ヲ主体トシアリ、乗艦ノ途次軍司令官及田尻少将重藤少将ニ会フ曇、細雨

◇十一月十三日

屏東丸ノ搭載後レタル為カ第一錨地ヨリノ発動艇ノ出發遅延 本艦ハ四・〇〇出帆

曇リ、月没シテ暗夜ホノボト明ケ初ムル六・三〇頃第一回部隊着岸 左側支隊正面ヲ見得ルノミナリシカ敵ノ迫撃砲弾銃弾相当ニ着岸点ニ落達、途中ノ中洲ニ上陸セル兵百数十名（二ヶ所）其他離列セル発動艇相当ニアリ右翼隊ハ徐六涇口ノ抵抗大ニシテ容易ニ奪取シ得ス一時悲觀的ニ思ハレタルモ結局成功シ重藤支隊ハ午前中位ニ上陸完了シ得ヘシトノ電報支隊長ヨリ

来ル果シテ斯ク迅速ニ行クヤ否ヤ船舶工兵ノ訓練モ十分ト見ヘス

16D先遣ノ梯団ハ昨日午後既ニ吳淞ニ到着シアリテ引キ続キ上陸シ得 但携行スヘキ無線小隊ハ碇泊場ノ考ヘニテ第四梯団ニ廻ハサレタリトテ臨時ニ軍ノ一機ヲ配属スルコトニ変更連絡セリ

海軍電報ニ依レハ昨夜敵火ヲ冒シ黄浦江ノ閉塞ヲ除去セリト、3Dノ南市掃蕩モ略北部マテ完了セルモノノ如シ

一・三〇頃支隊長ヨリノ電報ニテ支隊ハ相当頑強ナル敵ノ抵抗ヲ打破シ第一統制線（堤防ノ線ナルカ如シ）ニ進出本日中ニ梅李、支塘ノ線ニ進出スルノ覚悟ヲ有スト

芳村参謀、物部大佐、鈴木中佐来艦、16Dノ一部ヲ上流島ノ北端ニ上陸セシムヘシトノ意見ヲ具申ス、敵情判断上有利ナルハ論ヲ俟タサルモ上陸後ノ陸上ノ状態偵察不十分ナル為俄カニ同意ヲ表シ得ス一先ツ全般ノ状況ヲ聞ク為其案ヲ西原大佐ニ電報スルト共ニ飛行機偵察ヲ重ネテ要求ス（此偵察ト云ヒ、中洲ノ問題ト云ヒ予メ注意シタルトコロナルモ予モ強ヒテ其実行ヲ督促セサリシハ後手ナリ、水上機動ノ為ノ舟ノ蒐集モ同様ノ結果トナルヘシ、参謀ニ対シテモ更ニ強ク其実行ヲ要求セサレハ真剣ニナリ難キモノナラン）

三・三〇頃出発（芳村、物部、鈴木帯同）せいろん丸ノ16D長中島中将ヲ訪ヒ上記ノ案ニ就テ研究ヲ望ミ尚軍司令官乗船後來船ヲ希望シ五・三〇頃帰艦 当面ノ状況不明ナルモ徐六涇口西側ニテハ五・〇〇頃尚銃砲声相当盛ナリ、主力方面皆目不明

飛行機ノ偵察ニ依レハ重藤支隊ハ六・〇〇頃河岸ヨリ七、八結ノ線ニ進出セリ 又軍主力方面ハ10Dハ午前一一・〇〇頃嘉定ヲ占領11Dハ其南方地区ヲ追撃中、方面軍ヨリノ通報ニ依レハ太倉附近ニハ午後三・〇〇頃尚多数ノ部隊アリ 蘇州―無錫間ニハ多数ノ「ジャンク」アリ 昆山―蘇州道ハ150機ノ飛行機ヲ以テ退路遮断ヲ行フカ故ニ上陸セル軍ノ一部ヲ以テ速ニ太倉―常熟道ヲ遮断セラレタシト

以上ニ依リ一・〇・三〇頃次ノ如ク決定下命セラル 重藤支隊常熟附近占領後蘇州西南方ニ於

テ退路遮断、16 D 重藤支隊ノ左側地区ヲ常熟方面ニ前進シ次テ常熟―蘇州道ニ沿フ地区ニ於テ退路遮断スヘシ（二神参謀せいろん九ニ赴キ伝達セリ）

◇十一月十四日 申分ナキ好天気

軍主力ノ追撃ハ太倉昆山ニ迫リアリ、重藤支隊ハ昨夜一・〇〇頃梅李―支塘道上其中間地点ニ進出、本日午前16 D 参謀ノ海軍機ニ依ル偵察ノ結果 梅李ハ火災ヲ起シ味方ラシキ部隊同地西南方約二結ヲ常熟ニ向ヒ前進中ナリ

支塘ニ向ヒタル佐藤支隊ノ進出ハ稍後レアルカ如ク（重藤支隊正面ニハ14師アリ）之ニ続ク16 D 野田部隊ハ本朝前進開始、砲兵ハ本日午前ヨリ揚陸開始、

発動艇約百ハ昨夜当方面ニ到着、

10 A 方面ハ嘉善ヲ攻撃中ニシテ之ヲ包囲シ敵ハ嘉興方向ニ退却中、本朝16 D 参謀ノ偵察ニ依レハ二、三十名ノ敵群ハ支塘―常熟道ヲ数団ニナリテ退却中、湖上及常熟―無錫間ノ「クリーク」ニハ民船甚タ多数アリ

常熟ノ陣地ハ同地東側ハ數線ニ設備シ交通壕モ完成シアルモ常熟、福山堤防ニハ設備見エス（現存スヘキモ）其東方約一・五結ノ「クリーク」ノ線ニハ点々陣地ヲ見ルト

近藤司令官ニ絶大ノ努力ニ対シ御礼ノ為「北上」ニ行キ帰ル

軍司令官ヨリ一步先ニ午後二・〇〇發陸上司司令部ニ帰還 午後二・〇〇「ひよどり」ニテ帰航五・三〇大連碼頭ニ着帰ル

本日ハ11 D 太倉ヲ占領続テ追撃、13 D モ其右側ヲ西北進、6 D ハ昆山ノ間近ニ迫リ9 D 又之ニ協力、3 D、10 D ハ太倉附近ニ集結、重藤支隊ハ梅李奪取

敵ハ其密電ニ依レハ混乱シ南京ニテハ何レノ隊カ何処ニ在リヤ不明ナル為之ヲ知ラセトアリトノコト

18 D ハ嘉善占領、23 i ハ平望鎮ヲ占領一部ハ更ニ北進セリ、此勢ニ乘シ南京迄追撃セサルヘ

カラス

◇十一月十五日

早朝、飛行機報トシテ6 D ノ一部ハ昆山西方ニ進出、敵ハ橋梁軍需品ヲ焼キツツ退却、蘇州マテハ真面目ノ抵抗ヲナササルモノ如シ、6 D 司令部昆山停車場、9 D 司令部安亭駅ナリ、

臨参命ニテ鉄道聯隊（二大欠）陸上輸卒隊建築輸卒隊自動車中隊等ヲ増加配属セラル

重藤支隊ハ既ニ常熟ヲ占領セリト伝ヘラル（常熟ハ誤リ古里村ナリ）戦車ノ一部ハ既ニ支

塘鎮ニ進出統テ常熟ニ前進11 D 13 D ハ齊頭面ニ在リテ本朝支塘鎮ノ真近ニ迫リアリ

正午前久邇宮朝融王殿下（少佐）台臨、軍司令官ハ本日午後一・〇〇上海着ナルヲ以テ代テ御迎ヘス午後一・二〇御出發

第一第二課共ニ此機ニ乘シ南京ニ追撃スルヲ可トスル意見ニテ是非実行セサルヘカラスト思惟ス

9 D 司令部ハ昆山東南端6 D 司令部ハ同停車場各一部ヲ以テ敵ヲ追撃中 13 D ハ正午頃先頭支塘鎮、11 D ハ主力ノ先頭支塘東方（四・〇〇頃）、歩砲兵ノ一部隊ハ支塘ヨリ古里村ノ間ニ在リ 敵ハ今日尚蘇州常熟ヨリ無錫方向ヘ後退中、何応欽部下ノ言ニ依レハ支那軍内部ハ大混乱、雜軍ハ此機會ニドシドシ退却中ナリト

二・〇〇頃軍司令官方面軍司令部ニ歸ラレタルヲ以テ第一第二課長、副長、櫛田少佐ト共ニ行キ今後ノ作戰ニ就キ研究、本朝司令官ハ情況ノ變化ニ応シ本道方面ニ使用スル如ク一旦命令セル16 D ヲ河岸方面ニ使用スル如ク変更命令セラレタルヲ以テ本日午前下シタル要旨命令ト甚シキ相違ヲ生シタリ 依テ明朝實際ノ態勢ヲ見定メタル後更ニ命令スルコトトス

西原復タ憤慨シナダメ役

四・〇〇重藤支隊ハ敵ノ抵抗ヲ打破シツツ常熟東側ニ迫リ攻撃続行中トノ報ニ接ス

6 D ト9 D トハ共ニ昆山ニ出テ蘇州占領ノ先陣争ヒヲスルカノ如ク見ヘ居リシモ本夜6 D 参

謀長ヨリ西原へ電話ニテ到底蘇州ニハ行ケヌ兵ハヘトナリ早ク10Aニ帰リタシトノコトニテ方面軍ニ連絡シ明日其命令ヲ下サルコトニ協定ス

9Dモ一師団ニテ蘇州攻撃ハ出来ヌト称シアリ

本日午後ノ命令、二途ニ出テタル件ハ軍司令官モ心配セラレ塚田少将ト相談結局後ノ命令通り実行セシムルコトナリワザワザ武藤大佐ヲ使ニヨコサル

武藤ニ情況ニ依リテハ南京ニ行カサルヘカラサルヲ主張シタルモ同意セス種々ノ事情アルヘキモ納得出来ス

◇十一月十六日

9D正面ノ敵ハ昨夜退却直ニ追撃ニ移リ今頃ハ昆山ノ西方一里位ニハ前進シアルヘク重藤支隊正面ニテハ捕虜600遺棄屍体500山砲四門ヲ獲タリ

6Dハ10Aニ復帰ヲ命セラリ

我前面ニ表ハレタル敵ノ師団数ハ最高七十五ニ達セリ

浦東ノ149i及片山少将ノ南市部隊ハ方面軍直轄トナル、11Dハ支塘ノ西北方ニ集結之ニ対シ有力ナル一部ヲ以テ為シ得レハ水路ヲ利用シ常熟―蘇州道ノ遮断ヲ命ス、3D(片山支隊欠)

101D(佐藤支隊欠)ヲ方面軍直轄トス 9Dハ更ニ前進シ十五連ヲ奪取(昆山西方約六軒)

武官室報、敵ノ第一線ハ呉福陣地、第二線ハ江陰、無錫ニテ広西ノ二ヶ軍五六万、彈藥欠乏シアリ、南京ハ警戒敵重ナルモ上流ニ逃避ノ準備ヲナシアリ

海軍ヨリノ通報ニ依レハ16Dノ一部ハ福山ヲ占領セリ

10A18Dハ嘉興ヲ包囲シ114D亦平湖ヲ北方ニ迂廻シツツアリ本夜アタリ敵ハ退却セサルカ夕刻ヨリ天氣良キ方ニ向ク

十一月十日マテノ死傷概数(重藤支隊ハ六日迄、爾後十日迄変化ナシ)(計算違イ訂正)

藤田	山室	伊藤	吉住	荻洲	重藤	總計	戦死		戦傷		合計	
							將	准以下	計	將		准以下
(九七)	(八四)	(四〇)	(六二)	(八四)	(一二)	(三七九)						
三、〇九七	二、九五五	八三九	一、五五二	九三九	三一五	九、六九七						
三、一九四(二二二)	三、〇三九(一八九)	八七九(一六八)	一、六一四(一八七)	一、〇二三(一三一)	三三七(一二)	一〇、〇七六(九一九)						
八、七四四	五、九〇一	三、七八二	七、五六五	四、〇三三	九二二	三〇、九四七						
八、九六六(一一二、一六〇)	六、〇九〇	三、九五〇	七、七五二	四、一六四	九四四	三一、八六六						
九、一二九	九、一二九	四、八二九	九、三六六	五、一八七	一、二七一	四一、九四二						

◇十一月十七日

今日モ曇リ雲低ク時々小雨

同盟通信ノ上海ヘノ電報ニハ常熟ヲ占領セリトアリ真実ナルコトヲ望ム

6D指揮下ヲ脱シ10Aニ青浦ヲ経テ復帰スルコトナリシヲ以テ參謀長ニ対シ其善戦ヲ感謝シ置キタリ

10A第三課長谷田大佐御礼ニ来部

武官室報ニ依レハ南京政府ハ外交財政部等ヲ漢口ニ鉄道(交通)ヲ長沙ニ引キ上ケ南京ハ軍政府ノミト為スモノノ如シ

先日来蘇州ニ集合シアリシ敵將領ハ常州辺ニ後退セリ 之レ或ハ江陰、無錫ノ線ノ配備稍整フ兆候見ヘタル為カ、3D参謀長来部、

常熟占領ハ十七日ノ内地新聞ニモ出テ居ルカ誤リ、福山モ誤リ

本日海軍報トシテ荻州部隊謝家橋鎮附近ニテ敵陣地ヲ突破シ西方ニ前進中トアリ或ハ真カ通信連絡極メテ悪ク後方補給モ10Aノ根拠地ヲ上海ニ移シタルト白茆口方面上陸ノ為(重藤

支隊ノ後方部隊等本日モ尚砲台棧橋ニテ乗船中)甚タ困難、道路ハ例ニ依テ往復ノ車馬テ身動キナラサル状態ナルカ如シ

13Dヨリ重藤支隊ノ無線ニ依リ正午謝家橋鎮ヲ突破シ所命ノ方向ニ追撃セントストノ報告来ル

王浜飛行場修築ノ為該地飛行隊ハ竜華ニ移転ス

◇十一月十八日 今日モ曇リ然シ風向北西トナリ恢復ノ兆アリ

9Dハ敵既設陣地ノ第一線呉義鎮、田都里ヲ占領セリ

6Dハ本朝八・〇〇崑山出発10Aニ復帰ス。〔注…このあと死傷概数、後記〕

重藤支隊長ヨリ前面ノ陣地ハ「トーチカ」多数アリテ容易ニ突破シ得ス、一兵团ヲ北方ニ上陸背後ニ指向スルヲ切要ト認ム、現在支隊配属ノ部隊ハ全部同兵团ニ配属換ヲ可トストノ意見具申来リ其後數時間ニ同支隊中央隊(台歩一)ハ敵線ヲ突破シ「クリーク」西側ニ出テ戦果擴張中トノ電報来レリ、9Dハ本日更ニ前進蘆巷、孫涇巷ノ線ニ進出セリ

軍司令官午後二・〇〇頃帰ラレ四・〇〇過方面軍司令部ヘ行カル 明後日頃新軍司令部ヘ来ラルル筈

参本河辺大佐来部

夜ニ入り13Dヨリ猛攻ノ結果午前一一・三〇謝家橋鎮ヲ奪取シ本夕マテニ港口鎮ノ線ニ進出セントスト報告来ル

9Dハ本日更ニ二線ノ敵陣地ヲ突破シ蘇州東方七、八結ニ近迫シアルモノノ如シ(旅団司令部ハ唯亭鎮ニ進ム)

◇十一月十九日 昨夜ハ天氣良クナリソウニ見ヘタルモ本日又風雨

11Dハ第一線ノ戦況進展シタル為機ヲ失スル虞アリトシ先ツ一大隊ヲ水路出発セシメタリト(昨夕五・〇〇下令)

軍司令部ノ古里村移転ハ司令部位置モ悪ク、道路閉塞サレタルコト本未明ニ至リ判明シ一部ノ人員ノ先遣ニ止メ一時見合スコトトセリ

軍司令官ハ本日午後武官室ニ於テ伊大使ト会見サル

竜華飛行場ハ地雷埋設等ニテ使用出来ス再ヒ王浜ヘ帰レリト、此話モ誤リニテ結局戦*、輕各

一中隊ヲ移ス由、公大飛行場ニ於テ目下10Aニ配属中ノ河村中隊陸軍機帰還着陸ノ際復タ海軍機ニ追突、出発セントシアリシ海軍ノ優秀ナル飛行大尉ヲ即死セシメ両機共大破セリト告別式モ済シタル今日漸ク電話報告アリ

重藤支隊ハ十八日夜半主力ヲ以テ常熟西北側高地ヲ奪取セリトノ電報来ル

夕刻飛行機ノ見タルトコロニ依レハ重藤支隊ハ山ヨリ常熟城ノ方向ニ安タト進入シツツアリ、荻州部隊ハ堤防ヨリアマリ進出シアラス

18Dハ嘉興ヲ占領、平望鎮ノ23iノ一大隊ハ湖州トノ中間南潯鎮ニ躍進、国崎支隊代テ平望鎮ニ入レリト

花谷支隊ハ上陸セルカ如ク更ニ天谷少将ノ指揮スル22i山砲二中ヲ基幹トスル部隊ヲ昆城湖西岸ニ上陸セシムト

戦は戦闘機、輕は輕爆撃機

◇十一月二十日

荻洲部隊ノ報告ニ依レハ敵ハ本晩二・〇〇動揺ノ色アリ師団ハ直ニ追尾追撃ス
重藤支隊ノ常熟西北方高地占領ハ其後大西參謀ヨリノ電報ニ依ルト稍疑ハシキ節アリ
16 Dハ「トーチカ」六個ヲ奪取常熟東側ニ迫ル、13 D、重藤支隊正面総テ「コンクリート」
製「トーチカ」多数アリ

10 Aハ南京ニ向ヒ各兵团ニ追撃ヲ命ス昨夜ノ位置、18 D南潯鎮、国崎支隊其西方、14嘉興、
6 D松江

一〇・四五蘇州ヨリ帰来セル朝日記者ノ言トシテ蘇州ハ概ネ我軍占領セリト 9 Dトノ通信
杜絶シアルヲ以テ或ハ然ラン

十一月十日迄ニ敵ニ与ヘタル損害概数、()内ハ十一月七日方面軍司令部ノ指揮ニ入りタ
ル後ノ分、之ニハ10 Aヲ含ム

屍体八一、〇〇〇(一〇、〇〇〇)捕虜一、〇〇〇、小銃一四、二〇〇(四、三〇〇) L^{*}
g一、九〇〇(二五〇) M^{*}G四八〇(二六〇) 迫撃砲七〇(六) 山砲四(四) 野砲一〇(一〇)
手榴弾一七、六〇〇(二五、〇〇〇) 迫撃砲弾一〇、一〇〇(九、五〇〇) 榴弾砲七(七)
小銃彈 M^{*}G弾二七三、〇〇〇(七三九、〇〇〇) 山砲弾三、八〇〇(二、六〇〇) 毛布六、
〇〇〇 米一五〇石

9 Dハ昨日午前六・〇〇奇襲ニ依リ蘇州ヲ占領九・三〇入城目下大体ノ掃蕩ヲ終リ旅団長ノ
指揮スル歩兵三大隊ヲ基幹トスル部隊ヲ以テ無錫ニ向ヒ追撃中(電信電話不通ニテ本日正午過
漸ク判明セリ)

一〇・〇〇〜一〇・三〇飛行機報13 Dノ先頭縦隊ハ渚口鎮西方重藤支隊ハ常熟西北方王巷、
16 Dハ夏斜橋附近ヲ追撃中、花谷支隊ハ一中隊ヲ莫城鎮ニ残シ主力ハ其西南方戴家浜附近ノ敵
攻撃中

L^{*}gは輕機関銃、M^{*}Gは重機関銃

別ニ飛行機報ニ依レハ敵ハ常熟蘇州ヨリ無錫ニ退却中ナルノミナラス無錫ヨリ自動車及徒歩
ニテ西方ニ退却中、

謀者報ニ依レハ蔣ハ自ラ三十万ヲ指揮シ磨磬山山系ヨリ湖州海寧ノ線ニ於テ拒止セントシア
リト

此状況ニ基キ方面軍ニテモ無錫攻撃準備命令ヲ止メ攻撃命令ヲ下セリ、參謀長ニ電話ノ結果
9 Dハ井出少將ノ三大隊ヲ追撃セシメ一部ヲ常熟ニ向ケ連絡セシム、日本領事館ハ一中隊ニテ
占領無事 師団主力ハ昨夜ヨリ本朝ニカケ集結、後方ハ全ク放擲シアルヲ以テ暫ク此集結ヲ待
タサルヘカラス 水上機動ハ既ニ準備ニ着手シアリ

将来ノ作戦ニ就キ相談ノ為西原方面軍ニ行ク、要ハ上海軍ニ無錫ノ攻略ヲ命シタルモ之ハ敵
カ退却スルコトヲ前提トシテノ命令ナレハ陣地堅固ナレハ攻撃準備ニ止ムヘシトノ軍司令官ノ
考

6 Dノ太湖渡航作戰ハ方面軍ニテ海軍ノ協力ノ下ニ大々的ニ行フ 9 Dノ為ニハ大発10、小
発20ヲ貰フ、之ニ依リ明日彈藥、馬糧、醬油、蹄鉄等ヲ送ル

重藤支隊モ補給統カス甚タ困リアルカ如ク先頭ノ1 i^{*}ノ為ニ乾パン三日分ヲ飛行機ニテ投下
サレタシト要求シ来ル

◇十一月二十一日 氣温下リタルモ風雨強シ正午前ヨリ稍快復ノ兆

*井出ノ率ユル9 D追撃隊ハ昨夜十時望亭(無錫東南約十五里)ニ達シ「クリーク」北岸ノ敵
ヲ攻撃中 其他ノ部隊ノ昨夕ノ位置ハ常熟西方十二、三里ノ線ナリ

今日ハ飛行機モ飛ハス各方面ノ状況不明、天氣ハ依然トシテ悪シ、東京ラヂオニテ無錫奪取
ヲ報シタリト

1 iは台灣歩兵第1聯隊

歩兵第十八旅団長 井出宣時少將
21期

◇十一月二十二日 北東風強キモ快晴氣モ心モ晴々シ

13 D 昨日北涇鎮、南国ノ線ニ進出、其鹵獲命令書ニ依レハ敵ハ二段ノ收容陣地ヲ設ケ無錫ノ線ヲ捨テテ西方ニ退却スルモノノ如ク本朝飛行機報ニ依レハ約二千ノ敵ハ無錫ヨリ鉄道ニ沿ヒ退却中ニテ常州ヨリ南京ニ向ク一列車ヲ認ムト

長中佐ヨリ敵ノ国防方針及南京攻略ノ為ノ地形判断ヲ第一課ノ者全員ト共ニ聞ク

昨夜田尻少将来訪後方補給注文ノ如ク成ラサル諒解ヲ求メラル之ニ対シ第一線師団ニハ小舟艇ノ必要ヲ述ヘ後第三課長寺垣中佐ニ蘇州河附近ノ民船ヲ強制徴発スヘキヲ伝フ(田尻少將ハ穩カナル手段ハ尽シタルモ目的ヲ達セストノコト故)何レニスルモ後方補給ハ舟艇及勞力不足ノ為意ニ任セサルモノノ如シ

軍票到着シ布告ト共ニ之ヲ使用スルコトス(対支那人)

10 A 国崎支隊ハ湖州東方約10結ノ敵陣地ヲ攻撃中ナリト

二・〇〇何等ノ正式報告ナキモ同盟通信ノ電報ニ依レハ本日午前一〇・三〇我軍無錫ニ入城セリト

101 D 參謀長将来第一線ニ使用サレタシト来部

一・三〇前後ノ飛行機報、13 D 司令部ハ昨日同様顧山鎮16 D 司令部查家橋(無錫東方約10 k)第一線ハ無錫東方四杆位鉄道線ニ沿フ部隊ハ正午頃周涇巷(無錫東南約七結)無錫―常州道ハ其常州ニ近キ処ヲ群ヲ成シテ退却スル敵ヲ見ル江陰ヨリ西ニ或ハ南ニ向クモノ、無錫ヨリ北ニ向フモノヲ認ム

16 D 11 D 及 9 D ノ一部無錫ノ前面ニ迫ル、常州ヘノ追撃ヲ命ス、軍司令官ハ本日勅語書到着ニテ特ニ感慨深く断乎タル追撃ニ不同意ノ様子ナルモ全般ノ態勢上今一步追撃ノ手ヲ緩メ難キヲ以テ責ヲ負ヒ之ヲ下令ス追撃ハ常ニ此情ヲ断チ斬ル鬼心ヲ要ス
勅語ハ本日飛行便ノ新聞ニ在リ感慨無量

二十日大本営ヲ設ケセラレタルコトモ新聞ニ依リ知ル畏シ我カ大本営設置ノ優詔下賜ト蔣政權ノ重慶落カ同シ日(十一月二十日)ナノモ皮肉ナリ

◇十一月二十三日 新嘗祭、今日ハ復タ曇リ雲相当ニ低シ寒シ

13 D モ稍補給ノ途ツキタリト見ヘ前進ヲ開始、9 D ノ一部ハ敵ヲ撃破シ無錫ニ向ヒ急進中ナリ

一・〇〇ヨリ軍司令官ノ勅語伝達式、正午前ヨリ会食軍司令官ハ勅語拝読ノ時モ会食時ノ挨拶ノ時モ泣イテ詞出テス、其心情察スルニ余リアリ、将来ノ作戦ニ就キ(南京攻略ノ)軍司令官ノ意圖ヲ承リ吾々ノ希望(方面軍ニ対スル)モ述フ

3 D、9 D、11 D ニ対スル感状案及訓示ノ起案ヲ命セラレ

徳川義親侯ヲ团长トスル貴族院議員慰問団来部

大陸命第一号ニテ飛行場設定隊ヲ第三飛行団ノ編制ニ入ラシメラル

井出旅団司令部ハ無錫東南約二結李巷上ニ在リトノ電話アリ

今日ハ天谷支隊カ井出部隊ノ左ニ出タ外大シテ前進シテ居ナイ

福原豊三少將兵器部長(上海派遣軍ノ)タルノ書類来ル(今日モ定期飛行機ハ来ル)冬シヤツ、冬外套ニ改ム

昨日今日ハ飛行機ニテ前線ヘ彈藥、調味品、蹄鉄等ヲ送ル、昨日内地ヘ輸送機ノ配属ヲ希望ノ電報ヲ出ス

◇十一月二十四日 今日ハ誕生日、珍シク快晴

長中佐武官室ト連絡ノ結果青班ノ太湖ニ於ケル謀略ハ成功、6 D ノ渡航、糧秣輸送並無錫、常州後方攪乱等ヲヤリ将来ハ之ヲ根幹トシ舟運網ヲ構成スル筈、

白崇禧ハ連絡トレ居ルモ尚彼カ何等カノ手段ニ依リ南京ニテ政權ヲ取ルト云フダケラシク日

勅語

上海方面ニ作戰セル軍ノ將兵ハ克ク海軍ト協力シ障礙ト抵抗トラ擠排シテ敵前上陸ヲ敢行シ交錯セル深濠連続セル堅塁ノ間ニ勇奮激闘果敢力行寡兵能ク敵ノ大軍ヲ撃破シ以テ皇威ヲ中外ニ宣揚セリ朕深ク其ノ忠烈ヲ嘉ニス其ノ敵彈ニ墮レ病瘴ニ仆レタル者ニ思ヒ及ヘハ惻愴殊ニ深シ
惟フニ派兵ノ目的ヲ達シ東洋長久ノ平和ヲ確立セコムト前途尚遠遠ナリ爾等益々志氣ヲ淬厲シ艱難ヲ克服シ以テ朕ノ信倚ニ対ヘヨ

奉答文

中支那方面ニ於ケル作戰ノ成功ハ偏ニ御稜威ノ然ラシムル所ナリ今國ヲスモ將兵ノ忠勇ヲ嘉賞セラレ優渥ナル
勅語ヲ辱ウス寔ニ感激恐懼ニ堪ヘサル所特ニ戰歿傷病者ニ対スル聖慮ヲ拝シ感泣措ク所ヲ知ラス
臣等益々奮奮渾屬畏ミテ聖旨ヲ奉テ誓テ前途ノ万難ヲ克服シテ皇軍ノ威武ヲ顯揚シ以テ宸襟ヲ安ンシ奉ラムコトヲ期ス
右謹ミテ奉答ス

昭和十二年十一月二十二日

中支方面軍司令部

陸軍大將
松井石根

下ノトコロアテニナラサル如ク感セラレ

上海ノ自治政府ハ目下適當ノ人物出テ来ラス浦東ノ宣撫工作ハ順調ニ進ミアリト

一〇・〇〇前、方面軍司令部ニ行ク 南京攻略ノ場合ノ作戰方針ノ研究ナリ、當軍トシテハ江北ニ作戰セシムヘキ時機及其渡河点ハ尚今後ノ研究ニ俟ツヘキモノアリ 10 A ニテハ杭州攻略カ問題(軍司令官此攻略ハ相當大ナル意義アルヲ以テ南京攻略前又ハ同時ニ実施シ度考)、尚當軍ノ江陰要塞ヲ封鎖ニ止ムヘキヤ攻略スヘキヤモ未定、概シテ敵ノ抵抗次第

運動場市政府ヲ一巡シテ三・〇〇頃歸リ四・〇〇稍過移転ノ為出発 八・三〇頃古里村南方二結位ノ地点ニ到着セルモ砲兵自動車ニテ道路閉塞且常熟南側ノ橋梁戰車通過ノ為再ヒ壞レ何時ニナレハ交通整理シ得ルヤ予想着カサル為廻航セラレタル發動機附和船ニ移乗「クリーク」ヲ城内ニ入ル月光ノ下ニ古城壁ヲ眺メツツ戰火ニ破壊セラレタル城外ノ部落ノ間ヲ舟航、今尚盛ニ燃ヘツツアル家モアリ 荒城ノ月ノ風情多ク又富裕ノ町モ一度戰禍ニ会ヒ慘怛タル有様ヲ思ハシム 司令部ハ縣庁、城内ハ主要道路敷石舗装 自動車ヲ通ス

◇十一月二十五日

快晴

朝ヨリ快報ヲ聞ク 即 10 A 湖州占領、11 D ハ攻撃大ニ進捗シ無錫ニ迫リ 16 D 亦右翼隊ハ既ニ追撃ニ移ル 次テ天谷支隊ハ八・〇〇無錫ニ進入掃蕩中ノ報告来ル 9 D ノ湖上機動ノ実施、全力ノ常州ニ向フ追撃、16 D ノ同追撃、11 D ハ一部ノ追撃作戰地境ヲ命シ、次テ 13 D ハ南正面ヨリ集成騎兵ハ東正面ヨリ江陰要塞封鎖、13 D ハ攻略準備ヲ命ス

飛行機ノ報告ニ依レハ句容南北ノ線、江陰要塞東及東南陸正面陣地構築中

諜報ニ依レハ蔣介石ハ二十一日江陰、無錫、湖州、海寧ノ線ノ死守ヲ命シタリト 鎮江ノ防禦設備ハ中止セリト 敵ノ戰闘機輕爆機若干ハ南京ニ主力ハ漢口ニ集中セリト 先ニ北島參謀ニ注意シタル如ク敵ハ今後空襲ヲ実施スルナラン

16 D ハ全力ノ追撃ヲ命シタルモ実情ハ未タ全部ノ揚陸完了セス(荒天、霧ノ為揚陸作業不可

能ナリシ日約五日トノコト)野砲ノ如キハ本日尚三門到着陣地ニ就キアリシノミナリ(本日夕迄ニハ更ニ増加スル筈) 福山ハ水深淺ク根拠地ト為シ難シ 許浦鎮ヲ可トス 同地ヨリ常熟マテノ水路モ良好ナリ 然レトモ此一個所ヨリ三ヶ師団ノ常統補給ハ甚タ困難ナリ

通信亦本日、尚第一線ト通セス(無線ハ通ス)

◇十一月二十六日

快晴

9 D ニ追撃ヲ命セラレ同師団ノ實施シアリシ蘇州ノ宣撫工作ハ取り敢ヘス二課ノ藤木囑託以下四名ニテ繼續宣撫ヲ實施セシムルコトトシ本日同地ニ到ル

飛行隊偵察ノ結果ヲ綜合スルニ敵ハ南京周辺、句容溧水ノ線及磨磬山山系ノ三線ニ防禦設備中ナルモノノ如ク現在ニテハ各線ノ主要部落附近ノミニ實施中ナルカ如シ

岩仲戰車大隊長来リ何所カニ使用シクレトノコト江陰攻略ニ協力セシムル考ナルヲ述フ、又好機ニ南京急襲案ヲモ話ス

芳村參謀本日復方面軍ニ行キ次期作戰ノ研究準備

管理部長人見大佐ハ二十二日附 19 i 長ニ転補其後任ハ 3 i 附川勝中佐、現 19 i 長下枝大佐ハ不明

常熟―蘇州道ハ兎モ角モ自動車ヲ通シ得且現在地ニテモ第一線兵団トノ連絡ハ不良ナルヲ以テ二十八日ニ蘇州ニ移転スルニ決ス(侍從武官二十九日来部ト定マル)重藤支隊ハ本日其第一線ヲ以テ無錫―江陰道ノ東方七、八結ノ線ニ集成騎兵ハ敵ヲ撃退シ揚舍營ノ西方ニ進出(13 D ノ進出線不明)、16 D ノ一部ハ無錫ノ西北側ニ出テタルモ無錫城内ノ敵頑強ニ抵抗シアル為 16 D、天谷、花谷兩支隊ニテ掃蕩中、軍砲兵亦無錫ノ北側ニ進出シアリ 9 D 主力ハ望亭附近ニ進出

方面軍命令ニテ上海附近ヨリ退却セル敵ハ尚南京東方区地ニ在リ之ヲ撃滅スル目的ヲ以テ無錫、湖州ノ線ニ於テ次期作戰ヲ準備セントス、10 A トノ作戰地境ヲ定メ来ル、又敵カ広徳附近

岩仲義治歩兵大佐(戰車第1大隊長)

歩兵大佐 人見秀三 23期